

柴井町・宇田川町(○)以上市内芝區ニ匹敵スル死者ヲ生ジタルナルベシ。果シテ然ラバ、此方面ニ於テ百名内外ノ武家死者ハアリシナランカ。日本橋(○)市内ニハ數ヶ處ニ武家屋敷アリ。多少ノ被害ハアリシナラン。京橋(○)市内ニ於テハ、築地(○)市内京橋區)ノ殆ド全部武家屋敷タレバ、被害モ亦多カリシナルベク、上柳原町・南飯田町・明石町(○)以上市内京橋區)十軒店(○)市内日本橋區)南小田原町(○)市内京橋區)等ノ僅ノ民家ニ於テモ、死者十四人ヲ算スル位ナリシテ以テ、面積更ニ之ニ幾十倍セシ武家屋敷ニ於テハ、死者ノ數恐ラクハ百内外ニ上リシナルベシ。本所(○)市内(深川(○)市内)ノ地、南部ハ武家ト民家ト相錯綜シテ、略ボ同地積ヲ占ムルモ、北部ハ前者ノ方後者ニ十數倍セリ。故ニ死者ノ數ハ、少クモ民家ノ分ニ匹敵セシナルベク、四分ノ一ト見テモ五百人位ノ數トナル。殊ニ火災モ神田(○)市内)方面ノ武家屋敷ニ起リタルト同程度ナリシテ以テ、死者ノ數モ之ニ讓ラザリシナルベシ。前記本所一ツ目・三ツ目・菊川町(○)市内)ニ於ケル武家ノ死者十九名ノ如キハ、唯何等カノ緣故ニヨリテ摘記セラレタルノミナラン。次ニ武家屋敷ノ集團ハ、下谷御徒町(○)市内)ナリトス。其ノ面積外神田(○)市内)神田區)ノ町家ニ二倍シ、且ツ火災ヲ起シ、凡ソ其ノ半ヲ燒キタルコトナバ、損害モ増大シタルナルベク、附近ニ於ケル地盤弱キ池之端・御數寄屋町(○)以上市内)下谷區)ヲ除キ、密接シタル湯島下・上野町・北大門町・新黒門町・下谷町(○)以上市内)下谷區)及ビ御成街道ノ東側ニシテ御徒屋敷ノ一角ヲ占メタル松下町代地・山本町代地・相生町(○)市内)ニ於テ、火災ナクシテ六十六人ノ死者ヲ生ジタル位ナレバ、御徒町(○)市内)下谷區)方面ノ死者ハ百ヲ以テ算スベキモノアリシナランカ。淺草(○)市内)ハ北部ニ寺院多ク、南部ニ武家屋敷多カリキ。寺院地借ノ被害ハ、前ニ抄録セリ。南部ノ

町家ニハ格別ノ被害ナカリシ故ニ、武家屋敷モ同様ナリシナラン。是レ即チ元鳥越
(○)市内淺草區ヲ中心トセル古キ地所ナリシニヨルモノナルベシ。其ノ他本郷・小石
川・牛込(○)市内方面ノ臺地ハ、麴町番町・永田町(○)市内邊ノ狀態ニ比スヘキモノナリ
シナルベシ。

四、幕府
應急措置

四、幕府ノ應急措置

大震ニ關シテ幕府ガ執リタル應急ノ措置ハ、大名旗本ニ對スル諸禮事ノ廢止
賜暇諸貸金年賦返濟ノ延期晝夜警戒ノ嚴達等ヨリ市氏ニ對スル火元ノ注意
諸色物價及職人工賃ノ取締淨說流言ノ禁止、震死者埋葬ノ特例及其法事、旗本
家士市民ニ對スル救濟法並ニ復舊工事ニ關スル令達等諸般ノ事ニ亘ル。

(一)武家ニ對シテハ左ノ如シ。

甲、諸禮事ノ廢止 大震ニ依リ、幕府ハ先ヅ大名旗本ニ諸禮事ノ廢止ヲ達ス。即
チ十月三日(○)安政二年(紀元二五〇五年)諸大名ニ對シ、將軍家機嫌伺ノ爲、月番老中ヘノ參邸
ヲ命ズル外、四日(○)安政二年(紀元二五〇五年)十月。大名旗本ニ是年中(○)安政二年(紀元二五〇五年)ノ月次禮事廢
止ヲ示達ス。五日(○)安政二年(紀元二五〇五年)十月。公儀ニ附タル禮事ハ、當分月番ニ赴ク可キヲ令
シ、十二日(○)安政二年(紀元二五〇五年)十月。諸侯ノ老中等ニ震災見舞ヲ贈ルヲ禁止ス。十一月廿一
日(○)安政二年(紀元二五〇五年)十月。將軍家寒中機嫌伺トシテ老中若年寄ヘノ參邸ヲ廢止ス。

(一)武家ニ對シテハ
シテハ
家ニ對
甲、諸
止、禮
事、廢

十月三日(○)安政二年(紀元二五〇五年)中略。

大和守殿(○)久世 御渡即日觸

大目付

昨夜(○)安政二年(紀元二五〇五年)十月二日。地震ニ付、爲伺御機嫌、萬石以上之面々、月番之老中
可被相越い。

但病氣幼少之面々者使者を以可相伺い。

在國在邑之面々者飛札を以御機嫌可相伺い。

十月三日(○)安政二年(紀元二五〇五年)。

十月四日(○)安政二年(紀元二五〇五年)中略。

伊勢守殿(○)阿部 御渡、翌五日(○)安政二年(紀元二五〇五年)十月。觸

大目付御目付

此度地震并大火ニ付、諸向難儀之儀をも被思召ニ付當年(○)安政二年(紀元二五〇五年)中
月次御禮不被爲請、玄猪御祝儀も不被仰出い間、一統不及出仕い事。
右之通、向々い早々可被相觸い。

十月(○)安政二年(紀元二五〇五年)。

十月五日○安政二年(紀元二一五一年)○中略。

大和守殿○久世廣周。御渡翌日○安政二年(紀元二一五一年)十月六日。觸

大目付御目付に

此度地震ニ付、公儀に附ひ御禮事等、當分之内、兩月番に許可被相越ひ。

但兩御勝手に許相越ひ廉も兩月番に可被相越ひ。

右之趣向々に可被相達ひ。

幕府沙汰書

〔附記〕

十八日○安政三年(紀元二一五二年)三月○中略。

備中守殿○堀田正篤。御渡御書付

去年○安政二年(紀元二一五一年)。地震以後公儀ニ付ひ御禮事等、當分之内兩月番に相越ひ様相達置ひ處、最早前々之通、老中若年寄中に可被相越ひ。尤引移不相濟分者不及其儀ひ。

但、兩御勝手掛に計相越ひ廉之、備中守○堀田正篤。伊勢守○阿部正弘。に相越し、本

多越中守○忠徳。遠藤但馬守○胤統。に相越ひ廉之、月番之若年寄に可被相越ひ。

に。

右之通向々に可被達ひ。

柳營日次記

三月○安政三年(紀元二一五二年)。

十月十二日○安政二年(紀元二一五一年)○中略。

大和守殿○久世廣周。御渡即日觸

大目付に

地震ニ付、住居潰れ或は焼失之老中初に諸家より爲見舞音物差贈ひ向も有ひ得共、諸家通も同様災厄ニ遭、莫太之入費可有之事ニ付、此度を爲見舞老中初諸役人等に音物差越ひ儀、聊たりとも一切無之様、諸家之向々に無急度及噂ひ様達之事。

幕府沙汰書

廿一日○安政二年(紀元二一五一年)十一月○中略。

大和守殿○久世廣周。御渡御書付

此度地震并火災ニ付、諸向程遠住居之向も有之、別而可致迷惑ひ間、當年○安政二年(紀元二一五一年)。之万石以上以下之面々も寒中爲伺御機嫌、老中若年寄中に相越ひニ不及ひ。

但万石以上之面々月番之老中に使者を以可相伺ひ。

右之通可被相觸ひ。

十一月二〇安政二年紀元

——柳營日次記

乙、賜

乙、賜暇 十月四日二〇安政二年紀元 罹災諸大名ニ歸國ノ暇ヲ賜ヒ、五日〇安政二年

年〇安政二年 邸第全潰及半潰ノ吏人ニ類焼半減ノ休暇ヲ命ズ。

四月一〇安政二年紀元 中略。

御同人〇阿部 御渡觸同斷日〇翌五

大目付に

諸大名上屋敷地震并火災とも有之ひ間、格別可爲難儀思召ひ間、勝手次第

御暇可被下ひ。

右之趣、萬石以上之面々に早々可被達ひ。

十月二〇安政二年紀元

五日一〇安政二年紀元 中略。

御同人〇久世 御渡觸同斷日〇翌

大目付御目付に

今度地震ニ而家作等皆潰、又者半潰之面々者、類焼ニ而休ひ日數之半減休

丙、金返納
ノ延期

可申ひ事。

但諸向一般之事ニ付、引續相休ひ而者、御用向御差支こも可相成ひ間、申

合割合相休ひ様可致ひ事。

右之通り向々に可被相觸ひ。

十月二〇安政二年紀元

——幕府沙汰書

丙、諸貸金年賦返濟ノ延期 邸宅全潰シ或ハ類焼シタル諸大名ニシテ豫テ幕

府ニ借財有ル者ニ對シ、十月四日二〇安政二年紀元 年賦返濟ノ期ヲ緩ウシ、特ニ是

年二〇安政二年紀元 十二月ハ納付ニ及バザル旨ヲ通達ス。

四月一〇安政二年紀元 中略。

御同人〇阿部 御渡十日二〇安政二年紀元 觸

大目付に

今度地震ニ付、居屋敷皆潰并類焼之面々、思召を以、兼而諸拜借有之分、年賦

上納之儀、年延ニ被成下ひ間、當暮〇安政二年 者上納ニ不及ひ様、其向

々に寄々可被達ひ。

十月二〇安政二年紀元

——幕府沙汰書

職人の料錢、あきもの、價ひ高うすまじきよしを、おほやけより令せらる。されどもなべての職人どもは、金壹分又二分受取り、あきものは、篷、蓆、繩、草鞋に至るまで、よのつねの價の一が二分を増し、故に今月(○安政二年紀元二五一年)十月十六日十七日の間、市中の材木屋荒物屋職人其外家造普請等に携る者共多く町奉行所へ召捕はる。金壹兩に六貫六百錢なりしも、忽ち六貫五百錢になる。錢相場高うすまじきよし、上より兩替屋共へた、ちに命かゝるすぢも時に從ふおのづからの勢ひにて、又とゞめがたき所なりかし。

ト見ユル者即チ是也。既ニ斯ル趨勢ナルヲ以テ、十二月廿五日○安政二年(紀元二五一年)更ニ之ニ關スル命令老中ヨリ出デ、諸物價工賃ニ干涉スルコト愈嚴也。即チ左ニ其令達ヲ掲グ。

世話懸懸市中取締非常取締懸 名 主 共

今夜○安政二年(紀元二五一年)十月二日地震後出火ニ付、市中火之元別而入念、燒殘ひ場所水溜桶其外消防之手當等嚴重ニ相心得ひ様可致ひ。

一、右ニ付而之、諸色直段職人手間賃等引上ひ而之、諸人難儀之筋ニ付、都而實直ニ相心得ひ様可致ひ。若相背もの於有之を嚴敷可及沙汰ひ條、其段精々可申付、猶追々可觸示ひ得共、先其方共々一同に不洩様早々可申通ひ。

十月二日○安政二年(紀元二五一年)十月二日

安政二年卯地震一件

〔附記〕 町奉行ノ巡視。

一、南御奉行

池田播磨守様○頼當月(○安政二年(紀元二五一年)十月二日)○安政二年(紀元二五一年)十月二日二日之夜地震出火ニ付、町々明後六日○安政二年(紀元二五一年)十月二日御順見御座ひ事。

一、鍛冶橋御門々五郎兵衛町、南傳馬町々通町通り、日本橋々室町通り、今川橋、神田鍛冶町通、筋違御門々神田仲町、御成道通り、上野廣小路山下々下谷坂本壹丁目、金杉町、三之輪町通り、同所御本屋敷々御休足。夫々新吉原町、淺草田町通り、猿若町々聖天町、花川戸町、東心し御渡、本所中之郷、番場町、石原町通、回向院々御休足、綠町、相生町、壺川通、四之橋々徳右衛門町、貳丁目、林町、松井町、御船藏前町通り、高橋々海邊大工町、寺町通、八幡前町通り、佐賀町々永代ばし御渡り、箱崎町、湊橋々八町堀、龜嶋町、長島町、炭町々元之通筋之通御通行ニ御座ひ。以上。

右之通り御通行ニ付、往來土瓦等々通行難相成場所々御通行之御差支無之様ニ御取計可被成ひ、此段御達申ひ。以上。

卯○安政二年(紀元一五一年)十月四日。

定世話掛リ 三五八
名 主

北

井戸對馬守様弘御儀者、京橋々新兩替町通り、尾張町、芝口々本芝、麻布、青山、赤坂、麴町、四ッ谷、市ヶ谷邊御願見ニ御通行之御儀ニ御座ハ間是又御達し申上ハ。

卯○安政二年(紀元一五一年)十月四日。

定世話掛リ
名 主

卯○安政二年(紀元一五一年)十月九日寫留本紙向方ニ

當番ニ
市中ニ

伊勢守殿○阿部正弘、東條平左衛門を以御渡。

町奉行ニ

覺

此度地震出火ニ付、材木板類其外諸色等何品ニ不寄高直之趣諸職人人足等ニ至迄手間賃等格別引上ケハ哉ニ相聞ハ。此節之儀故諸色等拂底ニ可有之ハへ共、無謂格別高直ニ賣買致しハ段不届之事ニ。此段早々町中ニ可被申渡ハ。若此後右様之儀有之ハ、少も無用捨早々召捕嚴重ニ可被申付ハ事。

安政二年(紀元一五一年)十月地震一件

十月十二日

○安政二年(紀元一五一年)○中略。伊勢守殿正弘御渡十四日○安政二年(紀元一五一年)十月觸

大目付ニ

此度江戸表地震出火ニ付、材木其外之諸色、商人共より在方ニ注文申遣ハ。元直段成丈下直ニ賣出、運賃等決而引上げ申間敷ハ。若無謂高直ニ致しハ者於有之者、可爲曲事者也。

右之趣、御料者御代官、私領者領主地頭より不洩様可相觸ハ。

右之通可被相觸ハ。

十月○安政二年(紀元一五一年)

幕府沙汰書

町觸

此度地震出火ニ付、諸色直段并職人手間賃等引上申間敷旨、去ル二日○安政二年(紀元一五一年)十月申渡置ハ通堅相守、板材木類を始日用之品潤澤方之儀厚心掛可申ハ。尤商人共在方ニ注文申遣ハ、元直段成丈下直ニ賣出、運賃等決而引上申間敷旨、在々ニも御觸出ハ間、仕入方等出精致し、世上差支無之様可致、若不正之取計致しハもの於有之者、吟味之上急度答可申付ハ。此旨町中不洩様早々可觸知ハもの也。

卯二〇安政二年(紀元 十月
五一年)

北御番所被仰渡書

町火消、人足頭取共。

此度地震出火ニ付而者、鳶人足其外賃銀引上ケ申間敷旨、追々觸申渡置趣も有之ハ所、町々身元相應之者、家藏修復、燒土片付等致ハ節、其町之抱人足、其外他町住宅之鳶人足相雇ハ得セ、渡リと名付、雇先ハ賃銀絲多リ取、又は賃銀高直ニ致ハ上、雇人數も不足ニ差出、賃銀ニ雇人數高ニ有、右を拒ハ得ハ、難題申掛ケ及不法ハ者共有之、且壹番組、貳番組町々地位も宜、家藏建込ハ故、別而之儀惣組合共セ、町内抱之者限り請負申付ハ而セ、修復其外手遅ニ相成ハニ付無餘儀過當之増錢等差出ハ哉、右體諸人迷惑致ハをも不顧、却而人足共引足兼ハを見込、銘々我儘之働方致、壹人ニ而諸方掛持、一日雇入ハ人足之内半ニ而立戻リ、一日分之賃銀請取、品々手支させハ由相聞、以之外不届之事ニ而、既ニ召捕、當時御吟味中之者、有之、此上心得違致、他所ハ入込ハを差障、或セ過當之賃銀請取者於、有之、嚴重ニ可申付ハ間、其旨厚相心得、其方共より下方之者ハ情々可申聞置ハ。

右之通被仰渡奉畏ハ、仍而如件。

組々人足頭取壹人宛
六拾四人
市中取締掛
名主 共

右之通申渡ハ間、其方共儀も厚相心得、若不相用者有之ハハ、無用捨召連訴出ハ様可致旨奉承知ハ以上。

拾七人連印

右御達申ハ、御支配限行届ハ様御取計可被成ハ以上。

組々世話掛

十月十八日二〇安政二年(紀元
五一年)

震災動搖集

廿五日〇安政二年(紀元二五
五一年)十二月〇中略。伊勢守殿正弘。御渡書付

近年出火打續、燒失之向普請等夥敷ハ處、此度地震出火ニ付而セ、材木類ヲ始、諸色高直商賣いたシ、惣而諸職手間賃銀ニ至迄不法ニ引上、一統及難義ハ趣相聞ハ、諸色之義セ、地震以前仕込置ハ品も可有之、材木其外諸色元直段下直に賣出し、運賃等迄も決而引上申間敷旨、先達而在々迄も相觸置ハ上セ、右體之義セ有之間敷答ニハ、諸職人等セ何れも此節柄故、平常之賃銀

こ而も不怠職業相營ひ得て、夫々相應之潤助に可相成處、諸人之難義をも不顧、一己之利欲に迷、工手間等引上ひ義を以之外之事に依り、必竟時に乘し過分に利徳を可貪所業に而不埒之至に依り、之工手間之義を、早々奉行所に書出し可申ひ。若彼是趣意杯相立、増手間等受取相稼ひ者共を勿論、餘分之賃銀差遣、雇入之ものも有之に依り、其向々迄御沙汰可有之に。前書之通相觸ひ上り、工手間引下ケ不申、諸色高價に商賣致しひもの於有之を、糺し之上急度答可申付ひ條、一同心得違無之様町中不洩様可觸知もの也。

右之通、町奉行に相達ひ間、向々可被相觸ひ。

十二月○安政二年(紀元一五五一年)

柳營日次記

〔參考〕地震珍說集云フ、

諸職人其外材木屋荒物屋御召捕入牢、日々銀廿四匁つゝ、手間賃銀取ひ。二付、卯十一月十六日御召捕入牢、同十八日出牢、同十二月二日過料錢拾メ文被仰付、落着に相成申ひ。

右同斷。

芝西應寺門前丁
大工次郎兵衛
外五人

神田銀治町二丁目
左官伊之助
外兩人

右同斷。

本郷三丁目
屋根や勝五郎

右同斷。

神田蠟燭町
瓦師伊兵衛
外三人

右同斷。

町火消人足貳番組之内子組頭取
箱崎町抱頭薦人足源治郎

杉丸太壹本限四十五匁に買ひに付、右同斷。

神田岸町
材木商賣長治郎
外十人

平日壹わ廿四文うりわら繩を七十二文宛に賣遣しに付、右同斷。

本材木町壹丁目
荒物商賣市兵衛
外三人

卯○安政二年(紀元一五五一年)十月二日之夜地震出火に付、諸人及難澁に付、高料之手間賃銀取申間敷、且諸品共下敷。○高直に賣買致申間敷、旨觸申渡置ひ處、右治郎兵衛其外之もの共儀、高價之手間賃銀并長二郎市兵衛其外、諸品格外上直に賣買致ひに付、南北町御奉行に御召捕、日數三日之間入牢被仰付、出牢之上御預ケ、一統町觸相背、過當之賃銀賣徳ヲ取、不届に付、過料錢拾メ文宛申付、相雇ひもの共義、是又町觸を相背、過當之賃銀差遣ひ段不埒に付叱置。右之通被仰渡、右一件落着に相成ひ事。

安政二卯とし五〇紀元二十二月六日

其二、浮説流言取締

當時道路種々ノ説ヲ爲ス者有リ、震災ニ際シ殊ニ甚シ、市民疑惑ヲ生スル虞アルヲ以テ、十一月七日二〇安政二年(紀元一五一年)老中命ヲ下シテ、嚴ニ之ヲ禁止ス。

七日一〇安政二年(紀元一五一年)十一月〇中略

伊勢守殿〇阿部正弘御渡御書付貳通〇壹

近來免角浮説を立見越之事杯相唱中こそ不容易儀杯も有之哉にて、以之外之事こひ。此度地震こ付而て、猶更其虚こ乗じ、種々之儀を申觸しひ者も不少、依而て衆人疑惑を生じ、金銀取引迄にも差響、不融通之由、猶公儀御救助筋等厚御配慮も被爲在ひ折柄、別而正實に可心掛處、却而心を狂惑爲致ひ始末を、重々不埒之至こひ。以後右様之儀聞ゆるにおゐて、糺之上、嚴重沙汰こ可及條、聊心得違無之様可致ひ。

右之趣町奉行に相達ひ間、爲心得向々にお寄々可被相達ひ。

十一月二〇安政二年(紀元一五一年)

柳營日次記

其三、金銀具賣買取締

十一月七日二〇安政二年(紀元一五一年)地震出火ニ依リテ生シタル燒金銀具ノ賣買ヲ禁ジ、之ヲ金銀兩座ニ提出セシメテ買上ヲ爲ス。

七日一〇安政二年(紀元一五一年)十一月〇中略

伊勢守殿〇阿部正弘御渡御書付貳通〇壹

此度地震こ而所々出火いたし、類燒之者金銀具燒失いたしひ向も有之哉之處、毎々相觸ひ通猥こ賣買不相成筋こ付、金具之分と金座、銀具之分と銀坐に差出しひ得と、品位相改、相當こ御買上ケ相成ひ間、燒ケ金銀所持之向と、武家并寺社市中之無差別金銀兩坐に可差出ひ。

十一月二〇安政二年(紀元一五一年)

柳營日次記

其四、金融ニ關スル諭達

十月十四日二〇安政二年(紀元一五一年)覺書ノ交付有リ。
卯二〇安政二年(紀元一五一年)十月十四日寫方向方差越ス。

當年番市中

町奉行に

覺

今度地震出火ニ付銘々家作類焼潰等ニ而及難儀ハ向も不少ハニ付公儀
におゐても夫々拜借并被下金等も有之諸拜借金之儀も年延等被仰出ハ
間町人共貸金等之儀も都而融通能様厚勘辨致し取計ハ様其方共より無
急度夫々ハ申諭置ハ様可被致ハ事。

安政二卯
年十月 地震一件

其五、變死者埋葬ノ特例

地震出火ニ依リ市民ノ震死焼死多數ナルヲ以テ死骸取片付ニ關スル平時ノ
慣例ヲ破リ特例ヲ設ケテ其法ヲ簡ニス。十月四日○安政二年(紀元
二五一五年)付町奉行ヨリ
老中ニ宛タル之ニ關スル伺書及事決定ノ上町奉行ヨリ寺社奉行ヘノ通知書
左ノ如シ。

其五、
變死者、
埋葬ノ
特例

伊勢守殿(○阿部正弘)

地震ニ付押ニ被打相果ハもの、死骸取計方之
儀ニ付御内慮奉伺ハ書付。

井戸對馬守(○覺弘)。
町奉行

今般地震ニ付市中町人共住居向震潰押ニ被打相果ハ者并潰家及出火
焼死ハもの、數多有之趣ニ相聞申ハ。右體變死之類訴出ハ得テ、双方年寄同

心共爲檢使差遣一通相尋ハ上紛敷儀無之ハ得テ、死骸片付申付ハ仕來ニ
而、目上之もの致變死ハ節セ、目下之もの共吟味之上、不念之廉有之ハ得テ、
咎申付ハ仕來ニ御座ハ。今般之儀セ未曾有之天變、多人數難澁罷在ハ折柄
ニ付、組合名主立合、死骸見分之上、可訴出旨申渡、目上之もの變死ニハ、
訴出檢使可請旨、此度限り別紙之通可申渡哉被存ハ。依之申渡案相添、此段
御内慮奉伺ハ。可然思召ハハ、早々御下知御座ハ様仕度奉存ハ。以上。

十月四日○安政二年(紀元
二五一五年)

井戸對馬守(○覺弘)
池田播磨守(○頼方)

申渡

南
北
小口年番 名主 共

今般地震ニ付市中潰家多押ニ被打相果、又潰家及出火焼死致シハも
の、數多有之趣ニ相聞ハ。天變難澁之折柄ニ付、此度限組合名主立合死骸
見分之上、可訴出ハ。糺之上子細無之ハハ、直に死骸片付可申付ハ、尤目上
之者ニハ歟、子細有之分セ、訴出檢使可受ハ。

但、此申渡以前訴出ハ分セ、檢使可差遣ハ。

右之通、月行事持寺社門前共不洩様早々可申通、尤未曾有之天變、出格之取計
ニ付、平常之儀ニ不混様可心得。

寺社奉行衆

井戸對馬守○覺
池田播磨守○賴

今般地震ニ付、市中町人共住居向震潰難澁之折柄ニ付、押ニ被打相果○阿部ハも
の等死骸見分之儀、一時出格之取計振、別紙之通伊勢守殿○正弘ハ相伺ハ
處、伺之通被仰渡○ハ。右寺院○ハも差響ハ儀ニ付、別紙寫相添、此段御達仕ハ。

卯○安政二年（紀元一五〇五年）十月

井戸對馬守○覺
池田播磨守○賴

安政二卯地地震一件

〔附記〕

十月六日○安政二年（紀元一五〇五年）本所内。市回向院上書シテ、市中ノ震死者中引取人無
キ者ヲ回向料ヲ受ケズシテ埋葬センコトヲ請ウテ許サル。

安政二卯年○紀元一五〇五年十月六日申渡寫

申渡

乍恐以書付奉願上○ハ。

一、今般御府内大地震ニ付、於町々押潰ハ者數多有之趣承知仕、歎ケ敷奉
存ハ。依之右死去之者引取人無之分セ、其町々ハ愚院ハ相送りハハ、懇
ニ相葬、文化三寅年○紀元一四六六年三月燒亡溺死之通、永世回向仕度奉存ハ。尤
古來ハ町々行倒死骸等相送りハ節セ、爲回向料并諸入用其町内ハ鳥目壹
貫文宛差越請納仕、回向等仕ハ得共、此度之儀セ、町々一統押潰死去仕ハ
儀故、聊たり共入用相掛リハ而セ、迷惑ニも可有之奉存ハ間、今般相葬
ハ分セ、一切回向料、不申請相葬、回向仕度奉存ハニ付、以御威光夫々ハ被
仰付被下置ハ様奉願上○ハ、此段格別之以思召、願之通被仰付被下置ハ様
奉願ハ以上。

卯○安政二年（紀元一五〇五年）十月六日

本所 回向院

右之通回向院相願、願之通相濟ハ間、町中不洩様早々可申繼○ハ。
右、御奉行所依御差圖申渡。

卯○安政二年（紀元一五〇五年）十月

右之通、被仰渡奉畏ひ、爲御請御帳ニ印形仕置ひ以上。

安政二卯年〇紀元二五一年十月六日

南北小口年番
 平松町主 彌左衛門印
 小網町主 伊十郎印
 神田多町 權左衛門印

安政二卯地震一件
年十月

(四)施餓鬼修行

(四)施餓鬼修行 十月廿二日〇安政二年(紀元二五一年)達シテ十一月二日〇安政二年(紀元二五一年)以テ凌雲院・回向院・西南院以下拾箇寺ヲシテ市民震死者ノ爲施餓鬼ヲ修セシム。
 卯〇安政二年(紀元二五一年)十月廿二日寫向方々差越ス
 當年番々

町奉行

天台宗 東叡山學頭 凌雲院前大僧正
 淨土宗 本所 回向院
 古義真言宗 芝二本棧高野學侶方在番 西南院
 同 麻布白金臺町同行方在番 圓滿院

(五)扶助救濟

(五)扶助救濟左ノ如シ。

幕都時代ノ震災

此度地震ニ而世上死亡之人民不少趣被聞召天災とは申なゝら不便之儀被思召ひ依之死亡したものゝた免思召を以右於寺院來月二日〇安政二年(紀元二五一年)十一月十一日施餓鬼修行被仰付ひ間得其意可被申渡ひ。
 右之通、寺社奉行に相達ひ間、市中にも爲心得可被達置ひ。

安政二卯地震一件
年十月

其一、
借下金

其一、萬石以上へノ借下金

十月四日二〇安政二年(紀元
五一五年)

御座間

阿部伊勢守弘正

居屋敷地震ニ而潰、可爲難儀被思召ひ。依之金壹萬兩拜借被仰付之。

内藤紀伊守親信

居屋敷焼失可爲難儀、勤柄之儀ニもひ間、思召を以、金壹萬兩拜借被仰付之。

本多越中守徳忠

居屋敷地震ニ而潰、可爲難儀被思召ひ。依之金五千兩拜借被仰付之。

酒井右京亮毗忠

同文言。

右於御前被仰付之。

十月六日二〇安政二年(紀元
五一五年)

御座間

遠藤但馬守統胤

右居屋敷類焼ニ付、可爲難儀と被思召ひ。依之金五千兩拜借被仰付之。

阿部伊勢守弘正

時服十。

右地震ニ而居屋敷潰ひニ付、於御前御内々拜領之。

内藤紀伊守親信

同(〇時服)十。

右地震ニ而居屋敷焼失ニ付、於御前御内々拜領之。

本多越中守徳忠

同(〇時服)五。

酒井右京亮毗忠

同(〇時服)五。

右地震ニ而居屋敷潰ひニ付、於奥御内々被下之。

遠藤但馬守統胤

十月八日五〇安政二年(紀元二
五一五年)〇中略。

時服五。

右地震ニ而居屋敷類焼ニ付、於奥御内々被下之。

十月十二日二〇安政二年(紀元
五一五年)

御座間

牧野備前守雅忠

右居屋敷地震ニ而潰、可爲難儀、勤柄之儀ニもひ間、思召を以、金五千兩拜借被

仰付之。

久世大和守周廣

同文言。

霸都時代ノ震災

鳥居丹波守○忠舉
右居屋敷地震ニ而及大破潰所等も有之、可爲難儀と被思召、依之金貳千五百兩拜借被仰付之。

本庄安藝守○道貫

同文言。

十月廿八日○安政二年(紀元二五一年)

本多中務大輔○忠民

居屋敷地震ニ而潰、其上類焼ニ付、作事入用等差湊、朝鮮人來聘御用も相勤、可爲難儀と被思召○依之別段之譯を以、金三千兩拜借被仰付○返納之儀者、御勘定奉行可被談○

松平豊前守○信篤

同文言。

安藤長門守○信睦

居屋敷地震ニ而潰○ケ所も有之、其餘破損多之趣可爲難儀○拜借金之儀と難被及御沙汰○得共、別段之譯を以、金三千兩拜借被仰付○返納之儀と御勘

定奉行可被談○

右於芙蓉之間、老中列座、備前守○牧野忠雅申渡、書付相渡之。

——幕府沙汰書

同廿九日○安政二年(紀元二五一年)十月

松平伊賀守○忠優

名代松平淡路守(○池田清直)

此度西丸下屋敷破損殘之家作共差上、替地受地ニ被下○付者、彼是可爲難儀○付、別段之譯を以、金貳千兩拜借被仰付之

——震災動搖集

七月十日○安政三年(紀元二五一年)

土屋采女○直寅
名代土屋求馬

居屋敷地震ニ而潰○ケ所も有之、其餘破損多之趣可爲難儀○拜借金之儀者難被及御沙汰○得共、別段之譯を以、金二千兩拜借被仰付旨、
右牧野備前守○忠雅申渡○

七月十三日○安政三年(紀元二五一年)

霸都時代ノ震災

松平下總守○忠國

年來御備場御用相勤度々持場替をも被仰付ひに付、入費多折柄、去年○安政二年（紀元一五二五年）當地○江井在所表之地震損引續きひに付、出格之譯を以、金壹萬兩被下ひ間、彌入精御備相整ひ様可被致ひ。

右於御黑書院溜老中列座、備前守○牧野忠雅申渡之。

二十九日○安政三年（紀元一五二六年）七月。

脇坂淡路守○安宅名代水谷主水

居屋敷地震に而潰ケ所も有之、其餘悉大破之趣可爲難儀ひ。拜借金之儀者難被及御沙汰ひ得共、別段之譯を以、金三千兩拜借被仰付旨。

右牧野備前守○忠雅申渡之ひ。

御城書

十三日○安政三年（紀元一五二六年）十二月○中略。

松平肥後守○容保

祖父以來蝦夷地御警固被仰付、以來引續御備場御用相勵度々持場替等被仰付ひに付而之、多分入費連年疲弊に及ひ趣に相聞ひ。且去年○安政二年（紀元一五二五年）震災之砌、居屋敷添屋敷共潰ひ上燒失に而、別而可爲難儀ひ被思召ひ。

依之格別之譯を以、金壹萬五千兩拜借被仰付之。

右於御黑書院溜老中列座、備前守○牧野忠雅申渡之。

柳營日次記

其二萬石以下へノ借下金及救助金

罹災旗本ニ對スル救助法トシテハ、拾箇年賦返濟ノ貸金ヲ許可シ、家人等身分輕キ者ニハ救助金下賜ノ命有リ。共ニ十月七日○安政二年（紀元一五二五年）也。其金額ハ類燒全潰半潰等被害ノ程度ト各受クル所ノ祿高トニ依リテ差異有ルコト次ノ如シ。同時ニ之ヲ受ケタル者ノ禮廻ヲ免ズ。

十月七日○安政二年（紀元一五二五年）○中略。

伊勢守殿○阿部正弘御渡御書付

今度地震に而居宅皆潰、又之及類燒ひ向、可爲難儀與被思召、當時御事多に之ひ得共、格別之譯を以、萬石以下之面々に、地方取共、左之通拜借被仰付ひ。受取方之儀を、御勘定奉行可被談ひ。

金貳百兩。

同百五拾兩。

同百兩。

三七七

霸都時代ノ震災

九千石迄
四千石迄
三千石迄
貳千石迄
千石迄

其下萬石、
借下金、
及救助金、

九百石迄
 七百石迄
 六百石迄
 三百石迄
 貳百石
 百石

同五拾兩
 同三拾兩
 同貳拾兩
 同拾兩

但百俵も同斷餘も准之。

右之通類焼之向に拜借被仰付い。

九千石迄
 五千石迄
 四千石迄
 三千石迄
 二千石迄
 千石迄
 九百石迄
 七百石迄
 六百石迄
 三百石迄
 貳百石
 百石

金百四拾兩
 同百兩
 同七拾兩
 同三拾五兩
 同貳拾兩
 同拾四兩
 同八兩

但百俵も同斷餘も准之。

右之通居宅皆潰家之向々に拜借被仰付い。

但半潰之分に右之半減拜借被仰付い。

- 一、御足高御足扶持共拜借被仰付い事。
- 一、御役料を相除さい事。
- 一、御扶持方拾人扶持取五拾俵之積りたるべき事。
- 一、高に附い御扶持方を相除さい事。
- 一、返納之儀、來々巳年○安政四年(紀二五一年)より十ヶ年賦たるべき事。
- 一、今度地震に而、御家人末々輕き者共之居宅も皆潰、又と類焼に及ひ難儀たるべくい間、御救として左之通御金被下い。受取方之儀を御勘定奉行可被談い。

九拾俵迄
 五拾俵迄
 四拾俵迄
 三拾俵迄
 貳拾俵迄
 拾五俵迄
 拾五俵以下

金七兩
 同五兩
 同三兩
 同貳兩

右と類焼之者共に被下い。

九拾俵迄
 五拾俵迄
 四拾俵迄
 三拾俵迄

金五兩
 同四兩

貳拾俵拾五俵迄

拾五俵以下

右之、皆潰之者に被下下。

但半潰之分を、右之半減被下下。

右之通可被相觸下。

卯十月○安政二年(紀元二五一年)○

御目付觸

此度地震ニ付、拜借金被下金等被仰付下面々、當節柄之儀ニ付、格別之譯ヲ以、御禮廻勤御用捨之旨、大和守殿○久世廣周被仰渡下事。

——柳營日次記

十一月四日○安政二年(紀元二五一年)○更ニ被害程度ノ範圍ヲ擴メ、半潰迄ニ及バズトモ、居宅大破ノ者ニハ、高並半減ノ貸金賜金ヲ許スコト、シ、同時ニ被害者各自及其支配下ノ者ニ至ル迄、取調方ノ正確ナランコトヲ達ス。

四日○安政二年(紀元二五一年)○十一月○中略

伊勢守殿○阿部正弘御渡御書付四通○二通略

今度地震ニ而居宅皆潰又ニ及類焼下面々并半潰之分共拜借金被仰付、御家人末々輕キ者ニ爲御救同斷御金被下下旨、先達而被仰出下處、半潰迄ニ無之下而も、居宅惣體大破ニニよ下向下是、是又可爲難儀與被思召、格別之譯を以、右之分へも高並半減之拜借被仰付、御救金被下下者ニ同様半減之御金被下下。其外先達而被仰出下通相心得、委細之儀を御勘定奉行可被談下。右之通萬石以下之面々ニ可被相觸下。

十一月○安政二年(紀元二五一年)○

今度地震ニ付類焼并皆潰半潰之面々ニ拜借金被仰付、御家人末々之者ニ御救金被下下處、猶又格別之譯を以、住居向惣體及大破下向へも高並半減之拜借金并被下金被仰付下。右等之取調方ニ付而も、不平有之間舖とも難申下間銘々を勿論支配之をニ至迄、入念取調可申旨、向々ニ無急度可被達置下事。

——柳營日次記

其三、本所附用屋敷地代免除

鞘番所ノ安政二卯年地震災書留ニ依レバ、本所附用屋敷拾九箇所中拾三箇所ハ、震災ノ爲家屋潰倒又ハ焼失シタルヲ以テ、地守ノ願出ヲ容レ、十二月十九日

關都時代ノ震災

其三、
附用屋敷
地代免除

同貳兩貳分。

同壹兩貳分。

元○安政二年(紀元二五一年)燒失三箇月、全潰二箇月、半潰壹箇月ノ地代ヲ免除ス。

○朱書 安政二卯年(○紀元二五一年)十二月十四日持田太郎助持參 竹村慈右衛門を以御渡

○朱書 同十九日(○安政二年紀元二五一年十二月)承リ付返上 ヒレ付末ニ有

本所附御用屋敷地代御免除之儀地守共願出ハ義申上ハ書付

○朱書 承リ付末ニ有

本所道役

本所附御用屋敷拾九ヶ所之内拾三ヶ所之當十月二日○安政二年(紀元二五一年)夜地震ニ而家作震潰又ニ燒失致ハ付地代上納御免被仰付度地守共願出ハ間場所見分取調ハ處是迄出火出水等ニ而地代壹ヶ月御免被仰付ハ例ニ御座ハ得共此度ニ稀成義ニ而ハ例ニ大破ニ罷越銘々住居ニ勿論渡世も暫ク相休難澁罷在ハ段ニ相違無御座ハ間燒失之分三ヶ月皆潰之分ニ○朱書 一、本文御用屋敷繪圖面爲差出巨細取調猶可申上ハ以上。

卯元○安政二年(紀元二五一年)十二月

家城善兵衛
清水八郎兵衛

○朱書 安政二卯年(○紀元二五一年)十二月十二日八郎左衛門ニ相談廻シニ遣ハ處存知寄無之旨大竹銀藏ヲ以返却致す

本所附御用屋敷之儀ニ付奉伺ハ書付 本所見廻

此度地震ニ付本所附御用屋敷家作皆潰半潰又ニ燒失致シハ場所地代免除之儀地守共願出ハ趣本所道役申立ハ間取調ハ處右御用屋敷之内ニ是迄數月地代免除被仰付ハ例無御座ハ間年番方ニ問合ハ處御役所附永久町屋敷之内燒失ニ三ヶ月皆潰之分ニ貳ヶ月半潰等ニ而住居人共一旦離散致ハ程之大破之分ニ壹ヶ月地代免除被仰付ハ趣ニ付本所附御用屋敷之義も右同様免除可被仰付ハ哉依之道役共差出ハ書付相添此段奉伺ハ○朱書 一、本文御用屋敷地代免除伺之通被仰付ハ得ニ當年○安政二年(紀元二五一年)上納御證文ハ右之廉腹書認入可申奉存ハ以上。

安政二卯地震一件
年十月

十月廿八日○安政二年(紀元二五一年)十月町奉行池田頼方○播磨守ノ幸橋門外○芝區・深川海邊新田○市内・深川永代寺境内○深川區ノ救小屋見廻上書ニ依レバ幸橋門外小屋三百九拾壹人、深川海邊新田六百三十五人、同永代寺境内三百九拾九人ヲ收容ス。

上

池田播磨守○頼方

一昨廿六日○安政二年(紀元二五一年)十月幸橋御門外○市内・深川海邊新田○市内・深川永代寺境内○深川區御救小屋見廻○處相替儀無御座○人數高左之通。幸橋御門外

一、人數三百九拾壹人 但壹人ニ付三合ツ、。

此握飯壹石壹斗七升三合。

深川海邊新田

一、同六百三十五人 但右同斷。

同壹石九斗五合。

同永代寺境内

一、同三百九拾九人 但右同斷。

同壹石壹斗九升七合。

右之通御座○此段申上置○以上。

卯○安政二年(紀元二五一年)十月廿八日

池田播磨守○頼方

安政二卯地震一件
年十月

御救小屋人數十月廿八日○安政二年(紀元二五一年)元迄入高

一、六百四拾六人

淺草雷門前 御小 屋

一、六百三拾三人

深川海邊大工町 同 斷屋○小

一、四百五人

同所永代寺境内 同 斷屋○小

一、四百五拾貳人

幸橋御門外 同 斷屋○小

一、五百六拾壹人

上野山下 同 斷屋○小

惣○貳千六百九拾六人。

安政二見聞雜錄
乙卯

○町會所に於て、江戸町中貧賤之輩へ御救米を給はる。十一月十五日○安政二年(紀元二五一年)十一月より始り、十二月廿四日○安政二年(紀元二五一年)十二月に終る。男十五歳より六十歳迄白米五升六十歳以上十五歳以下并女○三升○ハ、江戸中人數三十八萬

千貳百餘人と云々。

安政乙卯武江地動之記

卯○安政二年(紀元二五〇五年)ノ十月三日○安政二年(紀元二五〇五年)同十二月晦日迄日々被下
ハ人数

一、三千百六拾五人、但男女小兒共、從町會所御救小屋五ヶ所相建、右小屋人別高、但町會所ハ焚出し御救被下事。

一、人数貳拾萬貳千四百人、市中町々往來其外御握飯被下分、但壹人ニ付三合積り。

此石高六百拾六石貳斗。

一、四斗俵白米但男壹人白米五升。從町會所江戸町々其日稼之者女壹人同三升。共被下御救米高ニ御座候。

四拾萬俵被下。

地震珍説集

義捐

其詳ナルハ救濟篇ヲ見ヨ。而シテ諸侯以下ノ義捐金穀ハ、其重ナル者左ノ如シ。
十七日○安政二年(紀元二五〇五年)十月

松平陸奥守○伊達慶邦。

此度稀成地震等ニ而不取敢上納米仕度旨、内願之通り達御聽奇特之事ニ被思召ハ依之壹萬俵上納被仰付ハ此節御救筋之御用途ニ可被差加ハ。
右於御白書院縁頗老中列座、大和守○久世廣周。申渡之。
幕府沙汰書

〔參考〕幕府沙汰書ニ、

十三日○安政二年(紀元二五〇五年)十一月

時服十五。

松平陸奥守○伊達慶邦。

右上納米仕御用途ニも相成ハニ付被下旨、於御白書院縁頗老中列座、大和

守○久世廣周。申渡之。

○朱書卯○安政二年(紀元二五〇五年)十一月朔日寫向方○舊番町會所

寫向方

○朱書伊勢守殿○阿部正弘常阿彌を以御渡御書付寫

町奉行

増上寺御別當

八ヶ院

金貳百五拾兩

右者此度地震ニ付御救小屋ニ罷在ハ窮民ハ願之通施行被仰付ハ旨相達ハ間、寺社奉行可被談ハ。
安政乙卯地震一件

〔參考〕柳營日次記ニ、

十三日○安政二年(紀元二五〇五年)十一月○中略。時ふく貳。

増上寺大僧正

此度地震ニ付、下々御救之ため差出金いたし、奇特之儀ニ被思召、依之被下之。

右於御白書院縁頼老中列座、大和守○久世廣周申渡之。

其他市民ノ義捐ハ、其褒賞書類ニ依ルニ、總額金壹萬四千六百餘兩ニ上ル。左ニ其一ニヲ抄ス。

都合金貳百貳兩施差遣候段、自分居宅土藏共及大破候折柄、別而奇特之儀ニ付、爲褒美銀七枚別段銀貳枚爲取遣ス。
都合金九拾壹兩貳分貳朱與錢百八拾六文施差遣候段、自身居宅土藏共及大破候折柄、奇特之儀ニ付、爲褒美銀三枚爲取遣ス。

駒込追分町 家持長 右衛門
淺草田原町貳丁目 家持喜三郎
芝草本榎廣兵衛院門前 家持藤兵衛

其方儀、去ル二日○安政二年(紀元一五一五年)十月夜地震ニ付、家傾又々及大破、出店四軒、町内店借之者共、金拾五兩三分、近邊寺院、金三兩壹分、出入之者并知ル人共九拾三人、金貳拾六兩貳分貳朱、手拭五拾八筋、奉公人宿共、金八兩三分、居町家主、自分家主拾九人、金五兩壹分、鳶人足拾九人、金九兩貳分貳朱、近邊非人、金貳朱錢九貫四百文、手拭代共都合七拾壹兩貳分餘施差遣候段、自分居

宅土藏等及破損候所、奇特之儀ニ付、爲褒美銀三枚爲取遣。

深川佐賀町家持清兵衛阿州住宅ニ付店支配人

忠兵衛

其方儀、前同斷之節、潰上致類焼怪我人又々變死人等有之居町店借之者并抱番人共百七拾四人、金貳朱ツ、家主書役四拾人、金壹分ツ、都合金三拾壹兩三分施差遣候段、自分居宅土藏等及大破候處、奇特之儀ニ付、爲褒美銀貳枚爲取遣。

同町家持 喜助

其方儀、前同斷之節、町内店借家主番人、金壹分宛持地面、金七兩貳分、隣町並出入之者、金七拾八兩、都合百四拾貳兩三分貳朱施遣候段、其身居宅土藏及大破候處、別而奇特之儀ニ付、爲褒美銀五枚爲取遣。

北新堀家持 富助

其方儀、前同斷之節、家主貳拾九人、書役番人拾九人、金貳朱ツ、船頭百貳拾人、金壹朱ツ、都合五拾五兩、錢貳貫五拾八文施差遣候段、其身居宅土藏等及大破候處、奇特之儀ニ付、爲褒美銀三枚とらせ遣ス。

大傳馬町壹丁目家持清左衛門勢州住宅ニ付店支配人 傳七

其方儀前同斷之節、店借并書役番人貳百九拾人の壹分貳朱ツ、本石町四丁目新道四拾貳人の金貳分又と壹分ツ、木戸番人の壹兩^{〇分}ツ、持地面先家主三拾六人の壹分、又と貳分ツ、同店借之者三百七拾壹人の壹分ツ、出入之者六拾三人并車力七拾三人に壹分ツ、都合金貳百八拾六兩壹分貳朱施差遣^{〇中}見世土藏等及大破^{〇中}得共不厭、別而奇特之儀ニ付、爲褒美銀七枚別段貳枚爲取遣ス。

淺草山之宿町所持地面ニ假宅罷在候新吉原江戶町二丁目家持せいで見源右衛門抱遊女

か ね 事 黛

其方儀幼年之節兩親ニ別れ、八歳之節知音之者之世話^{〇中}而せい方の奉公住致去々丑年^{〇嘉永六年(紀元二五一年)}正月より客取致^{〇中}所平生柔和^{〇中}而主人申付^{〇中}儀と聊も不相背、大切ニ主人を尊敬致、多人數之傍輩共、家内一同氣請も能遊女奉公等致^{〇中}の^{〇中}に稀成氣質^{〇中}而貳歳之節別^{〇中}の實兩親ニ面會致度、生死も如何^{〇中}と常々辛苦致居^{〇中}所、當十月二日^{〇安政二年(紀元二五一年)}夜地震^{〇中}而潰家類燒等致、及難儀^{〇中}の者共、所々御救小屋^{〇中}の^{〇中}入^{〇中}の者夥敷由承り、右之者共^{〇中}の^{〇中}施し差出し^{〇中}得者、萬一實兩親^{〇中}に巡り會^{〇中}ひ^{〇中}多^{〇中}免^{〇中}共可相成旨一途^{〇中}に存込、所持之櫛笄簪類

の、吉原町類燒致^{〇中}の^{〇中}付、假宅中^{〇中}の遊女屋共一統申合、髮差類員數相減し、不用之分年來主人方に立入^{〇中}の商人に相頼、右櫛笄類相預ケ、金貳拾兩餘借請、瀬戸物行平鍋數千百六拾御救小屋入^{〇中}之者に差遣し、右買集メ配り方等諸雜費等金三拾兩餘、右體幼年^{〇中}の兩親之行衛を慕^{〇中}ひ^{〇中}志より施配致^{〇中}の^{〇中}段、別而奇特之儀ニ付、爲褒美銀貳枚爲取遣ス。^{〇中}

表通并裏門前町の金壹分ツ、施差遣ス。

西側付町家一軒米玄米三斗五升入壹俵ツ、源助町壹軒前五斗貳升ツ、被^{〇中}下。

十月十六日(〇安政二年紀元二五一年)雷神門前御救小屋入^{〇中}之もの人數壹萬五千人分髮結施致し遣ス。

地震之砌、寺内野宿^{〇中}之もの^{〇中}に、粥味噌共外喰物手當致施遣ス。

打身藥百貼、同付藥百貼、施行遣ス。

淺草雷神門前御救小屋入^{〇中}之者に半紙七百貼施遣。

神奈川米貳拾五俵味噌香物料貳拾五貫文施差遣。

深川靈岸寺

芝口奥州御大名

猿若町一丁目正藏地借、當時淺草寺中、勝藏院地借喜太郎店

髮結 大平 五郎

店預人 大平 五郎

谷中善光寺坂下

上州群馬郡野上野田村醫師

芝増上寺山内

原澤文冲

淺草御藏前八幡別當

大護院

ふかし芋三樽施差出ス。
幸橋御門外御救小屋入之者に切餅二千百貳拾五切施差遣ス。
深川八幡境内御小屋入之もの手拭二包數百六十三筋施差遣ス。
右同所御小屋入之もの手拭百五拾筋紙ぶとん百五拾枚施差遣ス。

池上本門寺末、武州足立郡、鳩ヶ谷在青木村
宗信寺
江州彦根長託寺
宇
林肥後守様御家來
春日玄庵
芝濱松町二丁目九兵衛店
繪師一信

書留之分

施金高凡壹萬四千六百四拾九兩壹分貳朱餘。

震災動搖集

御褒美銀凡六百貳拾枚程。

〔附記〕 震災動搖集ニ左ノ如ク見ユ。

同○安政三年(紀元二廿七日)

時服ニツ、

御留守居次席 井戸對馬守○覺
大目付 池田播磨守方○頼
町奉行 松平河内守直○近
御勘定奉行 立田岩太郎○正
御留守居番次席 御勘定吟味役

卷物五ツ、

御勘定吟味役 勝田次郎充○

去冬○安政二年(紀元一五年)十月。震災焼失ニ付、難澁之者共ニ御救助等之儀取扱ハニ付、被下之。

右、於芙蓉之間、老中列座、備前守○牧野申渡之。○外ニ勘定組頭二人、金奉行一人、定出役一人、行賞略。

五、復舊工事

(一)幕府ノ直營工事 十月七日○安政二年(紀元一五年)幕府ハ、跡部良弼斐○甲、岩瀬忠震修○理、岡部長富○河守。ニ命シテ、江戸城内外ノ震災破損箇所ヲ檢分セシメ、十二月九日○安政二年(紀元一五年)老中堀田正篤○中守ヲ總督トシ、若年寄本多忠徳○中守ヲシテ之ニ副タラシメ、十二月五日○安政二年(紀元一五年)勘定奉行松平近直○河守、外八人ヲ奉行ニ任ジ、以テ之ガ修理ヲ爲サシム。事皇城篇ニ詳記ス。
十月七日○安政二年(紀元一五年)備前守殿○牧野御渡

五、復舊
工事
(一)幕府ノ直營工事

覺

跡部甲斐守○良

岩瀬修理○忠

岡部駿河守○長

右御城内外御破損所見廻之儀右三人○跡部良弼。岩瀨長富。引請致見分○様可被心得○事。

九日○安政二年(紀元二五

一五年)十二月。地震=付、御城内外、上野御宮御靈屋御破損所御修復御用掛。

右、於御前被仰付之。

同斷。

右、於奥被仰付之。

十二日○安政二年(紀元二

一五年)十二月。御勘定奉行 松平河内守直○近

同 中川飛彈守○忠

同 伊澤美作守○政

御勘定奉行 大澤豊後守○兼

御勘定吟味役 塚越藤助○元

堀田備中守○正

本多越中守○忠

柳營日記

御作事奉行

遠山隼人正興○則

御普請奉行

河野對馬守○通

小普請奉行

江原下總守○親

小普請奉行次席御目付

鵜殿民部少輔○長

地震ニ付、御城内所々損所御修復御用被仰付旨。

右牧野備前守○忠 申渡之○。

御城書

上野東照宮及靈屋ハ、十月十九日○安政二年(紀元二五ヲ以テ參詣ヲ止メ、十二月十二日○安政二年(紀元二五勘定奉行水野忠徳○後守○以下四人ヲ奉行ニ任ジ、之ガ修復ヲ爲ス。總督副總督ハ、正篤○堀田○忠徳○本之ヲ兼ヌ。

十九日○安政二年(紀元

二五年)十月。一、東叡山御宮御靈屋御場所向大破ニ付、諸向參詣不相成○段、久世大和守廣周。申渡旨、大目付筒井肥前守○政方御城附共ニ爲心得申聞○。

御城書

十二日○安政二年(紀元二五

一五年)十二月。○中略。御勘定奉行

水野筑後守○忠

御目付

岩瀨修理○忠

小普請奉行

大澤豊後守○兼

御勘定吟味役

勝田次郎○充

同斷○地ニ付、上野御宮御靈屋御廟向其外御損所御修復御用被仰付旨。

右牧野備前守○忠 申渡之○。

御城書

増上寺靈屋亦十月十日○安政二年(紀元一六六一年)五月參詣ヲ止メ、三年○安政〇紀元一六六〇年四月六日作
事奉行遠山則興○正以下二人ヲ奉行ニ任ジ、五月七日○安政三年(紀元一六六二年)五月藏奉行格
大工頭安西久次郎以下三人ヲ屬僚トシテ修理ヲ爲ス。正篤○堀田忠徳○本又總
督副總督タリ。

十日○安政二年(紀元一六六一年)五月

一、増上寺御靈屋向地震ニ而御破損ニ付、諸向參詣指留ハ旨、大目付跡部甲斐
守○良申聞ハ。

御城書

六日○安政三年(紀元一六六二年)四月

御作事奉行

遠山隼人正○則

御目付

大久保右近將監○忠

御勘定吟味役

設樂八三郎○能

増上寺安國殿并御靈屋御廟向、其外、地震ニ而御損所、御修復御用被仰付之。
右、於芙蓉間老中列座、伊勢守○阿部申渡之。若年寄中侍座。

柳營日次記

七日○安政三年(紀元一六六二年)五月

御藏奉行格御大工頭

安西久次郎○勘定一人、作事下奉行一人、略

地震ニ付、増上寺安國殿并御靈屋御廟向、其外、御損所御修復御用被仰付之。

右、於御右筆部屋縁頼備中守○堀田申渡之。本多越中守○忠侍坐。

柳營日次記

其竣工授賞ハ、

廿四日○安政三年(紀元一六六二年)五月

御座間

堀田備中守○正

御城内外并上野御宮兩山御靈屋御廟向、其外、地震御損所御修復御用相勤

ハニ付、

本多越中守○忠

右御手自御刀被下之。

同斷ニ付。

御城書

右於御前御刀被下之。

廿七日○安政三年(紀元一六六二年)五月

霸都時代ノ震災

金五枚。
時ふく三。

同(〇金)三枚ッ、
同(〇時服)貳ッ、。

御作事奉行
遠山隼人正興〇則
御目付
大久保右近將監寬〇忠
御勘定吟味役
設樂八三郎〇能

増上寺安國殿并御靈屋御廟向其外地地震御損所御修復御用相勤ハニ付被下之。

右於芙蓉間老中列坐備前守〇牧野申渡之若年寄中侍坐〇賄頭次席疊奉行一人、藏奉行格大工頭一人、勘定一人、勘定吟味方改役並二人、作事下奉行一人、徒目付三人、被官二人、同格手代一人、假役二人、同勘定役一人、同格小役一人、勘定役見習二人、同出役一人、上下持格手代見習一人、石方棟梁一人、疊大工二人、大鋸棟梁

同〇安政三年(紀元)二月二十九日
同〇一六年(紀元)十二月二十九日

柳營日次記

金三枚。
時服三。

金拾枚ッ、
時服三。

御留守居
堀田土佐守〇正
御勘定奉行
松平河内守直〇近
御作事奉行
遠山隼人正興〇則

同(〇金)七枚ッ、
同(〇時服)二。

中川飛彈守〇忠
小普請奉行
大澤豊後守〇乘
小普請奉行次席御目付
鵜殿民部少輔〇長
御勘定吟味役
塚越藤助〇元

御城内向其外地地震御損所御修復御用相勤ハニ付被下之。

右於芙蓉間老中列座備前守〇牧野申渡之若年寄中侍坐〇御臺様廣敷番之頭一人、勘定組頭一人、細工頭一人、付組頭一人、賄頭次席材木石奉行一人、小普請方四人、疊奉行一人、同格作事下奉行一人、勘定吟味方改役一人、同出役一人、勘定七人、同出役二人、大工頭二人、略。

金七枚ッ、
時服三。

御勘定奉行
水野筑後守〇忠
小普請奉行
大澤豊後守〇乘
御目付
岩瀬伊賀守〇忠
御勘定吟味役
勝田次郎〇充

同(〇金)五枚宛。
同(〇時服)二。

上野御宮御靈屋御廟向其外地地震御損所御修復御用相勤ハニ付被下之。

右於芙蓉間、老中列座、備前守○牧野忠雅、申渡之、侍座同前。○若年寄中侍座。○賄頭次席。○小普請方一人、同頭席。○大普請方一人、同格役一人、材木石奉行一人、漆奉行一人、勘定吟味方改役一人、勘定一人、略。

震災動搖集

此外役宅ノ普請ニ關シテハ、特ニ訓令シテ

二日○安政二年(紀元二五〇五年)十一月。○中略。

伊勢守殿○阿部正弘御渡御書付

此度地震ニ付、御役宅向潰又ニ破損及建直ハ分、追而御普請御修復可被仰付ハ儀ハ得共、當時品々御用途多之折柄、建物間數等實ニ無據ケ所之外ニ成丈坪數減ハ様勘辨イたし、御作事奉行ハ小普請奉行ハ申談ハ様可被致ハ。且手限ニて御普請御修復取調相伺ハ向も、坪減勘辨イたし可被申聞ハ。

柳營日記

ト云ヒ、夫々營作スル所有リタリ。

十九日○安政三年(紀元二五〇六年)二月。○中略。

御大工頭

大野藤十郎

虎之御門外御勘定奉行御役宅、地震損所御取繕御修復御用相勤ハニ付、被下レ之。

右於御右筆部屋縁頰備中守○堀田正篤申渡之、本多越中守○忠徳侍坐○作事下奉行一人、略。

十九日○安政三年(紀元二五〇六年)四月。○中略。

御疊奉行格御作事下奉行

高橋小太郎○大工頭一人、略。

小川町御勘定奉行御役宅向其外、地震ニ而損所御修復御用相勤ハニ付、被下レ之。

右於御右筆部屋縁頰備中守○堀田正篤申渡之、本多越中守○忠徳侍坐○披官一人、大工棟梁一人、略。

十九日○安政三年(紀元二五〇六年)四月。○中略。

御賄頭次席御疊奉行

大平伊十郎

虎御門外并小川町御勘定奉行兩御役宅御修復御疊御用相勤ハニ付、被下レ之。

右於御右筆部屋縁頰備中守○堀田正篤申渡之、本多越中守○忠徳侍座○疊大工一人、略。

御勘定奉行

川路左衛門尉○聖

金三枚。
時ふく貳。
霸都時代ノ震災

金貳枚
時ふく貳ツ、。

御目付

一色邦之輔

御勘定吟味役

中村爲彌

内海井品川海岸御臺場地震損場所御手入御普請御用相勤ハニ付被下之。
右於芙蓉間老中列座備前守忠雅野申渡之。若年寄中侍座。勘定組頭一人、勘定二人、勘定格徒目

十三日安政三年(紀元二五

小普請方

赤城新右衛門

千駄木御鷹部屋御座所向其他地震損箇所御修復御用相勤ハニ付被下之。

右於御右筆部屋縁頼伊勢守正弘部申渡之。若年寄中侍坐。小普請方改役勤方一人、同吟味役一人、同

假役一人、同大工棟梁一人、略。

柳營日次記

七月十三日安政三年(紀元二五

小普請方

鈴木分左衛門

雉子橋御用屋敷内御役宅向地震損所修復御用相勤ハニ付被下之。

右於御右筆部屋縁頼伊勢守正弘部申渡之。小普請方改役二人、目見持格小普請方假役一人、小普請方大工棟梁並

略一人

八月十二日安政三年(紀元二五

小普請方

鈴木分左衛門一人、略

松村靜之助御預御厩御役宅向其外地震損所御修復御用相勤ハニ付被下之。

右於御右筆部屋縁頼備中守堀田正篤申渡之。若年寄中侍座。小普請方改役一人、被官格疊方改役小役

一人、小普請方假役一人、上下持格小普請方手代一人、大工棟梁並一人、同疊大工一人、略。

震災動搖集

廿九日安政三年(紀元二五

御作事奉行

中川飛驒守忠

金三枚。

大成殿學問所御座敷向其外地震損所御修復御用相勤ハニ付被下之。

右於芙蓉間老中列坐備前守忠雅野申渡之。勘定一人、作事下奉行一人、疊奉行一人、

格被官一人、徒目付二人、被官一人、同格疊方改役一人、疊大工一人、假役一人、略。

柳營日次記

獄舎又多少ノ損所ヲ生シタルヲ以テ十月三日安政二年(紀元二五之ガ修理ニ著手

シ、假板圍ヲ爲ス。

播磨守殿(〇池田頼方)御扣。

伊勢守殿(〇阿部正弘)。

地震ニ付、牢屋敷假板圍之義ニ付、申上ル御書付。

井戸對馬守(〇覺弘)。

町奉行

昨夜五〇安政二年(紀元二一五年)十月二日。地震ニ而牢屋敷數ヶ所震ル崩ル内、急速難捨置場所外圍ハ四方練堀并埋門續左右練堀震ル崩ルニ付、假板圍出來ル様仕度旨、組牢屋見廻囚獄カ申聞ル。御取締ニ拘リ片時も難捨置場所ニ付、早々補理可申旨申渡ル。御入用之義ヲ追而取調可申上ル。依之申上置ル以上。

十月三日〇安政二年(紀元二一五年)十月二日。

井戸對馬守〇覺弘。

池田播磨守〇頼方。

御勘定奉行衆

町奉行

地震ニ付、牢屋敷震ル崩ル場所假板圍之義難捨置場所ニ付、別紙之通伊勢守殿〇阿部正弘ニ申上ル。依之右寫相添及御達ル。

十月〇安政二年(紀元二一五年)十月二日。

安政二年卯地震一件

玉川上水ハ十月六日〇安政二年(紀元二一五年)十月二日。四谷門外天德寺門前代地町屋角ヨリ堀端通柴田能登守邸前迄、八日〇安政二年(紀元二一五年)十月二日。四谷大木戸ヨリ麴町十二丁目横町角迄ノ假修繕ヲ爲ス。

五日〇安政二年(紀元二一五年)十月二日。

一、御普請奉行河野對馬守〇通カ指越ル書付寫。

玉川上水四ッ谷御門外天德寺門前代地町屋角ヨリ御堀端通り柴田能登守屋敷前迄石垣樋柵急破假養ニ付、明六日〇安政二年(紀元二一五年)十月二日。より往來差留申ル。此段申達ル。相濟次第猶又可申達ル。

十月五日〇安政二年(紀元二一五年)十月二日。

七日〇安政二年(紀元二一五年)十月二日。

一、御普請奉行河野對馬守〇通カ差越ル書付寫。

玉川上水四谷大木戸〇市ヨリ麴町十二丁目横町角〇市迄石垣樋柵急破

霸都時代ノ震災

假養ニ付、明八日○安政二年(紀元二五一年)十月より道々往來指留申ひ、此段申達ひ。相濟次第猶又可申達ひ。

十月七日○安政二年(紀元二五一年)十月。

御城書

本所豎川壹之橋及び龜戸天神橋ハ十月七日○安政二年(紀元二五一年)十月。假修復ヲ爲シ、壹之橋ハ翌八日○安政二年(紀元二五一年)十月。工事成リテ通行ヲ許ス。

卯○安政二年(紀元二五一年)十月五日持出し。

伊勢守殿○阿部正弘。

橋往來人留之儀申上ひ書付

御届

池田播磨守方○頼村垣與三郎

本所豎川壹之橋

右橋去ル二日○安政二年(紀元二五一年)十月。夜地震ニ而橋臺桂石崩込ひニ付、假養ひ申付ひ得共、追々石垣崩落、往來危く御座ひ間、御修復仕ひ迄今日○安政二年(紀元二五一年)十月五日。此橋ベ切渡船ニ而往來爲仕ひ付、馬駕籠共難通御座ひ。此段申上ひ以上。

十月五日○安政二年(紀元二五一年)十月五日。

兩名

卯○安政二年(紀元二五一年)十月六日大竹銀藏持參富田小源太を以上ル

豎川一之橋外壹橋御修復取懸ひ儀申上ひ書付

御届

本所見廻

本所豎川壹之橋北橋臺崩れ落ひ、龜戸天神橋西橋臺石垣も崩所出來桂石下りひニ付、明日○安政二年(紀元二五一年)十月七日。御修復取懸申ひ。右之外本所深川御入用橋々、少々ツ、之損所出來ひ得共、何れも聊こゝ往來差支相成不申ひ。此段申上置ひ以上。

九月○安政二年(紀元二五一年)九月六日○安政二年(紀元二五一年)九月。

中村八郎左衛門
加藤又左衛門

伊勢守殿○阿部正弘、大和守殿○久世廣周、當阿彌を以上ル

橋御修復出來仕ひ儀申上ひ書付

御届

池田播磨守方○頼村垣與三郎

本所豎川
壹之橋

右橋當月二日○安政二年(紀元一五一五年)十月。夜地震ニ而橋臺損所出來仕ハ付橋ハ切渡船ニ而往來爲仕ハ旨去ル五日○安政二年(紀元一五一五年)十月。申上置ハ處右損所假養ハ御修復出來仕ハ間昨八日○安政二年(紀元一五一五年)十月。方渡船相止橋往來爲仕馬駕籠共相通申ハ。尤橋臺御修復之儀ニ追而取調相伺ハ様可仕ハ。此段申上ハ以上。

十月九日○安政二年(紀元一五一五年)。

兩名

安政二地震災書留

武家屋敷營造關スル
諭達

(二)武家屋敷營造ニ關スル諭達 復舊工事ニ關スル命令中武家屋敷ニ對スル者ハ十月三日○安政二年(紀元一五一五年)。及十三日○安政二年(紀元一五一五年)十月。建築ノ成ル可ク簡易ニシテ華美ナラザラムコトヲ令シ廿一日○安政二年(紀元一五一五年)十月。特ニ年限内ノ屋敷相對替ヲ許シ廿九日○安政二年(紀元一五一五年)十月。家屋建築ニ際シ邸中ニ非常立退ノ空地ヲ存ス可キヲ命ズ。

十月三日○安政二年(紀元一五一五年)○中略。

御同人○久世廣周 御渡翌日○安政二年(紀元一五一五年)十月四日。觸。

大目付

此度地震ニ付御城内御破損所も數ヶ所有之ハ處世上一般材木其外差支も可有之旨被思召ハ付御締場所之外其儘被差置ハ旨被仰出ハ間銘々屋敷も其心得を以全く入用ヶ所而已格別手輕ニ普請致ハ様可被心得ハ。右之通可被相觸ハ。

十月○安政二年(紀元一五一五年)。

十月十三日○安政二年(紀元一五一五年)。

伊勢守殿○阿部正弘 御渡

大目付

此度地震并類燒等致しハ萬石以上之面々居屋敷普請等銘々之家格ニ不拘御曲輪内たりとも家作之儀精々手輕ニ普請可被致ハ。門坏も是迄長屋門等之場所者冠木門ニ致し長屋向其外腰瓦并瓦葺ハも不及當分之内ニ板屋根等ニ而差置如何様龜末ハも聊不苦ハ。萬石以下之面々も右ニ准じ箇成雨露を凌ハ迄ハ可成丈手輕ニ普請可被致置ハ。

右之通向々ハ早々可被相觸ハ。

霸都時代ノ震災

十月 元○安政二年(紀元二五一年)

十月廿一日 元○安政二年(紀元二五一年)

伊勢守殿 正弘_{阿部} 御渡翌日 一○安政二年(紀元二五一年)十月廿二日。五觸

大目付御目付_{正弘}

此度地震并出火ニ付而者銘々家作之都合も可有之の間、屋敷相對替致し
たき面々者、年限不相立内ニ而も願差出不苦事。
右之通寄々可被達_{正弘}。

十月 元○安政二年(紀元二五一年)

十月廿九日 元○安政二年(紀元二五一年)

伊勢守殿 正弘_{阿部} 御渡來月四日 五○安政二年(紀元二五一年)十一月。二觸

大目付_{正弘}

此度地震ニ而類焼并潰家等相成_{正弘}の面々、屋敷内空地等無之、立退方差支_{正弘}
向も有之哉ニ相聞_{正弘}。普請之儀ニ付而者、先達而相觸_{正弘}の趣も有之の間、可成
丈建坪取縮空地出來非常之節怪我等無之立退相成_{正弘}の様可被_{正弘}心掛_{正弘}。
右之通可被_{正弘}相觸_{正弘}。

十月 元○安政二年(紀元二五一年)

(三)町家普請ニ關スル諭達 市民ニ對シテハ十月廿日 元○安政二年(紀元二五一年) 破損箇所

ハ、簡易ニ之ヲ修復シ、燒失家屋ハ決シテ建築ヲ急グ可カラザル旨示達ス。奉行
ノ町觸伺書及老中ノ覺書左ノ如シ。

播磨守殿(○池田頼方)御控

市中普請之儀ニ付町觸奉伺_{正弘}書付

井戸對馬守(○覺弘) 町奉行

幕府沙汰書

此度地震ニ付、御城内御破損所も數ヶ所有之_{正弘}の處、世上一般材木其外差支も
可有之被_{正弘}思召_{正弘}のニ付、御締場所之外其儘ニ被_{正弘}差置_{正弘}の旨被_{正弘}仰出_{正弘}の間、市中之儀
猶更相慎可_{正弘}申之勿論之筋ニ付、右御書付_{正弘}の末文書載、別紙之通町觸可_{正弘}仕_{正弘}哉、
此段奉伺_{正弘}以上。

卯 元○安政二年(紀元二五一年) 十月

井戸對馬守(○覺弘) 池田播磨守(○頼方)

(三)町家普請ニ關スル諭達

町觸案

此度地震ニ付、御城内御破損所も數ヶ所有之ハ處、世上一般材木其外差支も可有之被思召ハ付、御締場所之外其儘被差置ハ旨被仰出ハ間、銘々屋敷も其心得を以、全く入用之ヶ所而已格別手輕ニ普請致ハ様可被心得ハ。右之通、武家方ハ御書付出ハ間、町方之儀ハ破損所之分猶更手輕ニ取繕、全類焼致ハ場所も普請差急申間敷、見苦敷分ハ不苦ハ。御成之御道筋町方も同様ニ可相心得ハ。

右之通、町中不洩様可觸知者也。

十月○安政二年(紀)元二五一年。

○朱書卯○安政二年(紀)元二五一年十月廿日伊勢守殿(○阿部正弘)御直御渡。

覺

見込之通、可被取計ハ事。

——安政二卯地震一件

(四)河岸地土藏納屋修復ニ關スル示達 十一月十日○安政二年(紀)元二五一年。河岸地土藏

(四)河岸地土藏納屋修復ニ關スル示達

納屋等ノ再建修復ニ關スル示達ヲ爲シ、特ニ其檢分方法ヲ簡ニス。

卯○安政二年(紀)元二五一年十一月十日

申渡

河岸附町々 主 共

河岸地土藏外廻り又ハ壁瓦等損ハ分ヒ、是迄月番町年寄共ハ相届修復いたシ、河岸地土藏納屋等先規有形之通建直井石垣堰板修復之節、月番之番所ハ願出、最初井出來榮見分ハ之ハ差遣來ハ處、今般地震火事ニ付、是迄之振合ニ而シ、市中之もの共手數相懸、難義たるべくハ條、此度限出格之譯を以、是迄有來間數丈尺之通相建ハ分ヒ、組合名主共立合見分之上、當人共ハ證文取之、普請爲致可申、尤組々數多之儀可有之ニ付、間數丈尺等相糺、當人名前井町役人共連印いたハ、組合限帳面にいたハ、當十二月廿日○安政二年(紀)元二五一年。限可申立ハ。尤新規土藏造立、且有來分ニ而モ模様替之分ヒ、仕來之通訴出、見分受ハ積可致ハ。

右之趣、月行事持、寺社門前共、早々不洩様可申通ハ。

——安政二地震災書留

〔餘録、一〕

霸都時代ノ震災

執政内藤紀州侯○信親、地震するやいなや、奥方ともろともに、庭のおもへ逃
れ出給ひしふ、御館たふれ、奥方の衣の裾、其梁に夾れて、歩行給ふ事のならざ
りければ、帯をとき衣を脱ぎて、湯具ばかりになり給ひしあらふ、わが下の衣
を脱ぎて着せ給ひ、最倉卒に、その侍臣に介抱の事をおほせつゝ、其身の侍臣
の衣服、大小の刀を帶て、大城をさしてゆそがれつゝ、大樹に謁しまつり給ひ、
その御恙のましまさぬを祝し奉り、いま登營の道すがら、内櫻田の御門渡の
御櫓うち倒れ、はた譙門おほて内なる歇牀より火を過ちしかば、それかれ如此く
執はからはせ置きさぶらひしなど、まうしあげらるゝ、その言語少しも訥ま
だして、容貌さへ常に變らせられずとなん。かく急かせ給ひゝらに、果して
執政中の第一の登營もありけるとぞ。實にはそのまゝ、登城し給ひ、中の御門にや、
衆の大小の腰の物はた肩衣袴まで借ら
れて御前に伺公されしなりともいふ。かゝる天變のおりから、佩刀にはた衣と
あるものを、稜威くものしてまゐのほり給ひなば、打ち見の最嚴も見えなま
しく、されども其志と時とは人に後れ給ひなを、この事實ならんは、人臣
の分至れりつくせり、間然する處なしといはんか、最もしき御心操になん。
近き頃品川なる沖につくらせられし二番の砲臺場は、會津侯○松平容保の御預

なりしが、勤番の詰所東西に長く、南北に短く、三尺間に柱立して、梁を上げ、四方と
あげ、芝を植ゑ付け、北の方より出入の口を明け、三寸程の角の格
子を建てしものとぞ、おのれ得見ざれば、くはしくはしらず。此度の地震は上の

土どを入り口の方へ落ちしかば、外に出づる事得ならば、内ふり都て二十六
人士分二十五人
焚出し男一人あり、外より扶けいださんとすれどを、土に埋れ、戸口些ふあ
らはれ、開く事あたはば、上を破りてたすけ出ださんか、兎せん角せんといふ
程に、内より息もたえくゝに、外に向ひていふやう、上を撥かば梁それかれ、殘
りの土ども落ち重りて、おしに撃れて死に失せなん、さなくも若合藥ふ火此
うつらば、いづれ存命べき命ふらあらじ、さこの刀どを故郷なる父母妻子
どもに後の紀念とも見よかしと言ひ傳へ給ひてよと、格子の間よりさし出
だすを見れば、みな血に塗れてなんあり、外なる人々涙ながらに、そをうけ取
りて、かゝれば此所に居らんも今はせんなしとて、くゝ逃れ出だし、程も
あらせず、跡より火の發りて不殘焼け失せたりとなん。思ふふとても角ても
ながらふべき命ならじを、武士たらんもの、災せまりて死ふ失せなんふ、梁落
ち其火に焼かるゝを待たんよりはと、腹かさばきて、其血染みたる刀ども
を、紀念にせよと與へしは、かけまくも畏き神國の雄々しきやまと魂やと感

概するふ猶餘りあり、そが故郷なる父母妻子昆策、この凶變を聞かましかば、歎のほどいかならんと、筆をとるゝに先胸ふたがるこゝちぞとる。

— 震火叢話

申渡

下谷御數寄屋町、利兵衛店、熊野牛王所、覺泉院、下女

か ね

右之者儀、平日實體こ而、主人より申付を不背神妙こ相勤、其上當十月二日安政二年(紀元二五一年)夜地震よて一時家潰家内一同潰家下こ相成ひ節、此者儀も鴨居よ腰か兩足の被_レ打敷、屈伸難相成ひ所、痛をも不構無體に引拔立上り、主人家族共名前呼立、覺泉院之聲致ひこ付、潰家之上を踏分テ罷越、落重る木切瓦等取除ひ所、同院儀、腰か背に懸梁に被_レ押居ひ間、落ちり有之木切ふて押上ひ得共壹人之手こ難及、通掛ひ伊兵衛を相頼、押貫ひて引出しひ所、衣類裾挾引拔兼ひこ付、裸に致、漸く引出ひ得と、腰拔居ひ故、背負近邊廣場に連退ひ上、立戻り、右衣類を裂取參り爲着置、其餘之者共をも引出可申旨、土瓦を搔除ひ得共、手に餘り十方こ暮れしきこに聲立罷在ひ折柄、助右衛門并主人親類喜兵衛方を見舞こ、市五郎卯之助召連、喜兵衛罷越ひ間、俱に手傳貫ひ、同院養母智

蓮おと、悴又次郎、娘かほをも引出し、無恙上野廣小路に立退れ、殊こ喜兵衛方は同居致ひ後、其身怪我致居ながら、痛み所之無厭、家内之世話と勿論、主人家内喜兵衛方厄介よ相成心配致ひを相察し、同人方勝手向迄、手傳、大變危急之場所よて、主人家族不殘助出しひ段、誠忠無双之働、女之身分よ而と、別而奇特之儀こ付、右之趣申上、爲褒美銀十五枚爲取遣ス。

湯島天神下門前町久兵衛店

伊 兵 衛

上野黒門町名主

助 右 衛 門

同所新黒門町長兵衛地借喜兵衛方日雇

市 五 郎

下谷長者町久兵衛店卯之助召仕

喜 兵 衛

右之者儀當十月二日安政二年(紀元二五一年)夜地震之節、伊兵衛助右衛門は、かね儀潰家之上こ土瓦等乍搔除、被_レ押敷ひ者有之趣、頻よ聲立居ひを通り掛りこ見請立寄、市五郎、主人申付ひ間、覺泉院方に見舞に參りひ途中、喜兵衛こ出會、一緒こ參り吳ひ様相頼、同道罷越、何れもかねの助力致、覺泉院其外之者共迄助

霸都時代ノ震災

出しぬ段、奇特之儀ニ付、右趣申上、一同譽置。

右町役人

右之通申渡間、其旨可存。

震災動搖集

○殊^ニはきはきに聞えしは、九郎介稻荷の別當修驗某の娘十三歳ばありなるが、同じ社の側なる潰家の間に成り、いかにしてか其足を石に挟きて逃る事あたはず、かの父なるものも、別當の事なり。あゝに有りて助やらんとしけるが、いかにすぎ共かなはば、近隣の者も來り援んとせしが、せんをばなし。其時猛火熾となりて、別當が着たる衣に燃付しうば、汝を助けんとせむば父をろともに終るべし、なき命ぞとほきらめくれよといひつゝ、濡たる菰をまとふて逃のさしとなん。親子の情いかにありけん、あはれなる事共なり。

○櫻田久保町なる花屋何某が家潰れ、其妻梁の下に成て死したりしを、搖止て後に尸を出したり、二歳の小兒を懷き、片臂を地につき、片臂を強く張りて、其内に小兒をかばひたり、故に小兒は恙なくてありける。急變にあひても子を厭ふ志の切なる、いとほそれなる事なり。

○葦^{アサ}の屋檢校藥研堀續の武士地に住り、博覽宏才よして皇國の學よよし、哥

をもよみ、又針術の高手よして、當道家此内人もゆるしたる人^之。其なとの風、其餘著書も

多^ニ二日^〇安政二年^{紀元}五月十日。夜富澤町なる柳屋長右衛門^{能の裝束を貸して活業とす。}療治よとて、轎をもたらしして迎へしうば、止事なくて行けるが、長右衛門が息子の妻何ぶしが療治よかゝり居ける時震出しければ、檢校の婦をいざなひて逃出んとしけるが、はや家潰れて共に即死に惜ひ哉。あしのやは近き頃官醫となれを貸して、足をはたるの如き類にはあらず。

○地震の數日以前、淺草御藏前福本といへる茶店よて、何故う竹を土中へ立しむ、其所より水湧出る、轎夫の息杖を立たる跡より湧出たるよし。諸人奇として見に來れり、是前兆なるべしと、此事九月廿一日^〇安政二年^{紀元}五月十日。ともいふ。地震の前、井の水増田中平四郎話

○同二日^〇安政二年^{紀元}五月十日。晝深川邊にて堀井戸を堀らんとしけるに、地の底鳴りて仕事ならぬ、あゝる事、是迄聞え及ばぬ事とて、其日の仕事を止て歸りしとぞ。

○亞墨利加へ渡りし中濱萬次郎は、本所江川俣の屋敷内に住たりしむ家潰けり、天井を突破りて夫婦共無事なり。文鳳堂話

○小日向服部坂龍興寺寶覺禪師今年齡九十三、近世の碩徳なるよしは世の

知る所之十月二日元○安政二年紀夜弟子に示して云、今宵の變事あるべし、庭中へ假の筵を設けよと、有りしに、何事よと疑なぶら、教の如く假の圍をまつらひ、まゝに坐せしむ、半時程過て地震あり、されど堂宇覆る事もなかりしとなり。

—安政乙卯武江地動之記

〔餘録、二〕

地震行

齋藤

謙拙堂

天柱折。地維裂。城復隍。陵變谷。禍發關西及關東。彼蒼者天何太酷。余寓江門。觀此凶。歲維乙卯。月孟冬。百萬人。家盡傾覆。祝融佐靈燄。上衝死者。縱橫都下。偏載鬼百車。奔幽竄。生無室廬。死無樵。一死一生。誰已言。貴賤糧食如臨軍。上下束裝如赴戰。艸屋布障庇。風雨陋如陣營。孰擇便。不似平生競豪奢。彫刻粉丹飾室家。衣必綾羅。食甘脆。珠璣金塊俗相誇。本是忘亂狃。至治滔々天下人。如醉一朝驚覺繁華夢。不但地裂恐天墜。杞人之言或省悟。何知地妖非天意。君不見堯水湯旱亦天殃。挽回天心致休祥。即今只要補天手。轉禍爲福豈無方。嗚呼轉禍爲福豈無方。

地震詩

桃井

誠可堂

安政二年十月二。是夜訪師少陪侍。辭去出門將二更。雲色星光未見異。歸來先就

火桶邊。山妻待久炭已熾。八郎病後德門尚幼。少女阿貞皆已寐。夫妻對座即地震。忽驚天地已覆墜。居室跳盪傾且頽。不覺俯伏唯戰悸。妻也眩伏手持燈。相勸曰。避不能避。門牆壁宇即時破。飛戶衝簣覆篋筒。盤盂相激餅疊橫。一蕩罄粉庖廚器。或唱南無或妙法。東家西家南北暨。裸體走出退反衣。徒手驚去卻攜穉。尋親呼子迭相招。號泣之聲如濤沸。八郎阿貞及德也。猶在臥床如熟睡。大聲喚起坐予側。共言變災信可畏。宣三阿照姪時在他。今也如何爲我勸。先弔災異一兩家。須叟阿照徒跳至。予謂必應有失火。乃使家人各檢屣。時見東北火之起。謂是吉原不我洎。又見火映前家府。妻開北窓則隣比。八郎謂兒與德也。扶母二娣擇地置。歸來與父在於家。進退舉止可相議。德懷祖牌持聖像。妻也抱出一弊被。予獨駐舍暫彷徨。乃聚衣衾與書匱。門外幸有守閭居。左右取出相委積。八郎與德即歸來。負擔共去少希冀。已見炎燄延屋宇。一身終無手可出。文房諸物百家書。室中狼藉皆損棄。數十年來所儲蓄。况又多。是自筆記。野詩拙文章。稿本可憐。眼前炎火界。僅抱小篋芒々去。一顧一行々殊遲。墜瓦崩垣塞街衢。崎嶇尋路幾回躓。行步艱難險於山。漸出坦途成街次。士庶避火出器物。街上兩側窄如隧。行尋家累又西行。湯臺々下適相值。此時會無纖芥欲。徒脫死傷相欣喜。君不見茅屋蝸廬倒蹴天。大厦廣堂壞委地。或發屋

覆或穿壁。乃脫乃免。猶尙喘。夫人奔走無暇。輿公子遜逃不俟騎。主人失僕。僕失主。流離顛沛。莫不致。相顧知友同罹禍。舉家今夜何處寄。天地震怒。何甚。已發祝融。令放姿。三十六所同時火。僻易赫烈。蓋天氣。羽火咸陽。蓋亦然。益焚山澤。未足譬。方恐四里四方爲灰燼。又驚八百八町陷。爐錘。玉石俱焚。金鐵流。珍寶名器。無遺類。拯親於火。掘子壓。燒髮焦。身亦不忌。人々相助。急相救。誰有鄉邇。撲滅志。衆恐再震。屯曠所。下無茵席。上無庇。前畏覆壓。後畏火。今夕何夕。災至此。婦女老少。相泣語。夜深霜隕。寒已摯。又無布衾。可禦寒。露宿至曉。衣霜漬。飢餓何處。可炊爨。飲食唯仰親舊。饋又不見。各地處々。有死人。白紙插竿。爲標識。燒亡覆壓。無形跡。不見聞者。又不啻。父死子死。父子恩。無由棺歛。送僧寺。弊帷水桶。僅蓋屍。何論喪禮。與法諡。殊哀。回向院中骸。委重如山。何神祟。或云死亡二十萬。聞之。何人不酸鼻。立望四方。失舊觀。風捲烟塵。天地闕。千萬商賈。認燒宅。各署名字。建旗幟。編板換壁。薦茨屋。遠近參差。聊爲肆。列館連邸。爲燒土。燒土間。存枯攢植。陰雨夜中。陰火燃。行人往々。逢鬼魅。予早寓居伊藤氏。家人幸免。患冷痺。宣三歸來。是月四。相見未言。先含淚。云地震。即南方火。火是江戶。皆指示。火光燒天。曉未滅。歸心如飛。一夜跋。關心爺娘。與兄妹。短晷一日。三秋思。何幸兄弟。俱三人。二親目下。得相萃。官作廣廬。凡五所。偏置窮民。食時賜。

嗚矣。富人興於仁。誇多爭先。各爲施。昨日飢寒。今煖飽。一時醫得幾憔悴。聞之。天之降禍。徒非禍。其是恤民。令懲愆。凡子子弟及門人。明智天之不假易。一變華麗。復撲素。主張實用。省浮費。能修其身。以及時。夙夜是謹。一終始。爲臣忠。爲子孝。緩急共待。君父試。唯願廟堂大其謨。古訓是訓。應天意。已修文德。大奮武。外攘夷狄。無內讐。災害不生。國安富。優游詩書。得講肄。

地震行安政乙卯(○二年。紀元二五一五年)十月二日

不遇大災。異不知真敬戒。至其土裂。其室焚。滿者知損。怠者勵。是歲十月之初夜。二更。驀忽大地聲奔騰。億萬人家。如朽壤。化手一弄。皆分崩。堂襟不見。見堂脊。斷柱爲薪。薪逾積。警鐘連發。火四起。天地在鎔。金絕赫。貴官徒步不問馬。脫身既難。况滅火。餘殃及池。多賴魚。殘焰入殿。有赭瓦。耳聞走脚。偕衝撞。眼看橫屍相疊。雙極樂。國俄變地獄。休明世。即如亂邦。天漸曙。時火漸熄。四顧慘澹。凝愁色。餘怒未霽。時一震。貴賤席地不寧息。我覓吾廬。安在哉。五畝茫茫。吹燼灰。辛勤卅載。付一炬。殘書破硯。隨炎埃。依入廡。下食人食。意境何曾免。偈仄。平生口體。頗精美。到此粗惡。改前轍。我聞明曆之火。人死過十萬。又聞元祿之震。大城橋板斷。今年之災。人死廿萬。城崩幾處。大震大火。併爲卅年間一大患。剩見去歲東海。海翻東土裂。數百里田。半陷沒。相豆

駿遠參五州。民力困兮民財竭。吁嗟乎吾儕小人何說艱。但願天下之志士開愁顏。巢由不會談經濟。自有夔龍列朝班。聊爲家國越俎告。亦如老人結草報。破例正要濟時方。府庫未必就虛耗。君不知周幽王二年。一時大震及三川。是陽不能鎮陰也。伯陽之議豈不然。然則天意可知耳。以德庇下固其理。大瞻斯民以此伏罪非可辭。韓韶不云乎含笑入地矣。今在位者須念之。姝姝小惠何是施。人配天命則轉禍而爲福。得非大災以固太平基。

枕山人○大沼厚題於三枚橋○市內谷區。炎餘地。

地震行

釋性清狂月

或所著震災記曰、大城譙門及樓櫓崩、半藏四谷諸門○市內麴町區大破、其他樓櫓雉堞悉剝落、濠塹石砂崩者、無慮數行。又曰、所在火起、凡五十八所。又曰、死亡者不下三十萬人。又曰、深川○市內及小川坊○市內神田區夜既深、有物啾々、如泣如訴、至曉不絕、人以爲冤鬼哭聲、吉原○市內淺草區之上、多見陰燐、蓋亦冤枉之氣所結、故詩亦及之。

維歲安政乙卯冬。十月二日夜二更。武州江戶征夷府。地震延災及柳營。城復于隍。陵谷變。梁木壞乎大厦傾。何者祝融來助虐。烟焰漲天天狗行。君臣父子不相救。轉輾呼號陷火院。壓死大凡三十萬。慘於白起坑降兵。君不見昔時周室王綱弛。蠻夷猾夏迫東京。天遣變警戒。詔卅二年幾變呈。地震者五山崩。聖人特筆載麟經。今也四夷交侮我。將軍猶未議親征。所以變災相繼至。山崩地震海波驚。三四年間十

幾變。天之警戒太分明。變理陰陽任責者。姑息和戎飾太平。堂々帝王征夷府。甘與犬羊城下盟。皇天后土諸神祇。赫斯震怒壞金湯。嗚呼退遇震怒徒壓死。寧如進戰取功名。縱使吾軍無大利。一戰何傷卅萬生。聞說滿城頽屋下。碎首斷臂亂縱橫。月黑天寒雨雪夜。到處啾々鬼哭聲。

記江都地震

吉川 天浦

斷吾手。斷吾足。梁棟壓身脫不得。猛火炎々咫尺逼。甲第丙舍千萬間。礎飛柱碎崩如山。烈火俱焚崑岳玉。鐵椎忽破齊后環。夜深悲風吹不靜。行人魂怯青燐影。骸骨載出幾輛車。街頭十日鬼氣冷。君不見城中人衆地難勝。戴天履地地不平。一朝發怒逞酷虐。號泣聞天天亦驚。吁嗟哉父喪子。子喪母。鬼哭聲雜人哭聲。

安政二年○紀元二神無月二日一五年みじきなるゆりけきり、

井上 文雄

動きなくあつしと土を思ひしに心をひやす折もありけり。同じ頃かゝるみじきなるの後のつなみといふものあらむなど、人々恐れあへるに、ある夜、雨風あらく海なる音しるるに、つなみありとて、大路を走りありくをの有ければ、人々さればよと家を捨て、にげいでぬ、

そのはやう盗人のとぎよて、そがまぎれに物の具うばはんとしけるを、
やがてとらへられて、ひとやよひかれにたりとぞ。

白波のよるれたむかり忽ちにおのれかへりてひかれぬる哉。

安政二年五〇紀元二
五一五年十月二日、江戸此地震のさわぎに、火のわざはひ起り
て、わが年頃いそしみたりし萬葉通の稿本廿餘卷やけうせける時、悲し
み歎きてよめる歌並短歌

猿 渡 容 盛

夏の日の、暑き夕べも、すゞみすと、庭にをいでず、冬の夜の、寒き夜すらを、人の
ぬる、うまいもねずて、いそしめる、わざは何とぞ、わがため此、とぎにはあらず、
いはまくは、畏こかれども、千早振、神代のみ跡、風の音の、遠御世御世の、御故事、
いよゝさだかに、かたりつぎ、いひつぐがねと、真荒男の、心ふりおこし、青丹吉、
ならの古葉の、古言の、道の八十隈、くまもちちず、讀あまなひて、釋言を、書に著
はし、其状を、圖にもかきみ、あら玉の、年月遍く、文机の、板もとを、くに、積れし、
其籍卷の、我爲の、書にあらむ、大御世の、榮の爲、食國の、固の爲と、身におはぬ、
賤のを我が言擧をとがめたまへや、僻わざを、さらひ給へや、軻具土の、神のあ

らびに、其籍の、烟となりて、天雲に、棚引みれば、心ともなし。

短歌

成せる業烟となりぬ今よりの我世のなにのこをあもせむ。
我ばかり幸なき人の世にもあらばこのわが心語らはましを。

〔附記〕

附記
安政三年
ノ地震

安政三年丙辰五〇紀元二
六一六年正月三日辛酉三〇辛酉
三〇八日丙寅三〇丙寅
三〇二月廿九日
丁巳三〇丁巳
三〇四月廿六日壬子三〇壬子
三〇五月二十日丙子三〇丙子
三〇六月十九日甲
辰三〇甲辰
三〇七月廿八日癸未三〇癸未
三〇十月七日辛卯三〇辛卯
三〇十二月三日丙戌三〇
三〇

安政三年五〇紀元二
六一六年

江戶地震ス。事寒暖晴雨升降記〇震災豫防調
査會報告所抄。ニ見ユ。

正月三日	夕七時	無 <small>雲往來 風。</small>	夕七ツ時過地震。
正月八日	朝五時	無 <small>曇 風。</small>	朝五ツ時過地震。
二月二十九日	朝五時	無 <small>晴 風。</small>	四ツ半地震。
四月二十六日	夕七時	南 <small>薄 風。</small>	夕七ツ時過地震。
五月二十日	夕七時	南 <small>晴 風。</small>	同時刻地震。

蕪都時代ノ震災

六月十九日 朝五時 無微雨。

五ツ時過地震。

七月二十八日 朝五時 無曇風。

曉七ツ時頃地震。

十月七日 朝五時 無薄風。

五ツ半時地震。無風。

十二月三日 午中 無晴風。

晝過地震。

齋藤月峯日記ニハ、元日○安政三年(紀元)正月。曉地震少々。○安政三年(紀元)正月。夕方二度地震。九日○安政三年(紀元)正月。晝時地しん。十二日○安政三年(紀元)正月。深夜地震少々。十七日○安政三年(紀元)正月。曉少々地しん。廿五日○安政三年(紀元)正月。霄地しん少々。五日○安政三年(紀元)二月。八つ頃地しん。廿九日○安政三年(紀元)二月。晝少々地震。廿八日○安政三年(紀元)三月。夕七時頃地しん少々。廿九日○安政三年(紀元)三月。夜五時前地震少しつよし。八日○安政三年(紀元)四月。夜五時頃地しん少々。廿六日○安政三年(紀元)四月。夕七時地しん。廿三日○安政三年(紀元)五月。明方少々地しん。夜雨ふる。少々地しん。廿八日○安政三年(紀元)五月。晝九半地しん。十日○安政三年(紀元)六月。曉少々地しん。廿八日○安政三年(紀元)七月。晝過地震柔けれど間長し。奥州南部大地震。廿六日○安政三年(紀元)七月。朝少地震。廿八日○安政三年(紀元)七月。夜高潮もありし由。廿六日○安政三年(紀元)八月。曉少々地震。十六日○安政三年(紀元)八月。夜九つ過少々地震。五日○安政三年(紀元)八月。曉少々地震。十六日○安政三年(紀元)八月。夜九

時前少地しん。十日○安政三年(紀元)九月。暮過少々地しん。十一日○安政三年(紀元)九月。五過頃、少々地しん。十月朔日○安政三年(紀元)十月。朝四頃、地しん少々。二日○安政三年(紀元)十月。少々地しん。四過頃。十日○安政三年(紀元)十月。四つ過地しん少々。十一日○安政三年(紀元)十月。日くれ後、地しん。至少々。十五日○安政三年(紀元)十月。小地しん。夕方至而少々。廿三日○安政三年(紀元)十一月。朝五つ時小地しん。十一月朔○安政三年(紀元)十一月。夜九時過地震少々。三日○安政三年(紀元)十二月。晝九つ時過、地震少々。ト有リ。時風録ニハ、十月七日○安政三年(紀元)十一月。地震ヲ記シテ左ノ如ク云ヘリ。

一、今朝五時地震餘程強し、棚のもの震落し、又は壁を落し、損家ノ分潰たるも所々にあり。

四年丁巳○安政〇紀元。二月十五日丁酉○丁酉、三。五月二十日庚午○庚午、三。閏五月廿三日癸卯○癸卯、三。八月朔日己酉○己酉、三。九月廿一日己亥○己亥、三。十月廿三日辛未○辛未、三。十一月十七日甲午○甲午、三。廿九日丙午○丙午、三。江戸地震ス。寒暖晴雨升降記○震災豫防調査會報告所抄。云フ所左ノ如シ。

安政四年○紀元。五○紀元。

二月十五日 夕七時 北晴風天。夜八時半時地震。晴風天。

五月二十日 午中 無曇風天。午後地震。

閏五月二十三日 曉七時半 無村風雲。地震。

八月朔日 朝五時 薄西南風曇。明ヶ六半時頃地震。

九月二十一日 午中 無晴風天。八時半時頃地震。

十月二十三日 夕七時 無晴風天。夜五時半時頃小地震。

十一月十七日 夕七時 無晴風天。夜八時前地震。晴風天。

十一月二十九日 夕七時 北曇西風天。夜五時半時頃小雨地震。

齋藤月峯日記亦正月二日○安政四年(紀元二五〇七年)〇下同。四日廿一日廿四日二月廿三日廿四日三月廿日五月五日二回廿日閏五月三日廿三日六月四日三回五日七日十日十二日七月五日八月朔日九月七日廿一日廿五日十月三日二回十一月十七日廿九日ノ地震ヲ記シ内閏五月廿三日○安政四年(紀元二五〇七年)〇下同。十一月十七日○安政四年(紀元二五〇七年)〇下同。二十九日ノ者ハ「夜中丑刻地しん少々つよし」同○安政四年(紀元二五〇七年)〇下同。二十九日ノ者ハ「夜中地震少々に而長し」ト爲ス。

五年戊午○安政〇紀元二五〇八年二月十三日己未○己未、三廿九日乙亥○乙亥、三四月十日乙卯○乙卯、三五月四日戊寅○戊寅、三廿八日壬寅○壬寅、三八月十九日辛酉○辛酉、三十月九日辛亥○辛亥、三十一月八日己卯○己卯、三江戸地震ス。寒暖晴雨升降記○震災豫防調査會報告所抄。左ノ如ク見ユ。

安政五年〇紀元二五〇八年

二月十三日 朝五時 無曇天。朝五時頃地震。

二月二十九日 夕七時 薄曇。夜九時時地震。晴風天。

四月十日 朝五時 無曇天。朝五半時地震。晴風天。

五月四日 夕七時 無曇天。夕七半時地震。浮雲。

五月二十八日 夕七時 晴風天。夜五時時地震。晴風天。

八月十九日 朝五時 雨天。四半時少地震。雨天。

十月九日 夕七時 晴天。夜八半頃地震。村風雲。

十一月八日 夕七時 曇天。暮六時頃地震。村風雲。

齋藤月峯日記ハ二月十三日○安政五年(紀元二五〇八年)〇下同。晦日三月七日八日廿日四月十日廿三日五月四日六日七日十二日廿八日六月朔日廿日廿九日七月朔

安政六年
ノ地震

日八月八日九月九日十九日廿五日十月二日九日十一月八日十日十八日
廿六日十二月八日九日ノ地震ヲ記ス。内二月十三日○安政五年(紀元一八八一年)ノ者ハ、
「明方地しん少しつよし」五月廿八日○安政五年(紀元一八八一年)ノ者ハ、夜四時頃地しん少々なれ共甚長し。十一
月八日○安政五年(紀元一八八一年)ノ者ハ、日暮後地しん少々つよし。十二月八日○安政五年(紀元一八八一年)ノ者ハ、八時頃地しんつよしト有リ。

六年己未○安政五年(紀元一八八一年)二月廿五日丙寅○丙寅(紀元一八八二年)六月四日壬寅○壬寅(紀元一八八二年)廿八日
丙寅○丙寅(紀元一八八二年)二回七月廿五日癸巳○癸巳(紀元一八八二年)江戸地震ス。寒暖晴雨升降記○豫震
防調査會
報告所抄云フ、

安政六年○紀元一八八一年

二月二十五日	夕七時	無晴風天	夜九ツ時前地震
六月四日	夕七時	無浮風雲	暮六ツ時地震 <small>浮雲無風</small>
六月二十八日	朝五時	無細風雨	四ツ時過地震 <small>曇風無天</small>
同日	夕七時	無曇風天	七ツ半時前地震 <small>曇風南天</small>
七月二十五日	夕七時	南曇微風天	夜五ツ時過地震 <small>雨風強風天</small>

萬延元年
ノ地震

齋藤月岑日記亦三月十三日○安政六年(紀元一八八一年)廿四日八月四日廿二日十月
十三日廿三日十二月十三日ノ地震ヲ記シ、八月廿三日○安政六年(紀元一八八一年)ノ者
ヲ、曉地しん少々つよく長しト爲ス。

萬延元年庚辰○紀元一八八二年二月十二日丁未○丁未(紀元一八八二年)五月三日丙申○丙申(紀元一八八二年)十四
日丁未○丁未(紀元一八八二年)七月四日丙申○丙申(紀元一八八二年)廿七日己未○己未(紀元一八八二年)八月廿二日癸未○癸未(紀元一八八二年)
未○未(紀元一八八二年)江戶地震ス。寒暖晴雨升降記○豫震防
調査會報告所抄ニ、

萬延元年○紀元一八八二年

二月十二日	夕七ツ時	無曇風天	夕七時過地震 <small>此時球行三千四百十五萬</small>
五月三日	午中	無曇風天	晝八ツ半頃地震 <small>雲往來南微風</small>
五月十四日	夕七ツ時	南雨風天	地震 <small>球行三十八萬 ○千二百八十八行</small>
七月四日	夕七ツ時	無晴風天	少地震
七月二十七日	午中	北雨小風天	地震
八月二十二日	午中	北漸風晴	晝八ツ半時地震 <small>晴天北風</small>

齋藤月岑日記ニハ、二月十一日○萬延元年(紀元一八八二年)十二月十四日三月廿二日
廿三日四月十六日十八日廿五日廿七日二回廿八日五月三日四日十一日

文久元年
ノ地震

十三日廿日八月廿二日十月四日十二月二日各地震ノ記事有リ。内五月三日
日〇萬延元年(紀元二五二〇年)ノ條云フ、夕七時地しん、少しつよし。
 文久元年辛酉〇紀元二五二一年二月十六日甲戌〇甲戌、三正綜覽三月九日丁酉〇丁酉、三正綜覽九月
 十二日丁酉〇丁酉、三正綜覽十八日癸卯〇癸卯、三正綜覽江戸地震。寒暖晴雨升降記 〇震災豫
 防調査會
 所抄。ニ見ユ。

文久元年 〇紀元二五二一年

二月十六日 夕七時

無薄風雲。地震。夜中球行八十五萬

三月九日 夕七時

南村微風雲。明七時時過地震。

九月十二日 朝五時

無曇風天。朝五時時半頃少地震。晴天。

九月十八日 曉七時

晴天。地震。

齋藤月岑日記ハ、二月十三日〇文久元年(紀元二五二一年)〇下同二十六日三月九日四月廿三日

廿九日五月廿二日七月十二日八月廿五日九月二日十八日十月八日十一

月二日七日ノ地震ヲ記シ、二月十六日〇文久元年(紀元二五二一年)ノ者ヲ、夜六半頃地し

ん、少々つよし。トシ、八月廿五日〇文久元年(紀元二五二一年)ノ者ヲ、夜九時頃地震少々強

し。九月十八日〇文久元年(紀元二五二一年)ノ者ヲ、曉七時前地震、餘程つよく長し。十一月

文久二年
ノ地震

七日〇文久元年(紀元二五二一年)ノ者ヲ、夜九時過地しん、つよし。トス。
 二年壬戌〇文久二年(紀元二五二二年)ノ者ヲ、正月十五日戊戌〇戊戌、三正綜覽十九日壬寅〇壬寅、三正綜覽廿五日戊
 申〇戊申、三正綜覽二月二日乙卯〇乙卯、三正綜覽三十日癸亥〇癸亥、三正綜覽十五日戊辰〇戊辰、三正綜覽五月十
 四日丁酉〇丁酉、三正綜覽六月十八日己巳〇己巳、三正綜覽九月十一日庚申〇庚申、三正綜覽十月廿八
 日丁未〇丁未、三正綜覽十一月廿七日乙亥〇乙亥、三正綜覽江戸地震ス。寒暖晴雨升降記 〇震
 災豫
 防調査會
 所抄。ニ、

文久二年 〇紀元二五二二年

正月十五日 午中

晝八時時地震。晴西北風天。

正月十九日 朝四時

北曇風天。地震。

正月二十五日 夜五時

無晴風天。地震少。

二月二日 午中後

北雨微風天。地震。

二月十日 朝五時半

無村風雲。地震。

二月十五日 夕七時

無晴風天。夜九時時過少地震。南大風。

五月十四日 朝五時

無晴風天。朝四時時少過小地震。晴天。

六月十八日 夕七時

南晴風天。小地震。

帝都時代ノ震災

文久三年ノ地震

九月十一日 午中 北雨 天。 午中千四百行前地震。

十月二十八日 夜四時 北皆 風。晴。 地震。

十一月二十七日 夕七時 晴 天。 翌曉九ツ半時地震。但シ算脉數六十七脉ノ間地震。

齋藤月岑日記ハ、是年○文久二年(紀元二五二二年)〇下同。二月二日三月五日十六日五月六日十四日二回廿九日七月廿一日閏八月十四日九月八日十一月三日三回十月朔日六日八日十日廿八日何レモ地震ノ記事ヲ載ス。丙三月五日○文久二年(紀元二五二二年)〇下同。ハ、夜五時過地しん、少しつよし。九月十一日○文久二年(紀元二五二二年)〇下同。ハ、四時頃地震長し。暮方少々地しん。又少々地しん。

三年癸亥○文久〇紀元二五二三年。二月三日己卯○己卯、三正綜覽。三月十九日乙丑○乙丑、三正綜覽。五月六日辛亥○辛亥、三正綜覽。六月十九日甲午○甲午、三正綜覽。八月十二日丙戌○丙戌、三正綜覽。十六日庚寅○庚寅、三正綜覽。九月七日辛亥○辛亥、三正綜覽。廿九日癸酉○癸酉、三正綜覽。十月廿二日乙未○乙未、三正綜覽。十二月廿二日甲午○甲午、三正綜覽。江戸地震ス。寒暖晴雨升降記○震災豫防調査會報告所抄。云フ。

文久三年○紀元二五二二年。

二月三日

夕七時

北晴 風。天。

夜五ツ時過地震。

三月十九日	夕七時	南微 風。雲。	地震。
五月六日	朝五時	東村 風。雲。	四ツ半時小地震。
六月十九日	夕七時前	無晴 風。天。	地震。
八月十二日	朝五時	無晴 風。天。	朝四ツ時前地震。
八月十六日	朝五時	北曇 風。天。	朝五ツ時前地震。
九月七日	夕七時	無晴 風。天。	夜九ツ時地震。
九月二十九日	午中	無村 風。雲。	晝九ツ時過地震。
十月二十二日	夕七時	無曇 風。天。	暮六ツ時地震。
十二月二十二日	夕七時	北晴 風。天。	暮六ツ時地震。

是年○文久三年(紀元二五二三年)〇下同。二月三日廿日四月朔日五月六日六月十七日八月二日十二月十六日九月八日廿七日三回廿九日十月廿二日何レモ地震シタルコト、齋藤月岑日記ニ見ユ。丙二月三日○文久三年(紀元二五二三年)〇下同。ノ者ハ、夜四頃地震、少しつよし。ト記シ、九月八日○文久三年(紀元二五二三年)〇下同。ノ者ハ、曉地震少し強く長し。ト記ス。

元治元年ノ地震

霸都時代ノ震災

元治元年甲子○紀元二五二四年。五月三日壬寅○壬寅、三正綜覽。十三日壬子○壬子、三正綜覽。十四日癸

丑○癸丑、三 江戸地震ス。寒暖晴雨升降記○震災豫防調
査會報告所抄。云フ、

元治元年五〇紀元二
五二四年。

五月三日 朝五時 北村北微風。 明六ツ半時地震。

五月十三日 朝五時 北曇北微風。 朝四ツ時地震。

五月十四日 夕七時 南晴南風。 夜五ツ時過地震。

齋藤月岑日記ニハ、三月五日五〇紀元二
五二四年。〇下同。十一日四月十四日廿五日五

月三日十三日六月十日十七日十月廿一日十一月十九日二回十二月三日

四月五日ノ地震ヲ舉グ内三月十一日二〇紀元二
五二四年。分ハ、晝過地震長シ。ト

有リ。五月三日二〇紀元二
五二四年。分ハ、明六時過地しん強く長シ。ト有リ。

慶應元年乙丑五〇紀元二
五二五年。正月十四日庚戌三〇紀元二
五二六年。二月朔日丁卯三〇紀元二
五二六年。三日

己巳三〇紀元二
五二六年。五月四日戊戌三〇紀元二
五二六年。二回八日壬寅三〇紀元二
五二六年。廿日甲寅三〇紀元二
五二六年。六

月三日丙申三〇紀元二
五二六年。十六日己酉三〇紀元二
五二六年。八月二日甲午三〇紀元二
五二六年。十月十五日丙

午三〇紀元二
五二六年。十七日戊申三〇紀元二
五二六年。廿四日乙卯三〇紀元二
五二六年。江戸地震ス。寒暖晴雨升降

記○震災豫防調
査會報告所抄。ニ、

慶應元年五〇紀元二
五二五年。

慶應元年
ノ地震

正月十四日 夕七時 北少北風。 暮六ツ時過地震。

二月朔日 夕七時 無曇無風。 夜五ツ半時地震。

二月三日 夕七時 北晴北強風。 夜四ツ時過地震強。

五月四日 朝五時 北村北風。 四ツ時前地震。

同日 午中 同。 八ツ時前地震。

五月八日 朝五時 南村南薄雲。 四ツ時前地震。

五月二十日 朝五時 無薄無風。 曉六半時千九百行前地震。

六月三日 朝五時 無村無風。 四ツ時前地震。

六月十六日 朝五時 無村無風。 曉八ツ時頃地震。

八月二日 夕七時 無快無風。 七ツ時三百六十三行前地震。

十月十五日 夕七時 無雨無風。 夜四ツ時四百八十四行過地震雨天。

十月十七日 夕七時 無村無風。 八ツ時八百三十三行前地震。

十月二十四日 夕七時 無晴無風。 夜五ツ時地震。

齋藤月岑日記慶應元年五〇紀元二
五二五年。ノ條ニハ、一月十四日二月朔日三日三月

廿三日五月六日二度廿日六月三日八月二日十月十七日十二月廿一日ノ

地震見ユ。一月十四日二〇慶應元年(紀元二五二五年)ノ條云フ、夜五時前地震、少し強し。二月朔日二〇慶應元年(紀元二五二五年)ノ條云フ、五時過地震少々つよし。三日二〇慶應元年(紀元二五二五年)ノ條云フ、夜四つ時少し前地震餘程つよし。十月十七日二〇慶應元年(紀元二五二五年)ノ條云フ、深夜地しん、少々つよし。

二年丙寅二〇慶應〇紀元二五二六年。正月二日壬戌三〇壬戌三〇壬辰三〇壬辰三〇十五日甲辰三〇甲辰三〇廿八日丁巳三〇丁巳三〇五月廿五日癸未三〇癸未三〇七月十二日戊辰三〇戊辰三〇廿日丙戌三〇丙戌三〇八月七日癸巳三〇癸巳三〇九月九日乙丑三〇乙丑三〇十月十八日癸卯三〇癸卯三〇廿三日戊申三〇戊申三〇十一月十二日丁卯三〇丁卯三〇十九日甲戌三〇甲戌三〇廿一日丙子三〇丙子三〇江戸地震ス。寒暖晴雨升降記 查會報告所抄。二、

慶應二年 五〇紀元二五二六年。

正月二日	夕七時	無薄	風雲	夜八時半時二百五十行過地震。
四月三日	朝五時	無細	風雨	朝四ツ時過地震。
四月十五日	朝五時	無薄	風蒙	今曉七ツ半時地震。
四月二十八日	夕七時	無曇	風天	夜四ツ時五百二十行過地震。
五月二十五日	朝五時	無薄	風雲	辰時二千七百行前地震。

七月十二日	朝五時	無曇	風天	四ツ時千七百二十七行過地震。
七月三十日	午中	無薄	風雲	九ツ時二千六百二十行前地震。
八月七日	午中	無雨	風天	晝九ツ時二千八百七十七行後地震。
九月九日	朝五時	無晴	風天	明六ツ時過晴天無風地震。
十月十八日	朝五時	無甚	風晴	今曉六ツ時一千七百四十〇後地震。
十月二十三日	午中	無晴	風天	晝八ツ時地震。候同上。
十一月十二日	午中	北晴少	風天	晝九ツ時半地震。
十一月十九日	朝五時	無晴	風天	曉七ツ時前地震。
十一月廿一日	夕七時	無薄	風雲	夜五ツ時千五百行前地震。

齋藤月岑日記亦正月三日五〇慶應二年(紀元二五二六年)〇下同。廿三日二月十一日十六日三月廿一日四月三日十五日廿三日五月六日七月晦日八月七日十一月十日十月十八日十一月十二日廿一日廿五日廿六日ノ地震ヲ記シ、十月十八日二〇慶應元年(紀元二五二六年)ノ者ニ於テ、曉地しん、長く少しつよしト爲ス。

三年丁卯二〇慶應〇紀元二五二七年。正月廿一日丙子三〇丙子三〇二月十六日庚子三〇庚子三〇五月朔日甲寅三〇甲寅三〇三十一日甲子三〇甲子三〇三十一日甲戌三〇甲戌三〇廿三日丙子三〇丙子三〇

七月十一日壬戌○壬戌、三正綜覽。廿八日己卯○己卯、三正綜覽。十月十一日庚寅○庚寅、三正綜覽。十一月九日戊午○戊午、三正綜覽。十七日丙戌○丙戌、三正綜覽。江戸地震ス。即チ齋藤月岑日記ニ、
 廿一日○慶應三年(紀元二五二七年)正月。暮時少々地しん。
 十六日○慶應三年(紀元二五二七年)二月。暮頃地しん。
 五月朔日○慶應三年(紀元二五二七年)。晝後地しん少々。
 十一日○慶應三年(紀元二五二七年)五月。夕地しん少々。
 廿一日○慶應三年(紀元二五二七年)五月。曉地しんすこし強し。
 廿三日○慶應三年(紀元二五二七年)五月。夕八時地震甚長し。
 十一日○慶應三年(紀元二五二七年)七月。夜地震少々。
 廿八日○慶應三年(紀元二五二七年)七月。夕方少々地しん。
 十一日○慶應三年(紀元二五二七年)十月。明方地しん。
 九日○慶應三年(紀元二五二七年)十一月。暮六過地しん。
 十七日○慶應三年(紀元二五二七年)十一月。曉地しん。
○索引ニハ、十月二日(○慶應三年紀元二五二七年)大地しん。トアレドモ、日記ニ記事無シ。

第二節 本記

帝都時代ノ震災

維新後ノ地震

明治天皇明治元年戊辰○紀元二五二八年。七月十五日江戸ヲ改メテ東京トシ、十月十三日○明治元年(紀元二五二八年)。車駕東京城ニ入ラセラレ、二年己巳○明治。○紀元二五二九年。三月廿八日御再幸有リ、永ク奠鼎ノ地ト定メラル。

○皇城史。市街史参照。爾來十有餘年、地震無キニ非サレドモ、竟ニ強大ナル

者有ラズ。○寒暖晴雨升降記。齋藤月岑日記。續武江年表。小笠原清務日記。郵便報知新聞。地震報告。其多少破壊的性質ヲ

具シタルハ、明治十三年○紀元二五四〇年。二月廿二日午前零時五十分十九秒ニ起リタル地震ヲ初トス。家宅倉庫ノ屋壁煉瓦ニ裂罅ヲ

生ジ、室内品物ノ顛覆毀損スル者有リ。○地震報告。

維新後ノ地震 王政維新後、明治十三年○紀元二五四〇年。ニ至ル間、東京ニ起リタル地震ノ重ナル者ヲ左ニ擧グ。概シテ破壊的威力ヲ有スル者ニ非ザリシニ似タリ。

明治元年戊辰○紀元二五二八年。正月十七日十八日、二月三日八月廿八日九月十二日。

帝都時代ノ震災

明治十三年ノ震災

維新後ノ地震事蹟

明治元年ノ地震

十二月廿日地震フ。即チ

明治元年五〇紀元二

正月十七日 夕七時

晴天

夜半地震

二月三日 朝五時

晴天

同時地震

——寒暖晴雨升降記
○震災豫防調査會報告所抄

十八日〇慶應四年(即チ明治元年)正月。曉地しん。

三日〇明治八年(紀元二月)曉地しん。朝五時地しん。

廿八日〇明治八年(紀元八月)暮方地震少し強し。

十二日〇明治八年(紀元九月)夕七時地しん。

廿日〇明治元年(紀元二月)曉地震。

二年己巳〇明治九年。是年東京地震フ者左ノ如シ。

八日〇明治九年(紀元正月)曉地震。少々長し。

廿七日〇明治九年(紀元四月)夕七時前地震長し。

廿四日〇明治九年(紀元五月)明六半地しん。

五日〇明治九年(紀元七月)夕地しん。

——齋藤月岑日記

十六日〇明治二年(紀元十一月)二夜九つ半地震少々。

廿三日〇明治二年(紀元十一月)二夜九半頃地しん。

廿六日〇明治二年(紀元十二月)二曉地しん。夜少々地しん。

三年庚午〇明治三年(紀元二月)廿八日。三月五日。廿九日。四月朔日。三日。十三日東京地震ス。

——齋藤月岑日記

二十八日〇明治三年(紀元二月)地しん少々。

五日〇明治三年(紀元三月)八頃地しん。

廿九日〇明治三年(紀元三月)九頃地しん。

四月朔日〇明治三年(紀元四月)朝少地震。

三日〇明治三年(紀元四月)晝過少地しん。

十三日〇明治三年(紀元四月)曉地しん。

四年辛未〇明治四年(紀元正月)朔日。東京地震フコト兩度。八日及八月十五日亦地震ス。

——齋藤月岑日記

明治四年〇紀元二年。正月元日。晝夜兩度地震。

八日〇明治四年(紀元正月)夜九時頃地震。

帝都時代ノ震災

明治六年ノ地震

明治七年ノ地震

明治八年ノ地震

東京市史稿

四五〇

十五日〇明治四年(紀元)八月。晝地震。

——小笠原清務日記

六年〇明治三年(紀元)七月廿八日東京地震有り。

廿八日〇明治六年(紀元)七月。時刻不分地震、この日大雨。

——小笠原清務日記

七年〇明治四年(紀元)三月十八日六月七日廿五日八月六日廿日九月十八日十月

七日十一月六日東京地震ス。

十八日〇明治七年(紀元)三月。明方地しん少々。

七日〇明治七年(紀元)六月。夜中二字地震。

廿五日〇明治七年(紀元)六月。朝地しん有。

六日〇明治七年(紀元)八月。くれ前少々地しん。

廿日〇明治四年(紀元)八月。十時過地震あり。

十八日〇明治四年(紀元)九月。明前地しん。

七日〇明治四年(紀元)十月。曉小地震。

六日〇明治七年(紀元)十一月。深夜地震少々。

——齋藤月岑日記

八年〇明治五年(紀元)一月十四日三月十日十一月十五日四月二日廿三日三

十日七月八日九日十月六日十一月十四日十二月八日十七日二回東京地震ス。

十日〇明治八年(紀元)二月。夜地震、この日大風。

十一日〇明治八年(紀元)二月。二時頃地震、この日俄風。

二日〇明治八年(紀元)四月。朝地震。

——小笠原清務日記

十四日〇明治八年(紀元)一月。夜十一時過、三度程地震少々つよし。

十五日〇明治八年(紀元)二月。夜十二時頃地震小し。

二日〇明治八年(紀元)四月。明方六時過地震つよし。

廿三日〇明治八年(紀元)四月。夜中地震あり。

三十日〇明治八年(紀元)四月。四時頃地震。

八日〇明治八年(紀元)七月。夜十一時頃地震。

九日〇明治八年(紀元)七月。夕二時頃地震少々。

十四日〇明治八年(紀元)十一月。深夜中地しん。

八日〇明治八年(紀元)十二月。夜十一時過地震頗る長し。

十七日〇明治八年(紀元)十二月。晝十二時頃少々地しん。二時頃少し地しん。

帝都時代ノ震災

四五二

——齋藤月岑日記

昨日五〇明治八年(紀元二五三五年)十月六日午後六時半の地震は、出し抜にズシンと云ふ響がいたして可なり強う御座ひました。

——郵便報知新聞

其後九年二〇明治〇紀元二五三六年一月三回、二月四回、三月六回、四月十一回、五月五回、六月三回、七月三回、八月五回、九月三回、十月三回、十一月四回、十二月六回、東京地震フコト、下ニ記ス所ノ如シ。内四月十一日二〇明治九年(紀元二五三六年)ノ地震ハ、郵便報知新聞ニ左ノ如ク有リ。

昨日三〇明治九年(紀元二五三六年)四月十一日午前二時過に、餘程大きな地震が震りました。萬歳樂。

明治十年ノ地震
其翌十年〇明治二五三七年ニハ、一月四回、二月五回、三月六回、四月五回、五月八回、六月九回、七月六回、八月四回、九月一回、十月八回、十一月六回、十二月九回、東京地震ヒ、十一年〇明治二五三八年一月三回、二月八回、三月七回、四月二回、五月五回、六月四回、七月四回、八月一回、九月二回、十月四回、十一月六回、十二月四回、十二年〇明治二五三九年一月六回、二月七回、三月十四回、五月九回、六月四回、七月三回、八月四回、九月一回、十月七回、十一月六回、十二月九回、十三年〇明治二五四年ニハ、一月

九回、東京ノ地震ヒタルコト、亦下文記ス所ノ如シ。

明治十三年ノ震災 ハ、二月廿二日午前零時五十分十九秒ニ起リタル強震ニシテ、市内ニ多少ノ損害有リ。下文明治十七年五〇紀元二五四四年震災ノ條ニ併記ス。

〔附記〕

明治十三年五〇紀元二五四〇年二月廿二日ノ強震ヲ外ニシテ同月二〇明治十三年(紀元二五四〇年)二月中尙八回ノ地震有リ。其後ハ、三月二〇明治十三年(紀元二五四〇年)〇下ニ六回、四月ニ六回、五月ニ二回、六月ニ九回、七月ニ八回、八月ニ四回、九月ニ一回、十月ニ三回、十一月ニ十回、十二月ニ十回、東京ノ地震ヒ、十四年二〇明治〇紀元二五四一年ニハ、一月十三回、二月三月四月共ニ八回、五月四回、六月七月八月共ニ三回、九月二回、十月十一回、十一月共ニ三回、十二月八回、十五年二〇明治〇紀元二五四二年ニハ、一月四回、二月七回、三月十回、四月六回、五月三回、六月七月共ニ二回、八月九月共ニ一回、十月四回、十一月一回、十六年二〇明治〇紀元二五四三年ニハ、一月六回、三月四月共ニ三回、五月六回、六月二回、七月三回、八月十月共ニ一回、十一月三回、十二月四回、十七年〇紀元二五四四年ニハ、一月五回、二月二回、三月八回、四月二回、五月九回、六月四回、七月一回、八月四回、九月二回、東京地震ヲ亦下記ノ如シ。

明治十三年
震災事蹟

附記

明治十三年
三月後
ノ地震

明治十四
年ノ地震

明治十五
年ノ地震

明治十六
年ノ地震

明治十七
年ノ地震

明治十七年ノ震災

十七年○明治○紀元十月十五日午後四時廿一分五十四秒東京ノ地強震ス。土藏ノ鉢巻腰卷ヲ落シ、屋壁ニ裂罅ヲ生ジ、若クハ屋瓦ヲ震落シ、品物ノ毀損スル者尠ナカラズ。○地震報告。

明治十七年震災事蹟

明治十七年ノ震災 地震報告明治九年○紀元二五三六年ヨリ十九年○明治○紀元二五四年ニ至ル十一年間ノ地震ヲ表示ス。中ニ十三年○明治○紀元二五四年○紀元及十七年○明治○紀元ノ震災ヲ記シ、並ニ顯著ナル地震ニシテ災害ヲ生ズルマデニ至ラザリシ、地震若干ヲ舉グ、即チ左ノ如シ。

東京ハ、地震ノ多キコト、全國中ニ於テ其ノ第一ニ居ル、然レドモ幸ニシテ驗測ヲ創メタルヨリ以來、未タ驚クベキノ強震ヲ發セズ。今九年○明治○紀元二五三年以來毎年最強ノ年月日時及ビ震度ヲ掲クレバ左ノ如シ。

年	月 日	發 震 時	震 度
明治九年	一月二十日	午後八時四十四分三十秒	二十一度
明治十年	七月廿二日	午後四時四十九分十七秒	十一度
明治十一年	二月廿三日	午前六時三十四分十五秒	十九度二十分
明治十二年	十二月三日	午前七時八分	十八度三十分

明治十三年	二月廿二日	午前零時五十分十九秒	七十八度(示針度目)
明治十四年	六月十八日	午前十時二十五分	八度三十分
明治十五年	三月十一日	午後七時五十分五十四秒	十一度二十分
明治十六年	六月十日	午後十時十五分	十八度二十分
明治十七年	十月十五日	午前四時二十一分五十四秒	九十五度十分(示針度目)
明治十八年	三月二十日	午後一時一分十三秒	二十二度
明治十九年	五月八日	午後十時十四分	○四秒時間ニ付 二八・ミリメートル

震度ノ最強カリシハ明治十七年○紀元二五四年十月十五日ノ地震ニシテ、之ニ亞グモノハ全十三年○明治○紀元二五四年二月二十二日ノ地震ナリ。

左ニ右二震ノ概況ヲ記スレバ、第一震○明治十七年(紀元二五五年)十月十五日地震。ハ當日午前四時廿一分五十四秒ニ發シ、二分間震動シ、其方向ハ種々錯雜セシモ、主トシテ南西北東ニ動搖シ、震力九十五度十分(示針度目)ハ二十五度ニ止ルヲ以テ推測シテ之ヲ記ス。ヲ示シタリ。此時東京市街ニ於テ潰家地裂等ノ如キ災ナカリシモ、往々土藏ノ鉢巻腰卷等ヲ落シ、屋壁ニ裂罅ヲ生ジ、屋瓦ヲ震落シ、或ハ物品ノ顛伏毀損セシモノ尠カラザリシ。第二震○明治十三年(紀元二五三年)二月廿二日地震。ハ當日午前零時五十分十五秒ニ發シ、震動時間ハ一分二十六秒ニシテ、是亦種々ノ方

向ニ動搖セシガ、主トシテ南々東北々西ニ動キ、七十八度(上ニ同シ)ノ震力ヲ示シタリ。此ノ時市中ニハ物品ノ顛伏或ハ毀損セシモノアリテ、通常ノ屋壁、煉瓦家、土藏ノ別ヲ問ハズ、多少ノ裂罅ヲ生ジタリ。其他ノ強震ニ至リテハ、震動急劇ニシテ震動時間モ亦長キモノアリト雖モ、墻壁ヲ損シ、器具ヲ顛倒スルニ至ラザリシ。

〔附記〕

明治十七年○紀元二五四四年十月十五日ノ震災ノ外、同月○明治十七年(紀元二五四四年)十月ニ於ケル東京地震七回、十一月八回、十二月十五回也。十八年○明治○紀元二五四五年ハ、一月七回、二月九回、三月八回、四月四回、五月三回、六月六回、八月三回、九月八回、十月十回、十一月三回、十二月七回有リ。十九年○明治○紀元二五四六年ハ、一月二月三月共ニ三回、四月二回、五月八回、六月四回、七月二回、八月八回、九月七回、十月四回、十一月二回、十二月八回有リ。地震報告明治九年○紀元二五三六年ヨリ十九年○紀元二五四六年ニ至ル十一年間ノ地震回数ヲ表示ス、茲ニ之ヲ抄出ス。

附記
明治十七年十月後ノ地震
明治十八年ノ地震
明治十九年ノ地震

年	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	總計	平均
明治九年	三	四	六	一	一	三	三	五	三	三	四	六	五六	五

年	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	總計	平均
明治十年	四	五	六	五	八	九	六	四	一	八	六	九	七一	六
明治十一年	三	八	七	二	五	四	四	一	一	七	六	四	五〇	四
明治十二年	六	七	九	〇	二	九	三	四	一	六	六	七	七〇	六
明治十三年	九	八	六	一	六	四	八	四	一	〇	九	七	七七	六
明治十四年	一	八	五	八	四	三	三	一	二	三	一	〇	六六	五
明治十五年	四	七	八	一	二	二	三	一	一	四	三	〇	六六	四
明治十六年	六	〇	三	三	六	四	二	一	〇	一	四	〇	四六	三
明治十七年	五	二	八	二	九	四	一	四	二	八	三	五	三二	四
明治十八年	七	九	八	三	六	四	〇	三	八	一	八	七	四八	六
明治十九年	三	三	八	二	三	四	二	八	七	四	八	六	五四	六
合計	六三	六二	八四	四九	六二	五〇	三五	三八	二八	五五	五二	八〇	六五八	五四・八
平均	六	五	八	五	六	五	三	三	二	五	五	七	六〇	五

即チ其總數六百五十八回ニシテ、毎年ノ平均回数ハ六十回也。内、明治十年○紀元二五三七年、十二年○明治○紀元二五三九年、十三年○明治○紀元二五四〇年、十四年○明治○紀元二五四一年、十七年○明治○紀元二五四四年、十八年○明治○紀元二五四五年ノ六年ハ、平均數ニ超過シ、明治九年○紀元二五三六年、十一年○明治○紀元二五三八年、十五年○明治○紀元二五四二年、十六年○明治○紀元二五四三年、及ビ十九年○明治○紀元二五四五年ノ五年ハ、之ニ達セズ。而シテ回数最多ヲ示シタルハ明治十三年○紀元二五四六年ノ震災

五〇紀元二。最少ナルハ十六年二〇明治。〇紀元也。又毎月ノ平均ハ五回ニシテ、二月、四月、六月、十月、十一月ハ之ト同數ヲ示シ、一月、三月、五月、十二月ハ之ニ超過シ、七月、八月、九月ハ之ニ達セズ、回數最多ナルヲ三月トシ、最少ナルヲ九月トス。更ニ四季ニ區分シテ之ヲ觀ン歟、左表示ス所ノ如シ。

年	季				平均
	春	夏	秋	冬	
明治九年	二二	一一	一〇	一三	一四
明治十年	一九	一九	一五	一八	一八
明治十一年	一四	九	一二	一五	二五
明治十二年	二三	一一	一四	二二	一七
明治十三年	一四	二一	一四	二八	一九
明治十四年	二〇	九	八	二九	一六
明治十五年	二四	五	六	一一	一一
明治十六年	一二	六	四	一〇	八
明治十七年	一九	九	一八	二二	一七
明治十八年	一五	九	二一	二三	一七
明治十九年	一三	一四	一三	一四	一三
平均	一八	一一	一二	一九	一五

各季ノ平均ハ十五回ナルヲ以テ、春冬二季之ヲ超過シ、夏秋二季之ニ達セズ。最多季ハ冬季ニシテ、夏季ヲ最少季ト爲ス可シ。又之ヲ寒暑二候ニ區別スル時ハ、

年	候				平均
	寒	暑	平	均	
明治九年	二六	三〇	二八	二八	
明治十年	三八	三三	三五	三五	
明治十一年	三二	一八	二五	二五	
明治十二年	四九	二一	三五	三五	
明治十三年	四七	三〇	三九	三九	
明治十四年	四三	二三	三三	三三	
明治十五年	三一	一五	二二	二二	
明治十六年	一七	一五	一六	一六	
明治十七年	四六	二二	三四	三四	
明治十八年	四四	二四	三二	三二	
明治十九年	二三	三一	二七	二七	
平均	三六	二四	三〇	三〇	

トナリ、二候ノ平均卅回ニシテ、寒候之ヲ超過ス。次ニ之ヲ時刻ヨリ調査ス
帝都時代ノ震災
四五九

明治廿年
ノ地震

レバ、地震回数ノ最モ多キハ午後八時乃至同九時ニ於ケル四十七回ニシテ、午前九時乃至同十時ノ卅八回之ニ亞ギ、最少ナルハ午前十一時乃至正午ノ十六回トシ、午前八時乃至同九時ノ十七回之ニ亞グ。地震ノ方向ハ、南北卅五回、南々西北々東四十五回、南西北東廿四回、西南西東北東五十四回、東西五十四回、東南東西北西九十六回、南東北西廿五回、南々東北々西六十四回ヲ觀測シ、方向不明ナルモノ二百九十一回有リ。即チ最モ多キヲ東南東西北西トシ、南西北東ヲ以テ最少トス。地震ノ性質ハ、明治十九年○紀元二五四六年中ノ觀測ニ係ルモノ、急劇十九回、緩慢廿五回、不明ナルモノ十回也。

廿年○明治。○紀元二五四七年東京地震フ者合セテ八十回ニ及ブ。内最強ナル者一回有リ。一月十五日午後六時五十一分五十九秒ニ發シタル地震即チ是也。地震報告云フ、

本年○明治廿年(紀元二五四七年)中ノ強震ハ、一月十五日午後六時五十一分五十九秒ニ發シ、震動ノ時間ハ十分ニシテ、上下水平兩動一時ニ共發シ、最大上下動ハ〇、八秒時間ニ付五、五「ミリメートル」最大水平動ハ二、三秒時間ニ付一、九、二「ミリメートル」ヲ示シ、性質急劇ナリ、此地震ハ原ヲ相州愛甲郡邊

ニ發シ、其ノ近傍ニ於テハ地裂ケ、山崩レ、家屋ニ損處ヲ生ジタリ、其ノ他壁面ニ裂罅ヲ生ゼシ等ハ甚多カリシ。

而シテ是年○明治廿年(紀元二五四七年)觀測スル所ノ地震總數八十回ヲ細録スレバ、一月十五日午後六時五十一分五十九秒〇同日午後七時三十六分四十四秒〇同十六日午後十時十六分十九秒〇同日午後十時三十一分零秒〇同日午後十時五十四分十八秒〇同十七日午前八時五十九分三十四秒〇同二十一日午後十一時四十六分四十三秒〇同二十三日午後九時十六分五十五秒〇同二十四日午後十時四十分五十秒〇同二十八日午後三時五十四分零八秒〇二月二日午後二時零八分十四秒〇同二十二日午前一時三十分四十八秒〇同二十五日午後三時四十一分零秒〇同二十七日午前八時十一分十一秒〇三月二日午後五時三十三分卅一秒〇同十日午後一時三十一分三十七秒〇同二十日午後十一時三十二分五十六秒〇四月四日午前八時四十六分零秒〇同九日午前十一時四十九分五十四秒〇同日午後三時零一分五十四秒〇同十五日午前十時十八分零秒〇同十六日午前三時四十一分五十五秒〇同十八日午後十一時

二十五分零秒○同二十七日午後九時三十分三十八秒○同二十九日午
 前十一時十二分十秒○五月二日午前十一時二十五分四十秒○同五日
 午前二時三十五分十秒○同六日午後三時四十九分五十八秒○同七日
 午前七時十二分零三秒○同日午前八時四十四分二十二秒○同九日午
 前零時零九分十四秒○同日午後四時三十三分零七秒○同十七日午後
 四時十九分四十四秒○同二十一日午後九時四十六分二十秒○同二十
 九日午前零時五十分五十七秒○同日午前一時十分四十四秒○同日午
 前三時四十一分二十六秒○同日午前六時四十七分二十一秒○同日午
 前八時零七分零九秒○六月十七日午前一時四十一分四十一秒○同二
 十日午前八時十六分五十七秒○同二十一日午後二時二分三十五秒○
 同二十二日午前七時四十二分三十九秒○同三十日午前八時零分三十
 五秒○七月一日午後二時四十一分四十九秒○同二日午後三時十二分
 二十六秒○同十一日午後三時七分四十二秒○同日午後十時十七分十
 七秒○同二十二日午後八時二十七分零秒○同二十七日午後五時十四
 分二十九秒○八月六日午後六時四十七分四十二秒○同十五日午後零

時五十九分十五秒○九月二日午後五時五十二分四十九秒○同三日午
 前四時五十分三十秒○同五日午後三時二十三分二十三秒○同六日午
 前八時十二分五十秒○同八日午後三時五十五分三十秒○同十一日午
 前六時二十分○同十三日午後八時十六分五十二秒○同十五日午後四
 時四十一分四十一秒○同廿五日午前八時五十六分十一秒○十一月十
 五日午後三時五十四分五十一秒○同二十日午後零時零二分三十一秒
 ○同日午後九時四十五分○同二十三日午後六時零五分○同三十日午
 前九時二十四分十八秒○十二月五日午後零時五十七分十六秒○同八
 日午後八時零二分○同十一日午後九時五十五分四十七秒○同十四日
 午前十一時五十五分十二秒○同日午後十時五十五分零九秒○同十六
 日午前八時二十八分二十一秒○同十七日午前零時十七分零八秒○
 同日午後六時十七分二十二秒○同日午後十一時四十一分十四秒○同
 十九日午後六時零分二十秒○同二十一日午後二時零五分五十五秒○
 同二十四日午前四時零九分四十一秒○同日午前七時五十一分三十八
 秒○同三十一日午前一時二十四分四十五秒

明治廿一年ノ地震

之ヲ各月ニ調査スル時ハ、一月十回、二月四回、三月三回、四月八回、五月十三回、六月五回、七月六回、八月二回、九月十回、十月零回、十一月五回、十二月十四回ヲ算シ、十二月ニ最モ多クシテ、十月絶無也。之ヲ四季ニ區分スレバ、春季廿四回、夏季十三回、秋季十五回、冬季廿八回、平均廿回ヲ示シ、最モ多キハ冬季、最少ナルハ夏季也。又之ヲ寒暑二候ニ區別スレバ、寒候卅六回、暑候四十回トナリ、暑候ノ寒候ヨリ多キコト八回也。更ニ之ヲ時刻ヨリ觀レバ、最モ多キハ午後三時乃至四時ノ十一回、之ニ亞グハ午前八時乃至九時ノ十回ニシテ、最少ナルハ午前三時乃至四時及ビ午前五時乃至六時ノ皆無也。地震ノ方向ハ、南北八回、南々西北々東三回、南西北東五回、西南西東北東三回、東西十三回、東南西北西五回、南東北西六回、南々東北々西六回ニシテ、不明ナル者卅一回有リ、即チ最モ多キハ東西、最少ナルハ南々西北々東及西南西東北東也。地震ノ性質ハ、水平上下兩動三回、水平動卅三回、微震ニシテ性質不明ナル者四十四回有リ、又震動ノ急劇ナル者廿一回、緩慢ナル者廿八回、微震ニシテ、緩急分明ナラザル者卅一回ヲ算ス。○地震報告ニ依ル。下同。

廿一年○明治○紀元東京地震フ者總テ百一回、内最モ強キヲ四月廿九日午

前十時零分卅三秒發スル所ノ地震トス。

明治二十一年○紀元二五四年。ニ於ケル地震百○一回ニ就キ、最強震ヲ舉クレバ左ノ如シ。

月日	發震時	震動時間	水		平		動	
			最大水平動	最大速度	最大加速度	最大上下動		
四月廿九日	午前十時零分三十三秒	八分	〇、八秒時間ニ付五、六	一、〇秒時間ニ付二、〇	一、〇秒時間ニ付一、七二、八	〇、六秒時間ニ付一、五		

前表之ヲ示スガ如ク、明治二十一年○紀元二五四年。中ノ強震ハ、四月二十九日午前十時〇分三十三秒ニ發シ、震動ノ時間ハ八分ニシテ、上下地平兩動一時ニ起リ、最大上下動ハ〇、六秒時間ニ付一、五、ミリメートル、最大地平動ハ〇、八秒時間ニ付五、六、ミリメートル、最大加速度ハ一秒時間ニ一七二、八、ミリメートルニ達シ、性質急劇ナリシ。二月二日○明治二十一年○紀元二五四年○午後一時十五分十テ、且上下動ノ微ナルヲ以テ、著シキ影響ヲ及ボサバリシ。抑此地震ハ、其原ヲ東京灣中ニ發セシモノ、如クシテ、其四圍ニ於ケル諸國ニ於テハ、隄防ノ崩壞、屋壁ノ細裂、器物ノ顛伏、液體ノ溢出、振時計ノ其運動ヲ停止セシ等ノコトアリシ。○下

次ニ是年明治廿一年(紀ノ元二五四八年)ノ地震總數百一回ヲ地震報告記スル所ニ依リテ
細録スレバ、

一月一日午後三時三十一分三十八秒○同十一日午前八時五十分三十三秒○同十四日午後五時三十一分五十五秒○同廿七日午後十時五十分三十三秒○二月二日午後一時十五分十五秒○同日午後二時三十三分四十六秒○同日午後三時零分十四秒○同日午後三時四十一分二十七秒○同五日午前零時五十分五十六秒○同十日午後三時二十六分五十五秒○同日午後六時三十八分七秒○同十一日午後三時三十八分五十六秒○同十三日午前十一時三十三分四十四秒○同十五日午後三時四十三分三十八秒○同十七日午後零時十六分十七秒○同十八日午後六時十三分四十五秒○同廿二日午前十時二十四分四十三秒○同廿三日午後十一時十分五十秒○同廿四日午前二時七分六秒○三月一日午後三時三十分十五秒○同日午後九時五十四分十二秒○同九日午前四時五十四分十六秒○同日午後十時十七分一秒○同十六日午前五時五十八分二秒○同日午前六時四十三分三十二秒○同十七日午後七時五

十五分三十六秒○四月一日午前六時十七分八秒○同五日午後二時三十分二十九秒○同八日午後二時二十二分三十二秒○同十六日午後十一時六分四十三秒○同廿七日午前八時三十四分三十四秒○同廿九日午前十時零分三十三秒○同三十日午前五時四十四分三十八秒○五月五日午後八時五十二分二十四秒○同八日午前四時七分五十六秒○同日午前四時五十一分四十一秒○同十日午前十時十二分零秒○同十三日午前四時五十一分五十二秒○同日午後十一時十七分四十一秒○同廿二日午後六時九分二十秒○同廿四日午前九時三十五分三十七秒○同日午前十一時四十五分五秒○同廿六日午後六時十七分十四秒○同廿七日午後七時五分九秒○六月三日午前七時五十三分八秒○同十二日午後九時六分二十七秒○同十五日午前零時二十一分二十五秒○同十八日午後二時廿分三十一秒○同日午後三時十七分六秒○同日午後九時五十七分十四秒○同十九日午前六時二十九分五十七秒○同廿二日午前七時六分二十秒○同廿四日午後十一時八分二十秒○七月二日午前四時五十一分五十六秒○同七日午前九時三十七分三十七秒○同

日午後五時二十五分四十三秒○同十一日午後三時三十八分三十五秒
 ○同十四日午前七時三十一分五十九秒○同日午後四時四十二分四十四秒○同廿二日午前二時二十七分四十八秒○同廿四日午前七時五十七分四十三秒○同廿九日午後九時四十八分二十一秒○八月一日午後九時廿五分十八秒○十一日午前九時三十一分四十二秒○同十二日午前十一時四十二分廿七秒○同十七日午前三時四十九分五十秒○同十八日午前一時二十二分零秒○同十九日午前九時十九分二十六秒○同日午前十一時四十七分二十五秒○九月二日午前五時四十五分零秒○同四日午前五時十分零秒○同日午後一時三十六分十一秒○同五日午前零時六分三十五秒○同六日午前四時九分二十五秒○同十日午前九時二十二分零秒○同十一日午前八時三十四分五十四秒○同十八日午前二時四十五分三十九秒○同廿四日午前五時二十四分三十秒○同日午後五時三十七分十三秒○同廿八日午前七時五十二分二十一秒○十月九日午前一時七分五十五秒○同十日午後四時二十分二十四秒○同十二日午前七時四十分五十六秒○同二十日午前六時十五分十六秒○十

一月二日午後一時四十八分一秒○同三日午前零時五十一分十四秒○同日午前八時十三分三十三秒○同五日午前四時二十二分五十五秒○同六日午後四時三十八分三十七秒○同七日午後十時二十七分三十四秒○同十日午後一時三十七分四十四秒○同十六日午前零時四十二分五十二秒○同二十日午前零時五十三分二十九秒○同廿二日午後一時二十七分四十三秒○同廿三日午後五時十三分三十秒○同廿四日午前二時三分二十三秒○同廿五日午後四時五十分十五秒○十二月三日午後零時二十四分四十七秒○同六日午前七時二十七分四十二秒○同十六日午前四時十九分三秒○同廿八日午前三時二十八分四秒

トナリ、各月回数ハ、一月四回、二月十五回、三月七回、四月七回、五月十一回、六月九回、七月九回、八月七回、九月十一回、十月四回、十一月十三回、十二月四回ニ區分セラレ、最モ多キハ二月、最少ハ一月、十月及十二月也、之ヲ四季ニ區別スレハ、春季廿五回、夏季廿五回、秋季廿八回、冬季廿三回、平均廿五回ニシテ、秋季ニ最モ多クシテ冬季ニ最モ少ナク、更ニ之ヲ寒暑二候ニ區分スル時ハ、寒候四十七回、暑候五十四回トナリ、平均五十回ヲ示シ、暑候ノ寒候ニ

超ユルコト七回也。而シテ地震ノ發動時刻ヲ調査スルニ、最モ多キハ午後三時乃至四時ノ九回ニシテ、午前四時乃至五時ノ八回之ニ亞ギ、最モ少キハ午後八時乃至九時ノ一回、之ニ亞グハ、午前一時乃至二時、午前三時乃至四時、午後零時乃至一時、午後七時乃至八時ノ各二回也。地震ノ方向ハ、南北五回、南々西北々東三回、南西北東四回、西南西東北東二回、東西廿七回、東南北西北西五回、南東北西八回、南々東北々西二回ヲ觀測シ、方向不明ナル者四十五回アリ、即チ最モ多キハ東西ニシテ、最少ナルハ西南西東北東及南々東北々西也。地震ノ性質ハ、水平上下兩動十一回、水平動六十九回、微震ニシテ性質ノ分明ナラザル者廿一回有リ、又震動ノ急劇ナル者廿一回、緩慢ナル者卅四回、緩急不明ナル者四十六回ニ及ブ。

明治廿二年ノ震災

廿二年^{○明治。○紀元}二月十八日午前六時九分卅二秒東京地震フ
 コト強ク、市内ニ多少ノ損害ヲ與フ。東京灣之ガ震源地タリ。^{地○}

震報

明治廿二年ノ震災 ハ、地震報告ニ「東京ニ於テハ土藏ノ鉢巻ヲ振ヒ、家壁ニ裂罅ヲ生ジタル處多ク、石塔或ハ石燈籠ノ顛倒セシモノ、又ハ架上物品ノ轉落セ

明治廿二年ノ震災事蹟

シモノ、振子時計ノ止リタルモノ、液體ノ溢出シタルモノ等アリ、殊ニ懸崖ノ縁或ハ低地等ハ感動最甚シカリシ。ト記ス。是日^{○明治廿二年(紀元)二月十八日。更ニ四回ノ震動有リ。其震動研究左ノ如シ。}

明治廿二年^{○紀元}ニ於ケル地震百十三回ニ就キ、震動ノ最モ強キモノヲ舉クレバ、左ノ如シ。

月 日	發 震 時	震 動 時 間	水		平		動		上 下 動	
			最大水平動 ミリメートル	最大速度 ミリメートル	最大速度 ミリメートル	最大加速度 ミリメートル	最大上下動 ミリメートル			
二月十八日	午前六時九分卅二秒	六分十二秒	二、二秒時間ニ付 二〇、三	一秒時間ニ付 二九、〇	一秒時間ニ付 八三、三	〇、六秒時間ニ付 三、七				

前表ノ如ク、明治廿二年^{○紀元}中ノ強震ハ、二月十八日午前六時九分卅二秒ニ發シ、震動ノ時間ハ六分十二秒ニシテ、上、下動ハ地平動ニ先チテ起リ、其最大ナルモノハ〇、六秒時間ニ付三、七、ミリメートルニ及ビ、最大水平動ハ二、二秒時間ニ付二〇、三、ミリメートルヲ示シ、最大速度ハ一秒時間ニ二九、〇、ミリメートル、最大加速度ハ一秒時間ニ八三、三、ミリメートルニ達シ、性質ハ急劇ナリシ。抑此震原ハ東京灣内ニアルモノ、如ク、其四圍ノ地方ニ於テハ、土藏ニ裂罅ヲ生ジ、或ハ鉢巻ヲ落シ、家屋ニ損所ヲ生ジ、輕キ所モ物品ノ倒伏、液

體ノ溢出、振子時計ノ運動ヲ停止セシ等ノコトアリシ。——地震報告

〔附記〕

明治廿二年ノ地震

廿二年○明治○紀元中觀測スル所ノ地震總數ハ百十三回ニ及ブ。之ヲ細録スレバ、實ニ左ノ如シ。

一月一日午後三時四分五十秒○同日午後七時五分三十秒○同三日午前七時五十八分六秒○同十二日午後八時三十四分三秒○同廿七日午後二時二十八分四十七秒○二月五日午後二時二十七分三十九秒○同六日午後三時二十分五秒○同九日午前七時四十一分三十八秒○同十五日午後五時十四分三秒○同十八日午前六時九分三十二秒○同日午前六時二十七分四十五秒○同日午前七時四十八分五十二秒○同日午前八時二分零秒頃○同日午前十時十分五十六秒○同十九日午後二時五十七分四十三秒○同廿日午後九時十九分卅七秒○同廿一日午前五時五十二分二十一秒○同日午前八時十九分二十三秒○同日午前十一時一分四秒○同日午後九時二十七分五十二秒○同廿三日午後十二時二十七分二十一秒○三月三日午後四時三十五分十九秒○同四日午前

七時二十四分廿五秒○同十八日午前六時四十一分十二秒○同廿一日午後六時九分二十三秒○同廿六日午後二時四十一分四十八秒○同廿八日午前一時二十分十秒○同日午前十時二十二分五十五秒○同日午後七時十八分二十三秒○同卅一日午前六時四十二分十五秒○同日午前八時十三分三秒○同日午後五時五十九分四十二秒○四月三日午後四時二十七分二十一秒○同日午後四時四十分五十一秒○同六日午前七時四十分十三秒○同八日午後零時四十八分零秒○同十四日午前五時二十二分五十四秒○同十七日午後九時四十一分四十三秒○同十八日午後二時七分四十二秒○同日午後二時五十四分十一秒○同日午後三時三十九分八秒○同日午後四時零分一秒○同十九日午前零時十八分四十六秒○同日午前二時二十九分十九秒○同日午後三時零分二十七秒○同日午後五時五十分三十九秒○同日午後十時五十三分五十五秒○同廿日午後四時五十分三十三秒○同廿八日午前三時七分四十三秒○同廿九日午前一時五十六分廿八秒○五月六日午後十一時四十分四十一秒○同八日午前五時五十分三十四秒○同日午後零時二十四

分七秒○同十二日午前十時四十二分十一秒○同十七日午前六時三十九分十五秒○同日午前八時三十四分二十五秒○同日午前九時二十分三十五秒○同日午前九時三十九分三十七秒○五月十七日午後一時四十六分三十二秒○同二十日午後零時二十三分三十秒○同廿七日午後六時二十二分五十六秒○同廿八日午前五時二十六分二十二秒○同三十日午後十時二十七分二十二秒○六月一日午後六時十五分二十一秒○同三日午後一時五十一分三十秒○同十四日午後零時二十六分四十一秒○同十五日午前十時十分二秒○同十六日午後二時三十一分二十四秒○同二十日午後九時五十一分十秒○同廿七日午前七時九分十七秒○七月三日午後五時三十九分五十八秒○同五日午後六時二十二分三十一秒○同日午後八時五十七分九秒○同十八日午後十時三十三分十八秒○同三十日午前二時三分四十秒○八月二日午前十時二十一分六秒○同四日午後二時三十六分十二秒○同五日午前七時三十四分五十六秒○同十五日午後零時六分廿一秒○同二十日午後五時二十分二十三秒○同廿一日午後一時七分四十四秒○同廿六日午後三時二十七

分十三秒○同三十日午後三時六分二十二秒○九月十一日午後七時十四分三秒○同十五日午前二時三十四分六秒○同十六日午前六時三十七分三十秒○同十七日午前二時四分二十八秒○同二十日午前十時二十七分一秒○同廿二日午前一時五十六分三十三秒○同三十日午前七時四十分二十七秒○十月一日午前六時七分二十秒○同七日午後七時四十一分十八秒○同十日午前六時四十七分二十七秒○同十三日午後十時五十分二十四秒○同十四日午後十一時八分十秒○同十六日午前四時十分四十八秒○同廿五日午前十一時十六分三秒○同廿八日午前二時十六分五十一秒○十一月十四日午後零時三十分五十五秒○同十五日午後八時四十八分四十秒○同十七日午後一時五十七分五十六秒○同十八日午前八時三十一分三十九秒○同日午後一時三十五分一秒○同二十日午前零時五十六分三十四秒○十一月廿一日午前二時五分三十二秒○同日午後一時五十分五秒○同廿五日午前二時三十四分八秒○十二月九日午後零時三分十四秒○同十一日午前五時十四分十七秒○同廿六日午後八時十四分十一秒○同廿八日午後十時十七分五十

五秒〇同廿九日午前十一時十分十九秒〇同三十一日午後一時五十分三秒

今各月ノ回数ヲ觀ルニ、一月五回、二月十六回、三月十一回、四月十八回、五月十三回、六月七回、七月五回、八月八回、九月七回、十月八回、十一月九回、十二月六回ヲ算シ、四月ニ最モ多ク、一月七月最少也。之ヲ四季ニ區分スレバ、春季四十二回、夏季廿回、秋季二十四回、冬季二十七回トナリ、平均二十八回ヲ示ス、即チ春季ニ最モ多クシテ、夏季ニ最モ少キヲ見ル可シ。更ニ之ヲ寒暑二候ニ區別スル時ハ、寒候五十五回、暑候五十八回トナリ、平均五十六回タリ、即チ暑候ノ寒候ヨリモ多キコト三回也。又之ヲ時刻ヨリ調査スレバ、其最モ多キハ午前六時乃至八時及ビ午後二時乃至三時ニシテ各八回ヲ數ヘ、午前二時乃至三時及午後零時乃至二時ニ於ケル各七回之ニ亞ギ、最少ナルハ午前三時乃至五時ノ各一回、之ニ亞グハ午前零時乃至一時及午前九時乃至十時ノ各二回也。地震ノ方向ノ明ニ觀測シ得ラレタル者ハ、南北十回、南々西北々東一回、南西北東八回、西南西東北東一回、東西十八回、東南東西北西五回、南東北西十一回、南々東北々西二回ニシテ、餘ノ五十六回ハ

不明ニ屬ス。之ニ依テ觀レバ、方向ノ最多ナルハ東西ニシテ、最少ナルハ南々西北々東及西南西東北東也。地震ノ性質ハ、水平上下兩動二十四回、水平動三十一回、微震ニシテ何レカ明ナラザル者五十八回有リ、震動ノ急劇ナル者二十一回、緩慢ナル者三十一回、緩急分明ナラザル者六十一回ヲ算ス。廿三年〇明治〇紀元〇一月七日午後三時四十三分廿五秒東京地震ス、震源信濃國ニ存スト云フ。地震報告ニ、

略。上 又之ニ亞クモノハ、一月七日ノ地震ニシテ、其震原ハ信濃國ニアリテ上水内、東筑摩、北曇、更級ノ諸郡ニ亘ル三十方里ノ間ハ、震動最モ強ク、損害ヲ被レリ。

四月十六日〇明治廿三年(紀元二五五〇年)午後九時卅四分四十七秒、翌十七日(紀元二五五〇年)四月。午前四時五十六分四十五秒、同前。午六時四十二分卅六秒、午後十時廿五分十五秒相次テ東京地震フ、震源伊豆國下田三宅島近傍ニ存スル者ノ如シ。

前表略。ノ如ク本年(明治廿三年(紀元二五五〇年))中ノ最強震ハ、四月十六日午後九時三十四分四十七秒ニ發シタルモノニシテ、震幅ハ實ニ廿二耗四ニ達セリ、

而シテ其震原ヲ調査スルニ、伊豆國下田、三宅島近傍ニアルモノ、如ク、其周圍ノ地方ニ於テハ、道路ノ崩壞或ハ大地ニ裂罅ヲ生シ、物品ノ顛倒、墮落、振子時計ノ運轉ヲ停メシ等ノコアリ。中之ニ亞グモノハ、四月十七日ノ地震ニシテ、全日中ニ發シタルモノハ部合三回アリテ、是等ハ前記ノ地震ト全ク震原ヲ同フスルモノ、如シ略。中更ニ之ニ亞グモノハ、五月十五日ノ地震ニシテ、其震原ハ伊豆國下田近傍ニアリテ、全所ニ於テハ強震ヲ感ジタレドモ、幸ニ損害等ハナカリシ、而シテ本年明治廿三年ノ地震中震動時間ノ最モ長キハ、四月十七日午前四時五十六分四十五秒ノ地震ニシテ八分間ニ亘レリ、之ニ亞グモノハ四月十六日午後九時卅四分四十七秒ノ地震ニシテ七分間、又之ニ亞グモノハ四月十七日午前六時四十二分三十六秒ノ地震ニシテ六分三十秒間、五月十五日午後二時卅六分九秒ノ地震ニシテ五分三十秒間、及一月七日午後三時四十三分廿五秒ノ地震ニシテ五分間、其他ハ長キモ四分以下トス。略下

地震報告

次ニ是年明治廿三年觀測スル所ノ地震ハ、總數九十三回ニ達ス。今是ヲ

細記スレハ、

一月七日午前七時四十四分卅七秒○同日午後三時四十三分廿五秒○
同十二日午前四時十五分卅三秒○同廿九日午後十一時廿八分三秒○
同三十日午前八時卅五分卅一秒○二月十三日午後九時四十八分十六
秒○同十八日午前五時卅一分十秒○同日午前九時五十分六秒○同廿
一日午前二時四十四分十三秒○同廿四日午前零時四十七分二秒○三
月七日午前四時廿一分四十二秒○同十一日午前十一時七分二秒○同
日午後七時五十三分四十九秒○同十八日午後三時十六分四十秒○同
廿六日午前六時五十七分五十五秒○同廿八日午後二時廿二分卅七秒
○四月五日午後零時二十分零秒○同十一日午前三時八分二秒○同十
六日午後九時三十四分四十七秒○同日午後十一時四十分三秒○同十
七日午前四時五十六分四十五秒○同日午前五時十一分三秒○同日午
前六時四十二分卅六秒○同日午後三時三十一分卅八秒○同日午後十
時廿五分十五秒○同十八日午後五時卅八分七秒○同日午後七時十
五分五十七秒○同日午後十一時三分零秒○同十九日午前九時四十五

分五十二秒○同日午後一時七分卅七秒○同廿七日午後八時卅一分四十八秒○五月一日午前三時五十六分廿五秒○同日午前八時卅八分五十秒○同日午後七時四十分十秒○同日午後九時五十九分廿一秒○同四日午後二時廿九分十七秒○同七日午前十時四分卅八秒○同八日午前八時卅五分五十六秒○同十日午前六時四十九分廿三秒○同十五日午後二時卅六分九秒○同廿一日午後零時九分五十四秒○同廿四日午後一時卅九分卅三秒○同廿五日午前八時五十四分四十五秒○同廿七日午後六時四十九分四十秒○同卅一日午後八時四十二分二十五秒○六月七日午前十一時廿九分五十三秒○同十五日午後四時三十分十五秒○同十八日午後一時四十五分廿二秒○同廿六日午前九時三十分三十三秒○同廿八日午前五時零分四十秒○七月二日午前二時十五分九秒○同三日午後十一時五十五秒○同八日午後二時五十分三十秒○同九日午後九時五十三分一秒○同十一日午前九時五十一分五秒○同十四日午後四時十分四十九秒○同十五日午後八時十五分五十一秒○同十八日午前零時卅五分四十六秒○同十九日午後四時十八分五十秒○

同廿日午後九時十五分四十五秒○同廿五日午前三時五十一分十三秒○同日午後二時五十七分廿五秒○八月二日午後十一時六分卅五秒○同四日午前九時卅八分十四秒○同五日午後一時四十六分廿一秒○同七日午前七時廿七分十三秒○同十一日午後一時四十三分四十五秒○同廿一日午後六時五十六秒○同廿九日午前十一時卅四分卅一秒○九月五日午後七時五十七分十九秒○同六日午前零時十一分五十五秒○同十七日午後六時二十分五十七秒○同三十日午後七時廿四分五十四秒○十月六日午後四時卅六分五十五秒○同十日午前九時卅三分三十三秒○同十二日午前九時四十五分三十三秒○同十六日午前四時五十分四十七秒○同十七日午後八時卅五分十八秒○同十九日午後二時三十三分四十五秒○同日午後八時三十四分十四秒○同廿九日午後十時卅六分四十九秒○十一月二日午前九時三十分三十三秒○同五日午前零時四十四分廿九秒○同十四日午前二時廿一分十七秒○同十六日午後三時八分六秒○同十七日午前九時卅一分卅八秒○同廿二日午後十時五十分卅一秒○同廿五日午後七時一分零秒○同廿七日午前零時廿四分卅九

秒○同日午後七時卅三分四十八秒○同廿九日午後七時三十分四十秒
○十二月十一日午後五時卅四分五十三秒○同廿四日午前七時廿二分
廿七秒。

今各月ノ回数ヲ舉クレハ、一月五回、二月五回、三月六回、四月十五回、五月十
四回、六月五回、七月十二回、八月七回、九月四回、十月八回、十一月十回、十二月
二回ヲ算シ、即チ四月ニ最モ多クシテ、十二月ニ最モ少ク、之ヲ四季ニ區分
スレハ、春季卅五回、夏季廿四回、秋季廿二回、冬季十二回トナリ、平均廿三回
ヲ示シ、春季ニ最モ多クシテ、冬季ニ最少ナルヲ知ル可シ、更ニ之ヲ寒暑二
候ニ區分スル時ハ、寒候卅六回、暑候五十七回、平均四十六回ニシテ、暑候ノ
寒候ヨリ多キコト廿一回也、又之ヲ時刻ヨリ觀レバ、其最モ多キハ午前九
時乃至十時ニ於ケル九回ニシテ、午後七時乃至八時ノ八回之ニ亞キ、最少
ナルハ午前一時乃至二時ノ零回、之ニ亞クヲ午前十時乃至十一時ノ一回
ナリトス。地震ノ方向ノ觀測シ得ラレタルハ、南北八回、南々西北々東一回、
南西北東五回、西南西東北東一回、東西十七回、東南東西北西三回、南東北西
十三回、南々東北々西零回ニシテ、不明ノ分四十五回有リ、即チ方向ノ最多

ナルハ東西ニシテ、最少ナルハ南々東北々西ノ零回也。地震ノ性質ハ、水平
上下兩動五回、水平動廿八回、微震ニシテ分明ナラザル者六十回有リ、又震
動ノ急劇ナル者十七回、緩慢ナル者廿九回、緩急不明四十七回ヲ算ス。

廿四年○明治○紀元七月廿一日午後八時十九分廿秒東京地震ヲ、震心磐城
常陸地方ニ至リ。

○上又之ニ亞クモノハ、七月二十一日○明治廿四年○紀元午後八時十九分二

十秒ノ地震ニシテ、震幅ハ南西、北東ノ方向ニ於テ三、六秒時間ニ十耗五
ヲ示セリ、其震心ハ磐城常陸ノ地方ニアリテ、其近傍ニ於テハ強震ヲ感
シタレトモ、被害等ハナカリシ。

地震報告

十月廿八日○明治廿四年○紀元午前六時四十分美濃、尾張兩國大ニ震ヒ、震波西
南中國、九州、四國ニ及ビ、北東遙ニ陸羽地方及ヒ佐渡ニ達ス。東京亦震度ヲ
感スルコト大ニシテ、餘震終日廿一回ヲ算ス。地震報告云フ、

前表略ノ如ク、本年○明治廿四年○紀元中ニ觀測シタル最大震幅ハ、十月二十
八日午前六時三十九分十一秒ニ發シタル地震ニシテ、東西ノ方向ニ於
テ二、四秒時間ニ三十一耗五ヲ示セリ、是レ實ニ明治十七年○紀元ニ

ルン氏地震計ヲ設置セシ以來未タ曾テ見サル所ノ最大トス、而シテ其震心ハ濃尾地方ニアリテ、其近傍ハ土地ノ大陷落、家屋ノ倒壊等被害尠カラス。顯著地震概況參看略。然レトモ東京ニ於テハ、液體ノ溢出、振子時計ノ運轉ヲ止メタルニ過キサリシ。

十二月廿四日○明治廿四年(紀元二五五一年)午前五時卅三分十四秒東京地震ヲ、甲斐駿河相模ノ三國相接スル所、其震源地也。地震報告左ノ如ク見ユ。

略。上之ニ亞クモノハ、十二月二十四日○明治廿四年(紀元二五五一年)午前五時三十三分十四秒ノ地震ニシテ、震幅ハ北西、南東ノ方向ニ於テ一、九秒時間ニ十六耗ニヲ示セリ、其震心ハ甲斐駿河相模ノ三ヶ國相接スル所ニアリテ、其近傍ハ土地ノ小陷落、道路ノ小龜裂、山崖ノ崩壞、巖石ノ墜落、屋壁ノ破損等アリ。

更ニ是年○明治廿四年(紀元二五五一年)觀測スル所ノ地震總數ハ百廿三回ニ達ス。其細錄左ノ如シ。

一月二十九日午後五時二十分三十秒○二月十三日午前六時三十分零秒○同日午前六時五十六分二十秒○同十四日午前十時十分三十四秒

○同二十日午後二時十七分十六秒○三月一日午後四時十七分四十三秒○同二日午前七時十七分四十秒○同二十日午前八時三十九分三十八秒○同廿四日午後十時二十二分三十二秒○同二十五日午前五時十分零秒○同二十八日午後三時二十八分零七秒○四月六日午後四時零八分十秒○同七日午前九時四十九分四十六秒○同十五日午後二時五十九分十六秒○同十八日午後零時零五分零六秒○同二十一日午前十時四十九分零七秒○同二十五日午後十時二十四分二十三秒○同三十日午前十一時五十四分零三秒○五月五日午前八時十六分四十八秒○同九日午前九時五十一分三十八秒○同十四日午後四時十三分三十九秒○同十八日午前九時四十分五十二秒○同日午前十時五十三分三十九秒○同日午前十一時二十一分二十二秒○同十九日午後零時零分十五秒○同二十五日午後一時三十七分四十四秒○同廿六日午後零時十九分五十五秒○同三十日午後二時二十分十九秒○六月一日午前十時十一分零秒○同日午後零時三十八分四十三秒○同四日午後九時二十二分十三秒○同日午後十一時十九分十五秒○同十九日午前六時四

十一分四十九秒○同廿二日午前九時四十三分四十二秒○同廿五日午前三時四十一分四十八秒○七月六日午前十一時零二分二十八秒○同日午後一時三十八分十一秒○同七日午後零時零六分十二秒○同十五日午前九時十八分零秒○同日午後二時二十一分五十八秒○同十九日午後五時五十七分三十秒○同二十一日午後八時十九分二十秒○同廿四日午前六時十五分三十五秒○八月四日午前四時四十分二十一秒○同五日午前八時十四分五十秒○同廿一日午後零時二十六分零八秒○同廿四日午後九時四十四分十秒○九月三日午後二時十一分二十三秒○同八日午前十時四十九分二十五秒○同九日午前十一時四十九分五十八秒○同十八日午前八時四十六分零九秒○十月四日午後六時二十八分三十八秒○同五日午後八時十分二十三秒○同六日午前一時零一分二十七秒○同日午前六時四十七分三十秒○同日午後二時十九分零二秒○同七日午前十一時廿三分四十七秒○同八日午前九時零分三十四秒○同十一日午後四時十六分二十七秒○同十二日午後二時零七分二十八秒○同日午後五時二十八分十七秒○同日午後九時三十一分四

十秒○同十六日午前七時零四分十五秒○同廿二日午前六時二十六分二十秒○同日午後九時零分零五秒○同廿四日午後八時十七分四十九秒○同廿七日午前六時十六分十三秒○同日午後七時零九分四十五秒○同廿八日午前六時三十九分十一秒○同日午前七時零三分四十秒○同日午前七時零六分四十六秒○同日午前七時二十一分三十二秒○同日午前七時二十五分二十三秒○同日午前七時四十九分五十九秒○同日午前七時五十四分四十七秒○同日午前九時零九分四十二秒○同日午前十時三十八分十一秒○同日午前十一時二十九分十九秒○同日午後一時零三分二十五秒○同日午後三時零三分五十七秒○同日午後三時二十七分零秒○同日午後三時三十三分四十七秒○同日午後三時五十七分十一秒○同日午後五時三十二分二十八秒○同日午後六時二十七分三十二秒○同日午後七時十五分三十七秒○同日午後七時二十八分二十五秒○同日午後八時二十五分十秒○同廿九日午前七時零八分三十一秒○同三十日午前零時十五分十四秒○同日午前二時二十七分四

十七秒○同日午後二時二十五分五十六秒○同日午後七時零九分零七秒○同日午後十時二十五分零秒○十一月一日午前六時零二分二十九秒○同日午後九時二十分零六秒○同二日午後四時五十九分二十三秒○同三日午後一時零二分十八秒○同六日午前十時零分十四秒○同七日午前二時十八分零五秒○同日午後三時三十六分五十四秒○同二日午後九時四十五分二十六秒○同廿三日午前零時三十分十一秒○同日午前二時卅九分四十五秒○同廿八日午前九時四十一分零四秒○同日午前十一時零九分三十六秒○十二月三日午前二時零二分二十七秒○同日午後一時十一分五十四秒○同日午後九時五十一分十五秒○同四日午後九時二十九分零四秒○同八日午後四時零二分十七秒○同十一日午後八時四十四分十一秒○同十五日午前十一時廿三分四十五秒○同廿一日午後二時二十分十五秒○同廿二日午前四時二十三分三十八秒○同廿四日午前五時三十三分十四秒○同日午前五時五十二分二十二秒○同日午前六時二十六分十六秒○同二十五日午後七時三十八分十三秒○同二十六日午後十時二十二分三十七秒○同二十九日午後

十一時十三分二十秒

今之ヲ各月ニ分テバ、一月一回、二月四回、三月六回、四月七回、五月十回、六月七回、七月八回、八月四回、九月四回、十月四十五回、十一月十二回、十二月十五回ヲ算シ、之ヲ四季ニ區分スレバ、春季廿三回、夏季十九回、秋季六十一回、冬季廿回トナリ、平均三十一回也、更ニ之ヲ寒暑ノ二候ニ分ツ時ハ、寒候八十三回、暑候四十回、平均六十一回ヲ數フ。即チ是年明治廿四年(紀元二五五一年)地震回数ノ最モ多キハ月ニ於テ十月、季ニ於テハ秋季ニシテ、其最モ少キハ月ニ於テ一月、季ニ於テ夏季ナリトス、而シテ寒候回数ノ暑候ヨリ多キコト實ニ四十三回也。次ニ地震發動ノ多少ヲ時刻ヨリ觀ル時ハ、一箇年ヲ通シテ午前六時乃至七時ノ發震回数ニ上ルヲ以テ、此間ヲ地震最多ノ時刻ト爲ス可ク、午前一時乃至二時及ビ午前三時乃至四時ハ共ニ一回ヲ數フルニ過ギザレバ、此間ヲ最少ノ時刻ト定ムルヲ得可シ。又地震ノ方向ハ、南北十六回、南々西北々東三回、南西北東八回、西南西東北東四回、東西九回、東南東西北西十一回、南東北西十回、南々東北々西六回ヲ算シ、方向不明ノ者五十六回有リ、即チ地震最多ノ方向ハ南北ニシテ、東南東西北西之ニ亞グ、其最

署ヨリ警視廳ヘノ報告ハ(○同日(○明治廿五年紀元二五五二年六月三日)午後三時マテニ到達ノ分)左ノ如シ。

今朝(○明治廿五年(紀元二五五二年)六月三日)ノ地震ニテ、神田紺屋町二十六番地(○市内)ニアル物置古土藏ノ差掛ケ倒レタリ、人畜死傷ナシ。(六月三日(○明治廿五年紀元二五五二年)午前八時四十五分和泉橋警察署發電報)。

今朝(○明治廿五年(紀元二五五二年)六月三日)ノ地震ニテ、鳥居坂町十三番地東洋英和女學校(○市内)ニアル煉化造烟筒、屋上高サ八尺程破壊シタリ、負傷セシ者ナシ。(同(○明治廿五年紀元二五五二年)六月三日)午前十一時五十五分麻布警察署發電報)。

今朝(○明治廿五年(紀元二五五二年)六月三日)ノ地震ニテ、管内日本橋區本銀町二丁目十二番地(○市内)大野勘七所有土藏ノ壁二間四方崩壞ス、爲ニ該土藏ヨリ差掛アリシ家屋二間半四方屋根ヲ毀損セリ。又同區(○市内)日川瀬石町十五番地志村善太郎所有土藏壁二間四方崩壞セリ、人畜死傷ナシ。(同(○明治廿五年紀元二五五二年)六月三日)午十二時阪本町警察署發電報)。

湯島天神町一丁目十一番地(○市内)本郷區。川田次郎三郎土藏壁幅三尺程缺失、人畜死傷ナシ。(同(○明治廿五年紀元二五五二年)六月三日)午十二時四十分本郷警

察署發電報)。

天神町三丁目一番地(○市内)本郷區。當麻彌一土藏屋根堅二尺横一丈二尺墜落、同番地五十嵐せむ車小屋一箇所潰ル、地震ノタメナリ。(六月三日(○明治廿五年紀元二五五二年)午後一時四十五分下谷警察署發電報)。

今朝(○明治廿五年(紀元二五五二年)六月三日)ノ地震ノタメ、法學院區役所、警察署ノ三箇所(○市内)神田區。燒殘リ煉瓦落チタルノミニテ外ニ異狀ナシ。(同(○明治廿五年紀元二五五二年)六月三日)午後二時三十分小川町警察署發電報)。

○府下震災續報 去ル三日(○明治廿五年(紀元二五五二年)六月)ノ地震ニテ、東京府下被害ノ箇所各警察ヨリ警視廳ヘノ報告ハ、翌四日(○明治廿五年(紀元二五五二年)六月)掲載セシガ、其續報ハ左ノ如シ。

今朝(○明治廿五年(紀元二五五二年)六月三日)ノ地震ニテ、管内築地(○市内)京橋區。一丁目二十四番地湯屋小西玉吉方煉化積烟筒最上部高サ二尺幅四尺崩壞、同(○市内)京橋區。木挽町二丁目十一番地瓦商長窪米太郎方家根外部漆喰塗凡ソ三間墜落、爲ニ同番地水上繁右衛門ノ屋上凡ソ一間破損、同(○市内)京橋區。南小田原町四丁目一番地森岡昌純方土藏鉢卷壁横三間堅二尺程損セリ、人畜怪我ナシ。

外ニ管内鈴木町七番地京橋區。大橋とき方屋上物干ノ廻リノ手摺破損、同
京橋區。水谷町二番地内藤松五郎方土藏腰卷横五尺堅一尺程破損、同京橋區。
 松川町八番地川瀬新七方土藏裏面幅九尺丈四尺程破損セリ。京橋警
 察署報告。

管内鐵砲町十四番地市內日橋區。廣瀬長次郎方土藏北ノ方壁高サ三間五尺幅
 二間位崩レタリ。久松町警察署報告。

今朝明治廿五年(紀元二
 五五二年)六月三日。地震ノタメ、神田區東松下町三番地市內。今村三
 郎方土藏ノ壁幅二間半高サ一丈程潰落、人畜死傷ナシ。

今朝明治廿五年(紀元二
 五五二年)六月三日。地震ニテ、管内鍛冶町九番地市內神田區。師岡こと所
 有土藏ノ壁幅二間丈一間三尺、同町市內神田區鍛冶町。二十五番地小島利吉所有土
 藏壁幅二間丈七尺、東松下町二十二番地市內神田區。鈴木喜兵衛所有土藏幅二
 間半丈二間半墜落セリ、人畜ニハ異狀ナシ。和泉橋警察署報告。

今朝明治廿五年(紀元二
 五五二年)六月三日。地震ノタメニ、管内櫻川町市內芝區。八番地中山徳
 藏方雇人木村良(十二年)、鞆繪學校市內芝區。門ノ下ニテ遊居リタルニ、瓦落ち
 頭部ニ負傷シタルノ外、他ニ家屋人畜ニ害ナシ。芝愛宕町警察署報告。

地震ニテ麴町七丁目十五番地市內。杉山幸次郎方土藏庇崩壞ス、五番町九

番地市內麴町區。河内全節方土藏壁横幅二間壁幅二尺、飯田町二丁目二十九番
 地市內麴町區。櫻井金作方土藏壁横幅八尺壁幅二間破壞セリ。麴町警察署報告。

今朝明治廿五年(紀元二
 五五二年)六月三日。地震ニテ、赤坂溜池町九番地市內。劇場福祿座ノ
 煉化塀幅二尺長サ十一間許崩壞シ、同榎坂町二番地市內赤坂區。本宿宅命方土
 藏ノ屋根長サ六尺幅一尺五寸許崩壞セリ、人畜死傷ナシ。赤坂警察署報告。

今朝明治廿五年(紀元二
 五五二年)六月三日。地震ニテ、四谷區須賀町二番地市內。東京府士族
 小山田嘉平所有土藏家根際壁一坪程崩レ、爲メニ藏窓ノ庇及物置家根ヲ
 破壊シ、往來へ墜落セシモ、通行人ニ害ナシ、其他異狀ナシ。四谷警察署報告。
 今朝明治廿五年(紀元二
 五五二年)六月三日。地震ニテ、今川小路一丁目九番地市內神田區。貸馬車
 渡世齊藤政吉方土藏ノ壁三間四方形崩落ツ、人畜怪我ナシ。小川町警察署
 報告。

天神町二丁目十一番地市內本郷區。吉野芳次郎土藏家根一丈幅三尺缺落ちタ
 リ、今朝明治廿五年(紀元二
 五五二年)六月三日。地震ノタメ、本郷警察署報告。

今朝明治廿五年(紀元二
 五五二年)六月三日。地震ノタメ、深川東町十九番地市內。野村勘七所

有ノ土藏壁堅三間横二間潰落ス、人畜ニ怪我ナシ。(本所相生町警察署報告)。
 昨日○明治廿五年(紀元二五五二年)六月三日ノ地震ニテ、猿屋町二番地○市内。服部辰次郎方土藏ノ壁三間許横裂ケ一箇所、新片町○市内。佐野三喜方家根三尺許瓦落チ、同番地相川伊平ノ所有下平右衛門町二十六番地○市内。ニ在ル土藏家根四尺四方程瓦落チ、又同所ニ在ル土藏ノ家根堅五尺横三尺許瓦落チ、又同人所有北富坂町十七番地○市内。ニ在ル土藏壁ノ腰卷落チタリ、人畜ニ障ナシ。(淺草猿屋町警察署報告)。

昨朝○明治廿五年(紀元二五五二年)六月三日ノ地震ニテ、本郷區元町一丁目五十番地○市内。澤木

千藏所有土藏二棟ノ鉢卷角三尺ニ六尺墜落、及根津宮永町十八番地○市内。本郷區。渡邊幸太郎所有土藏壁二間四方墜落ス、人畜害ナシ。(本郷警察署報告)。

昨日○明治廿五年(紀元二五五二年)六月三日ノ地震ニテ、砂村元砂村新田千五百四十三番地○武藏國南葛飾郡。華族毛利元徳別邸池ニ架スル十間餘ノ土橋中央ヨリ落ツ、他ニ損

所ナシ。(小松川警察署報告)。

〔附記〕

廿五年○明治。元。一月十七日午後十一時卅五分十二秒東京地震ヲ。地震

明治廿五年ノ地震

報告其震度ヲ記スコト左ノ如シ。

○上之ニ亞グハ、一月十七日○明治廿五年(紀元二五五二年)。午後十一時三十五分十二秒ニ發セシ地震ニシテ、最初微弱ナル震動ニ起リ、八秒時ヲ經テ俄然最大水平動○、八秒時間ニ付二、四耗曲尺八厘ヲ示シ、後漸々微弱トナリ靜止セリ、又上下動ハ發震時ヨリ九秒時ヲ經テ稍著明トナリ、十三秒時ニ至リテ最大震幅○、六秒時間ニ付○、二耗曲尺一厘ヲ示シ、爾後次第ニ微弱トナリ、一分間ノ後全ク靜止セリ、而シテ最大震動ノ方向ハ、東南東、西北西ニシテ震動時間ハ二分四十秒ナリ。

九月十三日○明治廿五年(紀元二五五二年)。午後十一時廿九分四十二秒東京地震ヲコト急劇也。

○上之レニ亞ギテ強キハ、九月十三日○明治廿五年(紀元二五五二年)。午後十一時二十九分四十二秒ニ發シタル地震ニシテ、性質頗ル急劇ニシテ、發震後數秒時ニシテ忽チ最大震幅ヲ顯ハシ、水平動ハ東南東、西北西ノ方向ニ於テ○、四秒時間ニ付二、六耗曲尺九厘、上下動ハ○、三秒時間ニ付○、三耗曲尺一厘ヲ示セリ、爾後數秒時間ハ震動稍々著大ナリシガ、漸次微弱トナリ、二

分間ニシテ全ク靜止セリ。

地震報告

十二月九日○明治廿五年(紀元二五五二年)午前能登地方強震有リ、其震波東京ニ及ブ、即チ同日○明治廿五年(紀元二五五二年)十二月九日○明治廿五年(紀元二五五二年)午前十時四十三分五十七秒發スル地震是也。

○上之レニ亞グハ、十二月九日○明治廿五年(紀元二五五二年)午前十時四十三分五十七秒ニ發セシ地震ニシテ、最初ハ微弱ナル震動ニ起リ、二十秒時ヲ經テ稍著シキ震動トナリ、尙ホ二十秒時ノ後最大水平動一、五秒時間ニ付一、五耗曲尺五厘弱ヲ顯ハシ、爾後漸次微弱トナリ靜止セリ、方向ハ東南東、西北西ニシテ、震動時間ハ二分四十秒ナリ、此地震ハ能登地方ニ起リシ強震ノ餘波ナリシヲ以テ性質ハ甚タ緩慢ナリシ。(顯著地震記事參看○略)

地震報告

是年○明治廿五年(紀元二五五二年)ノ地震總數九十二回有リ、之ヲ細録スルコト左ノ如シ。
一月三日午後四時廿二分零九秒○同四日午前十時十分三十一秒○同六日午前二時五十三分三十六秒○同十三日午前十時四十八分廿七秒○同十七日午前三時廿九分零八秒○同日午後十一時卅五分十二秒○同廿四日午前九時五十九分零二秒○同廿八日午後十一時廿分十秒○

同卅一日午前十時廿三分十六秒○二月二日午後九時廿二分零九秒○同三日午後六時五十三分三十九秒○同十二日午前七時廿一分十八秒○同日午後零時卅八分卅五秒○同十五日午前三時廿分卅五秒○同十七日午前十一時零分五十三秒○同日午後九時四十一分五十八秒○同十八日午後零時五十九分三十三秒○同二十日午前二時三十九分四十三秒○同廿一日午前三時四十九分五十二秒○同廿九日午前三時三十八分三十一秒○三月八日午後八時零七分十九秒○同九日午後二時廿四分廿五秒○同廿二日午前五時四十二分五十三秒○四月二日午前零時卅五分二十三秒○同三日午前三時十八分十五秒○同十三日午前四時十三分零秒○同十九日午前六時五十四分零一秒○同二十二日午前一時二十六分四十六秒○同廿四日午前零時四十一分零八秒○同三十一日午前五時五十九分五十七秒○五月三日午前一時十八分五十三秒○同五日午後三時十分四十九秒○同十一日午前六時四十八分五十一秒○同十二日午後二時卅六分五十四秒○同十八日午後七時四十一分零一秒○同二十日午前七時十七分四十二秒○同廿四日午後九時零一分

十秒○六月三日午前四時二十三分四十六秒○同日午前七時零九分五十七秒○同五日午後一時十分零三秒○同八日午前九時零三分十二秒○同十日午前二時五十二分四十四秒○同十五日午後零時四十五分三十三秒○同十九日午後七時三十七分零秒○同廿八日午後十一時廿九分三十六秒○同三十日午後六時十三分二十秒○七月三日午前一時零九分廿六秒○同日午後七時十九分五十六秒○同六日午前二時五十八分十六秒○同二十日午前三時十分零六秒○同日午前六時十一分十秒○同日午前八時廿九分四十一秒○同日午前十一時卅一分四十四秒○同日午後二時零九分五十二秒○同二十一日午前零時五十六分四十六秒○同廿三日午後九時十九分卅九秒○同廿四日午前零時十一分廿一秒○同廿六日午前九時廿二分廿五秒○同廿七日午前十時廿分四十二秒○同廿九日午後七時零分零三秒○八月二十日午前二時二十九分廿九秒○同廿八日午後十時十九分零一秒○九月四日午前十時零七分四十三秒○同七日午前五時四十一分五十七秒○同十一日午後九時卅一分四十七秒○同十三日午後十一時廿九分四十二秒○同十五日午後二

時五十七分廿八秒○同十七日午前十一時五十一分四十秒○同十八日午前一時三十四分十七秒○十月一日午前二時零六分卅一秒○同日午前十時二十一分三十六秒○同六日午前零時五十分三十二秒○同七日午前零時廿三分卅七秒○同八日午後一時三十五分五十四秒○同十四日午後七時五十四分四十六秒○同十九日午後零時五十三分零九秒○同廿一日午後七時廿八分二十六秒○同廿二日午後七時零九分五十四秒○同廿五日午後十時十一分三十八秒○同廿七日午後三時零一分零四秒○十一月五日午前一時四十八分五十三秒○同十五日午後十一時零六分零二秒○同十六日午後四時二十五分四十四秒○同廿一日午後十時卅七分五十三秒○十二月六日午前三時三十分廿二秒○同日午後四時廿二分三十八秒○同日午後七時零一分零九秒○同九日午前八時零一分零一秒○同日午前十時四十三分五十七秒○同十日午前十時零分四十六秒○同十一日午前一時三十四分三十九秒○同廿四日午後二時十二分三十一秒。

而シテ之ヲ各月ニ區分スレバ、一月九回、二月十一回、三月三回、四月七回、五

月七回、六月九回、七月十四回、八月二回、九月七回、十月十一回、十一月四回、十二月八回ヲ數ヘ、之ヲ四季ニ分ツ時ハ、春季十七回、夏季廿五回、秋季廿二回、冬季廿八回トナリ、平均廿三回ヲ示ス。更ニ之ヲ寒暑二候ニ區分スレバ、寒候四十六回、暑候四十六回、平均四十六回ヲ算ス。即チ是年○明治廿五年(紀元二五五二年)地震回数ノ最モ多キハ月ニ於テ七月、季ニ於テ冬季ニシテ、其數少ナルハ月ニ於テ八月トシ、季ニ於テ春季トス、寒暑二候ノ回数ハ同一也、而シテ之ヲ時刻ニ觀レバ、午後七時乃至八時ノ回数最モ多ク八回ヲ算シ、最モ少キハ午後五時乃至六時、之ニ亞グハ午後八時乃至九時ニシテ、前者ハ皆無、後者僅ニ一回ノ發震ヲ感ジタルノミ。次ニ其方向ヲ檢スルニ南北八回、南々西北々東一回、南西北東四回、西南西北東二回、東西六回、東南東西北西六回、南東北西五回、南々東北々西三回ヲ示シ、方向不明ノモノ五十七回有リ。即チ地震方向ノ最モ多キハ南北ニシテ、最少ナルハ南々西北々東也。更ニ地震ノ性質ハ、水平動廿二回、水平上下兩動相混シテ起リタル者十三回ニシテ、水平動ノ多キコト九回ヲ示シ、不明ナル者五十七回有リ。又震動ノ急劇ナル者十三回、緩慢ナル者廿二回、緩急分明ナラサル者五十七回ニ達ス。

廿六年○明治廿六年(紀元二五五三年)一月八日午後五時四十分廿七秒東京地震フコト急劇也。地震報告左ノ如ク見ユ。

○上之ニ次ギテ強カリシハ、一月八日○明治廿六年(紀元二五五三年)午後五時四十分二十秒ニ發シタル地震ニシテ、性質甚タ急劇、發震後十秒時ニ於テ忽チ最大震幅ヲ現ハシ、水平動ハ西北西南東ノ方向ニ於テ○三秒時間ニ付三、五耗(一分二厘弱)、上下動ハ○三秒時間ニ付○九耗(三厘弱)ヲ示シ、爾後十五秒時間ハ稍々著シキ震動ヲ現ハセシガ、漸次微弱トナリ二分三十秒ヲ經テ靜止セリ、而シテ其最大加速度ハ七百六十六耗ニシテ、最大速度ハ三十七耗ナリ。

三月六日○明治廿六年(紀元二五五三年)午前八時五十二分十八秒東京地震ス。

○上之ニ亞グハ三月六日○明治廿六年(紀元二五五三年)午前八時五十二分十八秒ニ發シ地震ニシテ、最大震幅ハ發震後十秒時ニ於テ起リ、水平動ハ○六秒時間ニ付一、七耗、上下動ハ○三秒時間ニ付○二耗ヲ示セリ、方向ハ東南東西北西ニシテ、震動時間ハ三分二十七秒ナリシ。——地震報告

八月廿日○明治廿六年(紀元二五五三年)午後零時廿八分廿七秒東京地震フ、是年○明治廿六年(紀元二五五三年)

三二五ノ地震中最モ強キ者也。地震報告——

右表略ニ掲グル六十一回ノ地震中、最モ強キハ、八月廿日明治廿六年(紀元二五五三年)。

午後零時二十八分廿七秒ニ發シタルモノニシテ、此地震ハ最初微弱ナル震動ニ起リ、三十六秒時ヲ經テ俄然最大震幅ヲ現ハシ、水平動ハ南々東北々西ノ方向ニ於テ、五秒時間ニ付三、六耗(二分二厘弱)、上下動ハ、三秒時間ニ付一、〇耗(三厘強)ヲ示セリ、爾後著明ナル震動ヲ現ハスコト十六秒時間ニシテ漸次微弱トナリ、遂ニ靜止セリ、其震動時間ハ四分ニシテ、最大加速度ハ二百八十四耗、最大速度ハ二十三耗ナリ。

是年明治廿六年(紀元二五五三年)。觀測スル所ノ地震總數六十一回ニ達ス。其細錄左ノ如シ。

一月三日午後零時三十五分二十五秒〇同八日午後五時四十分二十七秒〇同十六日午後十時三十七分十八秒〇同二十日午前八時十分二十一秒〇同廿三日午後一時零七分五十二秒〇二月十一日午前六時四十六分三十一秒〇同十七日午前七時十三分五十九秒〇同十九日午前一時卅九分五十二秒〇同廿一日午前二時四十八分零三秒〇三月六日午

前八時五十二分十八秒〇同十七日午前九時零六分三十一秒〇同廿四日午前五時零四分五十二秒〇同廿六日午後七時四十七分二十一秒〇同日午後八時二十七分五十二秒〇四月四日午前七時三十三分十一秒〇同五日午後一時零八分四十六秒〇同九日午後八時二十一分零六秒〇同十九日午後十一時二十二分廿五秒〇同廿一日午後七時十分五十七秒〇同廿六日午前十時零九分四十六秒〇同三十日午前十一時三十二分十九秒〇五月一日午前二時零五分零六秒〇同十一日午前四時五十二分三十三秒〇同十四日午前八時五十七分十四秒〇同十七日午前九時五十六分四十四秒〇同十八日午後三時卅二分三十八秒〇同廿一日午前九時十分四十秒〇同廿四日午前七時零分三十一秒〇同日午後八時五十八分五十七秒〇同廿八日午後七時二十四分五十五秒〇同三十日午前零時十分零二秒〇六月四日午前二時二十七分十七秒〇同日午時九時零七分三十八秒〇同日午前十一時零二分三十一秒〇同九日午前十時五十三分二十七秒〇同日午後四時四十八分四十一秒〇同日午前八時零六分四十四秒〇同十二日午前四時零八分零秒〇同十三

日午後七時四十四分十六秒○同十八日午後九時十九分十秒○同廿一日午前零時三十五分二十一秒○七月五日午後九時五十二分四十二秒○同六日午後八時零九分五十二秒○同十八日午前五時四十五分零六秒○同十九日午後八時三十八分二十三秒○八月二日午前六時二十五分五十四秒○同二十日午後零時二十八分二十七秒○同廿二日午前九時三十七分五十五秒○九月四日午前五時零七分三十秒○同十日午前五時零分二十二秒○同十五日午前九時三十八分四十七秒○同日午後六時二十八分二十二秒○同十七日午前九時五十六分四十一秒○同日午後一時三十九分三十一秒○十月六日午前七時十一分五十一秒○同十日午後八時二十七分二十一秒○同十九日午前零時五十七分十七秒○十一月十三日午後十時五十二分五十五秒○同十五日午前九時四十分二分二十三秒○同廿八日午前一時十五分二十九秒○同廿九日午前十一時三十三分五十七秒。

今之ヲ各月ニ觀ルニ、一月五回、二月四回、三月五回、四月七回、五月十回、六月十回、七月四回、八月三回、九月六回、十月三回、十一月三回、十二月一回ニシテ、

之ヲ四季ニ區分スレバ、春季廿二回、夏季十七回、秋季十二回、冬季十回トナリ、平均十五回ニ示ス。更ニ之ヲ寒暑二候ニ分ツ時ハ、寒候ニ在リテ四十回、暑候廿一回ト爲ス可ク、平均卅回五ヲ算ス。即チ知ル、是年明治廿六年(紀元二五五三年)地震最モ多キハ、月ニ於テ五月及ヒ六月、季ニ於テ春季ニシテ、最少ナルハ月ニ於テ十二月、季ニ於テ冬季ナルコトヲ。而シテ寒暑ノ回数ハ寒候暑候ニ倍スルヲ見ル。又之ガ時刻ヲ調査スルニ、地震ノ最モ多キハ、午前九時乃至十時ニシテ合計八回、其最少ナルハ、午前三時乃至四時並ニ午後二時乃至三時ニシテ、此間共ニ一回ノ發震ヲ見ズ。地震ノ方向ハ南北二回、南々西北々東一回、南西北東二回、西南西北東零回、東西十四回、東南東西北西四回、南東北西一回、南々東北々西二回、不明ナルモノ三十五回有リ、即チ最モ多キ方向ハ東西ニシテ、不明ヲ除ケバ全數ノ半以上ヲ占メ、最少ナルハ西南西東北東ニシテ、一回ヲモ算セズ。而シテ地震ノ性質ハ、水平動十一回、水平上下兩動十五回、不明三十五回、震動緩慢ナル者七回、急劇ナル者十五回、震動微少ニシテ緩急分明ヲ缺ク者卅九回有リ。即チ水平上下兩動ノ水平動ヨリ多キコト四回ニシテ、震動緩慢ナル者ニ比シ急劇ナル者八回ノ多

明治廿七年
六月ノ震災

廿七年^{○明治〇紀元二五五四年}六月廿日午後二時零四分十秒東京地強震ス。市内ノ損害尠カラズ、建築物ニ在テハ煉瓦造土藏ノ破損殊ニ甚シク、煉瓦製煙突ハ過半崩壊挫折シ、死傷者ヲ出スニ至ル。即チ麴町區^{○市内}ニ在テハ家屋土藏ノ破損三百五十一戸ヲ算シ、神田區^{○市内}ニ於テハ全潰半潰並ニ破損スル者合セテ百五十二戸有リ。日本橋區^{○市内}同八百四十九戸、京橋區^{○市内}同五百六十九戸、芝區^{○市内}同三百四十五戸、麻布區^{○市内}同百七十七戸、赤坂區^{○市内}同百六十五戸、四谷區^{○市内}破損九十三戸、牛込區^{○市内}同百十戸、小石川區^{○市内}同百五戸、本郷區^{○市内}全潰半潰並ニ破損スル者合セテ百八十五戸、下谷區^{○市内}同百十五戸、淺草區^{○市内}同九十四戸、本所區^{○市内}同二百九十四戸、深川區^{○市内}同三百八十八戸ヲ出ス。煙突ノ倒潰シ若クハ罅裂シタルハ、麴町區^{○市内}三百五十五個、神田區^{○市内}十九個、日本

橋區^{○市内}八個、京橋區^{○市内}五十三個、芝區^{○市内}十八個、麻布區^{○市内}廿四個、赤坂區^{○市内}八十七個、四谷區^{○市内}三個、牛込區^{○市内}廿四個、小石川區^{○市内}十個、本郷區^{○市内}五個、下谷區^{○市内}六個、淺草區^{○市内}十四個、本所區^{○市内}廿個、深川區^{○市内}廿二個有リ。其他塙塙、橋梁、崖岸、道路、堤防、水路等ノ破損崩壊夥シク、地盤ノ罅裂凹落亦尠カラズ。若夫死傷者ニ至リテハ、麴町區^{○市内}十二人、神田區^{○市内}廿一人、京橋區^{○市内}卅人、芝區^{○市内}八人、赤坂區^{○市内}十八人、小石川區^{○市内}三人、本郷區^{○市内}五人、淺草區^{○市内}七人、深川區^{○市内}四十七人ヲ算シ、日本橋區^{○市内}ニハ傷者八人、下谷區^{○市内}ニハ三人、本所區^{○市内}ニハ八人有リ。一人ノ死傷者ヲ出サズルハ、麻布、四谷、牛込三區^{○市内以上}ノミ。地震ノ震原ハ、東京市近傍ニ存在シ、明治年間^{○紀元二五二八年}ニ於ル最大強震ニシテ、安政乙卯^{○安政二年(紀元二五一年)}江戶大震以後三十九年ニ起リタル者ナリト爲ス。○地震報告。

明治廿七年六月ノ震災 ハ安政二年（紀元二一五年）十月江戸大地震以來ノ大震ト稱セラレ地震報告及官報所載警視廳報告市内ノ被害ヲ調査スルコト詳也。

此地震（明治廿七年六月廿日地震）ハ武藏平原地方ヲ激動シタル強震ニシテ東京市附近ハ非常ノ損害ヲ蒙レリ。總面積一萬二千九百方里ニシテ、本年（明治廿七年）（紀元二一五年）顯著地震中第二ノ廣域ヲ有ス。而シテ強震部ハ武藏相模安房上總

下總常陸（紀元二一五年）各部伊豆（紀元二一五年）駿河（紀元二一五年）甲斐（紀元二一五年）信濃（紀元二一五年）上野（紀元二一五年）下野（紀元二一五年）磐城（紀元二一五年）

部ハ越後ヨリ日本海ニ出テ、一部ハ太平洋ノ海岸ニ沿フテ陸前ノ北部ニ達シ、南ハ遠ク伊豆御藏島邊ニ及ブ。即陸地ニテハ、遠江美濃岩代（紀元二一五年）各駿河（紀元二一五年）三河（紀元二一五年）尾張（紀元二一五年）伊勢（紀元二一五年）近江（紀元二一五年）飛騨（紀元二一五年）信濃（紀元二一五年）越後（紀元二一五年）羽前（紀元二一五年）陸前（紀元二一五年）磐城（紀元二一五年）下野（紀元二一五年）上野（紀元二一五年）甲斐（紀元二一五年）伊豆（紀元二一五年）等ノ地ヲ包有ス、面積四千〇五十方里ナリ。又微震部ハ本州ノ東北一體ノ地ニシテ、西方ハ伯耆

境ヨリ阿波徳島邊ニ迄傳播セリ、其面積約六千一百方里ナリ。今強震部内ニ於ケル震動ノ概況ヲ記センニ、東京市内ニ於テハ、去ル安政年間（紀元二一五年）ニ於ケル烈震以來曾テアラザル強震ニシテ、中央氣象臺ノ

檢測ニ依レハ、午後二時零四分十秒（明治廿七年六月廿日）ニ稍緩慢ナル微動ニ起リ、十四秒時ヲ經テ最大震動ヲ顯ハシ、水平動ハ南東、北西ノ方向ニ於テ一、三秒時間ニ付七六、〇耗ヲ示シ、上下動ハ一、〇秒時間ニ付一八、〇耗ヲ顯セリ。（東京地震事參照）其最大加速度八百八十八耗ナリ。

此地震ニ就テ被害ノ最モ大ナル地方ハ、東京灣ノ北部ニ沿ヘル低濕部、即横濱以東東京ニ至ル沿海一帯ノ地ニシテ、此邊ノ家屋ハ概ネ多少ノ損害ヲ蒙リ、殊ニ煉瓦造土藏ノ破損甚シク、煉瓦製煙突ハ過半崩壞挫折セリ。夫ヨリ内地ニ至ルニ從ヒ、震力次第ニ減殺セリト雖モ、浦和八王子邊ニテモ尙家屋ノ小破損アリテ、物品ノ毀損セラレシモノ少カラス。反之東京灣ノ南部ニ沿ヘル安房上總地方ハ、震動遙ニ弱ク、僅ニ時計ノ運動ヲ停止シ、液體ノ溢出セシニ止レリ。之レ幾分カ地質ノ異同ニ基クヘシト雖モ、然レトモ本年（明治廿七年）（紀元二一五年）十月七日ノ地震ニ比較シテ考フレハ、地質上ノ差違ハ、震動ノ強弱ニ如斯大差ヲ生スルコトナシ、且ツ震源地若シ房總半島以北ノ地ニアリタル場合ニ於テハ、上總國夷隅望陀二郡ノ沿海地ニ頗ル強烈ナル震動ヲ感スルヲ例トスレトモ、今回ノ地震ニ於テハ此事ナカリシノミナラス、陸地ヲ去ル

直徑三十餘里ナル伊豆御藏島ニ於テ、僅ニ微弱ナル震動ヲ感シタルカ如キ事實ニ照シテ考フレハ、東京灣北側ノ地ハ、南部ノ地ニ比シ、震度絶對的ニ強カリシカ如ク、從テ震源地モ、亦該市東京市ノ近傍ニ存在セルコトヲ推定シ得ヘシ。

然レトモ是等ノ強震地方ニ於テモ、地勢ニ依テ多少震度ニ強弱ノ差アリ。今東京市内ニ於ケル家屋破損ノ狀況ヲ調査スルニ、其震度低地ニ強クシテ高臺ニ弱カリシハ、一般ノ現象ニシテ、殊ニ低地ノ高臺ニ近接シタル處、若クハ高臺間ニ介在セル低濕部ハ、震動割合ニ強ク、土地ノ龜裂モ亦同處ニ多カリシハ、兩處ノ震動期相同シカラサルカ故ナリ。而シテ物體ノ轉倒、家屋ノ破損等ヨリ算出セル最大加速度ノ値ハ、深川本所邊ニ於テ約一千耗ニシテ、牛込四谷、小石川等ノ高臺ニ於テハ凡七八百耗ナリシ。震動ノ方向ハ各處區々ニシテ一樣ナラス、之レ該市東京市ハ充分震源ニ近カリシタメ、上下震動ヲ感スルコト甚タ強カリシニ依ル。然レトモ或ル一ヶ所ニ於ケル物體轉倒ノ方向ハ、往々一定セル者アリ、例令ハ深川八幡宮境内ニ於ケル石燈籠並石碑ノ轉倒ノ如キハ、孰レモ東乃至西ヲ指シ、品川高臺ニ於ケル共同墓地ノ石碑ハ、概

シテ北東、南西ニ向テ倒レ、家屋ノ破損、煙突挫折ノ方向ト全ク一定セルハ、之レ海岸ニ直接セルノ地ニシテ、地勢ニ支配セラル、コト大ナリシニ依ルヘシ。

今警視廳ノ調査ニ係ル東京市内震災被害表ヲ掲クレハ左ノ如シ。

東京府内震災被害表

死傷

種別	町		種別	村	
	死	傷		死	傷
麴田	二	三	麴田	二	三
本橋	〇	〇	本橋	〇	〇
芝	〇	〇	芝	〇	〇
麻布	〇	〇	麻布	〇	〇
赤坂	〇	〇	赤坂	〇	〇
四谷	〇	〇	四谷	〇	〇
牛込	〇	〇	牛込	〇	〇
小石川	〇	〇	小石川	〇	〇
本郷	〇	〇	本郷	〇	〇
下谷	〇	〇	下谷	〇	〇
淺草	〇	〇	淺草	〇	〇
本所	〇	〇	本所	〇	〇
深川	〇	〇	深川	〇	〇
水上	〇	〇	水上	〇	〇
品川	〇	〇	品川	〇	〇
新板橋	〇	〇	新板橋	〇	〇
千代田	〇	〇	千代田	〇	〇
小松川	〇	〇	小松川	〇	〇
八王子	〇	〇	八王子	〇	〇
府中	〇	〇	府中	〇	〇
青梅	〇	〇	青梅	〇	〇
合計	二四	三四	合計	二四	三四

本表死者ノ數ハ、震災ノ當時重傷ヲ負ヒ、爲ニ後日死去シタル者モ亦之ヲ算入セリ。

畜類ノ死傷ハ、馬一頭重傷ヲ負ヒ、一頭壓死セシノミ。

帝都時代ノ震災

計	損						破						潰		
	木			土藏			煉瓦			石			造		
	上屋二階	屋平	建築後十年未滿	上屋二階	屋平	建築後十年未滿	上屋二階	屋平	建築後十年未滿	上屋二階	屋平	建築後十年未滿	上屋二階	屋平	
	全上二十年以上	全上二十年未滿	建築後十年未滿	全上二十年以上	全上二十年未滿	建築後十年未滿	全上二十年以上	全上二十年未滿	建築後十年未滿	全上二十年以上	全上二十年未滿	建築後十年未滿	全上二十年以上	全上二十年未滿	
三五二	四五	一三二	一六一	一七九	八七三	一七一	八二二	三三	一九一	一六七	二七	三三	四	一一	二
一五二	一	一	三二	一	九九四	九四	三五五	一	三二	一	三	一	一	一	一
八四九	三三	八	三二	一七	四〇四	一〇	九七三	二	一	二	六	一	二	二	一
五六九	一四	三六	四	五	二〇二	一六	七〇五	二六	二	三六	一三四	二二	二	一五	三
三四五	四〇	一五	三	二〇	三三	六	八二七	一	一〇	一五七	二	二	二	二	二
一七七一	九	三	一	二	六三	一〇	二二二	二	九	二六	一	一	一	一	一
一六五	三四	三三	五	六	五二	一七	一	一	四三八	一	一	一	一	一	一
九三	一	一	一	一	三三	一六	一八七	五	一	一	二	一	一	一	一
一〇一〇	三三	二	六	一〇	三六	一〇	八六二	一	一	三	一	一	一	一	一
一〇五	二	一〇	二	九	三五	二	七三三	一	一	三	一	二	一	一	一
一八五	一	七	三	一	八二	四	七七二	二	一	一	一	二	一	一	一
一五	一	四	六	一	四三	四	三	一	一	二	一	一	一	一	一
九四	七	一	七	二	五八	四	五二二	一	一	一	一	一	一	一	一
二九四	五	一七	五	七	九八	二	五九四	二	一	一	一	一	一	一	一
三八八	二	〇	二	九	四〇	二	三五二	一	一	二	一	一	一	一	一
三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
三九九	二	八	六	一	三	九	一	三	四	八	七	三	〇	一	二

種別	全						潰						及		半		
	木			土藏			煉瓦			石			造		造		
	上屋二階	屋平	建築後十年未滿	上屋二階	屋平	建築後十年未滿	上屋二階	屋平	建築後十年未滿	上屋二階	屋平	建築後十年未滿	上屋二階	屋平	建築後十年未滿	上屋二階	屋平
	全上二十年以上	全上二十年未滿	建築後十年未滿	全上二十年以上	全上二十年未滿	建築後十年未滿	全上二十年以上	全上二十年未滿	建築後十年未滿	全上二十年以上	全上二十年未滿	建築後十年未滿	全上二十年以上	全上二十年未滿	建築後十年未滿	全上二十年以上	全上二十年未滿
町麴																	
田神																	
橋本日																	
橋京																	
芝																	
布麻																	
坂赤																	
谷四																	
込牛																	
川石小																	
郷本																	
谷下																	
草淺																	
所本																	
川深																	
上水																	
計合	二四	一五	九	九	三	二	二	一	三	二	一	一	三	二	一	一	一

家屋ノ毀

本表中○品川新宿全潰及半潰トハ倒潰シテ使用ニ堪エサルモノ、及ヒ類把ノ大ナル者ヲ含ム。破損トハ一部分ノ毀損ニ止マルモノヲ云フ。而シテ煉瓦造石造ノ破損ハ概シテ石材ノ接續部ニ起リ、殊ニ煉瓦製煙突ノ崩壊セラレシモノ多ク、土藏ニ在テハ壁瓦ノ墜落、龜裂等ニ係ル損害最モ多シトス。尙ホ本表破損建物ノ種別ニ依リ、試ニ其破損程度ヲ見ルニ左ノ如シ。

種別	種別		種別	種別	
	煉瓦造	土藏造		煉瓦造	土藏造
石造	一、五三四		煉瓦造	二、三九三	二七二
煉瓦造			土藏造	三、七八四	三、〇五四
土藏造			木造	三二五、一〇七	一、五八七
木造			總數	三、四七	一〇、二一
破損總數	五五	二七二	種別	八、五〇	〇、四八
種別			破損割合	三、四七	〇、四八

右ノ表ニ由テ見ルトキハ、破損ノ程度ハ煉瓦造最大ニシテ、十個ニ付一個ノ破損アリタル割合ナリ。木造最モ少ク、二百個中漸ク一個ヲ生シタル割合トナレリ。

煙突ノ破損
○品川新宿外六箇所略以下二表同。

種別	倒タレタル方							種別	
	東		西		北		南		
	東	西	東	西	北	南	北		南
麴町	一六	三	三	〇	六	〇	〇	〇	三
神田	三	一	一	四	六	五	一	一	一
日本橋	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
京橋	四	一	四	〇	〇	〇	〇	〇	〇
芝	四	一	四	一	一	一	九	〇	〇
麻布	一	二	一	二	三	三	二	五	二
赤坂	二	一	二	一	一	一	一	一	一
四谷	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
牛込	八	八	八	八	五	三	八	三	三
小石川	二	〇	二	〇	五	三	一	一	一
本郷	三	〇	三	〇	〇	〇	〇	〇	〇
下谷	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
淺草	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
本所	一	〇	一	〇	六	六	五	一	一
深川	七	二	七	一	四	一	一	一	一
水上	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
計	六二	六二	六二	六六	一〇四	八	一三	二	六

則倒潰セシ煙突ノ數ハ三百七十六個○省略箇所以下同。ニシテ、南乃至北ニ倒レタルモノ百七十八個、東乃至西ニ倒レタルモノ百三十二個ニシテ、南北ノ多キコト四十六個ナリ。更ニ各區ニ付テ之ヲ謂ヘハ、麴町・神田・小石川○以上等ニテハ多ク、南北ノ方向ニ倒レ、赤坂・牛込・深川○以上等ハ東西ノ方向ニ多ク、其他ハ區々ナリシ。

塙塙、橋梁、崖岸、道路、堤防、水路 (延長ハ間ヲ以テ表ス)

種別	町	村	破損														
			道路堤防		崖崩壊		橋梁ノ破損		木造		土造		煉瓦造		石造		
			延長	箇所	延長	箇所	延長	箇所	延長	箇所	延長	箇所	延長	箇所	延長	箇所	
町	麴	麴															
田	神	神															
橋	本日	本日															
橋	京	京															
芝		芝															
布	麻	麻															
坂	赤	赤															
谷	四	四															
込	牛	牛															
川	石小	石小															
郷	本	本															
谷	下	下															
草	淺	淺															
所	本	本															
川	深	深															
上	水	水															
計		計															

水路樋管ノ破損セシモノ、麴町内。市ニ在テ木管ノ破損一ヶ所延長五間五尺、赤坂内。市ニ在テ三個所アルモ至テ小破ナリ、又四谷内。市ニ在テ三個所延長二尺、鐵管ノ破損セシモノ、麻布内。市ニ在テ一ヶ所延長僅少ナリ。

地盤ノ變狀 (延長ハ間ヲ以テ表ス)

種別	町	村	地盤							
			合計		其他		田畑			
			延長	箇所	延長	箇所	延長			
町	麴	麴								
田	神	神								
橋	本日	本日								
橋	京	京								
芝		芝								
布	麻	麻								
坂	赤	赤								
谷	四	四								
込	牛	牛								
川	石小	石小								
郷	本	本								
谷	下	下								
草	淺	淺								
所	本	本								
川	深	深								
上	水	水								
計		計								

○東京府下震災概況 昨二十日○明治廿七年(紀元)六月ノ大震ニ因リ、東京市中震災ヲ被リシモノ左ノ如シ。午後五時三十分マテノ調査。

京橋區 築地居留地立教學校ニ於テ、男一人屋上ヨリ煉瓦崩レ壓死。●水上警察署構内諸所破損、人命ニハ異狀ナシ。

神田區 西小川町一丁目九番地ニ於テ、男一人二階ヨリ飛下リタル際負傷シ死亡。●錦町錦城學校屋上煉瓦崩レ即死一名、重傷一名アリ。

芝區 愛宕下町二丁目二番地ニ於テ、女一人煉瓦家屋ノ一部崩レ、壓死セリ。麻布區 土藏・煉瓦塀・烟突等破損ノ箇所多キモ、崩屋ノ有無未タ明ナラス、人畜ノ死傷ハ之ナキ見込ナリ。●鳥井坂町久通宮殿下御邸ノ屋根・煉瓦塀・烟突大破損、又市兵衛町御料邸家根少シク破損ス。各學校ハ無事、職工場ハ孰モ烟突破損シタルモ、人畜異狀ナシ。

赤坂區 青山御所、東宮御所トモ異狀ナシ、離宮ノ煉瓦塀破損。●近衛兵第三聯隊第三中隊中尉神代種重外兵卒十一名重傷ヲ負ヒ、其他市中ニハ潰家・負傷人等ナキ

モ、土藏ノ鉢巻・家根瓦ヲ落シ、煉瓦塀及烟突ノ少損多シ。福吉町ヨリ靈南坂町ニ至ル間、地盤ニ少シク龜裂ヲ生セリ。

淺草區 旅籠町一丁目十六番地ニ於テ女一人重傷、又榊町三番地ニ於テ男一人負傷、女一人即死、孰モ土藏ノ鉢巻壞レタルタメナリ。

深川區 小松川倉庫會社ノ煉瓦崩レ、壓死二人、重傷一人、東京紡績會社ノ煉瓦多ク崩レ、負傷十一名、内重傷四名、劇場新盛座煉瓦塀倒レ、重傷一人、清澄町煉瓦ノ防火

崩レ、壓死一人アリ。

警視廳報告○官報所載。

而シテ其震力ニ就テハ地震報告特ニ精密ニ之ヲ録ス、左ノ如シ。

前表○ニ於テ地震ノ最モ強キハ、六月二十日○明治廿七年(紀元)六月ニ於テ、午後二時零四分十秒ニ發シタルモノニシテ、最初ノ二秒時間ハ極メテ微弱ナル小震動ナリシモ、第三秒時ヨリ稍増大シテ七、○乃至八、○耗ヲ有スル震動ハ、十秒時間ニ往復震動七回ヲ顯ハシ、第十三秒時目ニ至ツテ俄然増大シ、震幅約五十耗ニ達シ、續テ最大水平動トナリ、南東北西ノ方向ニ於テ一、三秒時間ニ付七六、○耗(二寸五分一厘)ヲ示シ、夫ヨリ引續テ強烈ナル震動ヲ起スコト五回ニシテ第二十秒時ニ至リ、震力頓ニ減殺セリト雖モ、尙二十耗以上ノ震幅ヲ有スル著大ナル震動續々襲來シ、一分十秒時間ニ七十七回ヲ顯ハセリ、夫ヨリ一層微弱トナリ、四乃至五耗ヲ有スル震動四分間連續セシカ、爾後三十秒時ヲ經テ遂ニ靜止セリ、又上下動ハ發震後直ニ最大動ニ達シ一、○秒時ニ付一八、○耗(五分九厘)ヲ示シ、爾後顯著ナルコト五六秒ニシテ漸次微弱トナレリ、然レトモ一分五十秒間ハ震動尙著明ナリシ、此地震ハ震幅大ナルカ上ニ、性質稍急激ナリシカ爲メ、東京市内ヲ初メ其四近ノ地ハ、古キ家屋並ニ煙突等ノ過

半ヲ崩壞セラル、ニ至レリ。顯著地震記事參看^{○前}而シテ最大加速度ハ一秒時間ニ八百八十八耗ニシテ、最大速度ハ百八十四耗ナリ。

〔參考〕明治廿七年^{五〇紀元二}六月廿日ノ東京地震ハ、上記地震報告中之カ研究ノ一部ヲ載スト共ニ、震災豫防調査會報告亦理學博士大森房吉ノ論文ヲ揭ク其大要ニ云フ、

(一)明治二十七年^{五〇紀元二}六月二十日午後二時四分十秒發ノ地震ハ、東京ニ於テハ、安政二年^{五一紀元二}大地震以來ノ最激震トス。震動區域即一般ノ人々ガ震動ヲ感ジ得タル區域ノ半徑ハ七八十里ニシテ、其陸地總面積ハ約七千平方里ニ達セリ。勿論同等ノ大サ即震動區域ヲ有スル地震ハ、敢テ珍シトスルニ足ラズシテ、此ノ如キモノハ毎年日本ニ數回モアルコトナレドモ、幸ニシテ多クハ震原ヲ海中ニ有スルヲ以テ、震害ヲ生ズルニ至ラザルモノトス。今回震害ノ大略ヲ擧グレバ、家屋ノ全潰シタルハ少ナカリシガ、東京市中、就中低キ部分ニ於テハ、煉瓦家屋ノ大破損ヲ受ケタルモノ多ク、殊ニ家屋煖爐用烟突並ニ製造所烟突ノ大數ハ破壊セラレタリ。土藏ノ壁土ハ、往々龜裂シ、若クハ震リ落サレ、石碑石燈籠ノ類モ轉倒セルモノ

頗ル多ク、且稀ニハ低濕ノ地等ニ於テ地面ノ小龜裂ヲ生ジ、中ヨリ水ヲ噴出セル場合モアリタリ。死傷ノ數ヲ擧グレバ、東京神奈川埼玉ノ一府二縣ヲ通ジテ死二十六人傷百七十一人ナリシ。

(二)今回地震ノ際、東京市内ニテノ震動ハ、築地本所深川芝^{○以上}等ノ低地ニ於テ最甚ク、其地動ノ最大加速度ハ、物體轉倒ノ觀察ヨリ推考スルニ、一秒ニ就キ一千^ミミリメートルニ近ク、即他ノ地震ノ場合ト比較スルニ、濃尾地震ノ際名古屋^{○尾}ニ於ケル地動ノ強サノ三分ノ一乃至二分ノ一ニ當リ、尙ホ同地震ノ際根尾谷ニ於ケルモノ、凡ソ十分ノ一ナルベシ。又北海道地震ノ際根室釧路等ニ於ケル地動ト粗ボ同強ニシテ、鹿兒島地震及ビ熊本地震ノ震央地ニ於ケルモノヨリハ頗ル弱カリシ。東京市中ニテモ、本郷^{○市}其他ノ高地ニテハ、震動弱ク、其最大加速度ハ下町ニ於ケルモノ、二分一位ナルベシ。

(三)余ハ震災豫防調査會ヨリノ命ニ由リテ、東京四近ノ地ニ出張シテ震況ヲ調査セルガ横濱^{○武}藏^{○國}ニテノ震度ハ、東京ニ於ケルヨリハ稍々弱ク、其ヨリ以南鎌倉^{○相}模^{○國}邊ニ至レバ、一層弱トナリテ、格別ノ被害ナシ。東京以北ニ

アリテハ、草加鳩ヶ谷川口武藏國以上ノ邊ニ於テ震動頗ル強く、殊ニ鳩ヶ谷川口武藏國以上ニ於テノ震度ハ、東京深川邊ニテノモノト同等ナリ。浦和中野千住武藏國以上等ニ於テハ、震動稍々弱カリシ。而シテ又東京ヨリ以西ニテハ、震動次第ニ輕減シ、例之ハ新宿武藏國以上ニ於ケル震動ハ本郷市ニ於ケルモノヨリモ少ク弱シトス。震動ノ最激烈ナリシ所、即チ震央ト見做スベキ地ハ、岩槻近傍武藏國ヨリ東京ヲ經テ、東京灣ノ西部ニ延長スル一帯地ナルベシ。其方向ハ南北ニシテ、恰モ武藏平原ノ最モ低窪ナル部分ニ當リ、此ノ地下ニ於テ斷層ヲ生ジテ地震ヲ起シタルナラン。而シテ彼ノ著名ナル安房國北部ヨリ相模國三浦郡ニ延長セル一種ノ地裂線トハ、毫モ直接ノ關係ナキモノ、如シ。

(四) 強震アリタル後ニハ、通常其震央及ビ近傍ニ於テ、數日若クハ數年間時々餘震震動及ビ鳴響アルモノナルニ、今回ノ地震ニハ僅カニ數回ノ餘震アリタルノミナルハ、頗ル例外ナルノ感ナキ能ハザルガ如クナレドモ、之レ蓋シ餘震ノ少カリシニハアラズシテ、左ニ記述スルガ如ク、地震ノ大サニ比シテ震原ノ深カリシ爲ニ、餘震ノ大部分ハ地表ニ達セザリシニ由ル

ナルベシ。地震後ノ當夜ハ、許多ノ餘震アルベキヲ慮リ、時々微動計ヲ驗セシガ、別段ノ異狀アルコトナク、地ハ既ニ靜穩ノ有様ニ復歸シテアリキ。

(五) 今回ノ地震ハ、東北ノ方青森及ビ西南ノ方境ノ測候所ニテモ感ジタレドモ、此等ノ特別觀測ヲ除ケバ、即チ一般人ノ地動ヲ感ジタル區域ハ甚ダ廣キニハアラズシテ、東北ノ方ニテ仙臺近傍ヨリ、西南ノ方大阪近傍マデニ限ル。其半徑ハ平均七八十里ナルベシ。濃尾地震ノ震域半徑ハ百三十里以上ニシテ、熊本及ビ鹿兒島ニ地震ノ半徑ハ、各々四十五里及ビ四十里ナリシ。此ノ如ク今回ノ東京地震ハ、熊本鹿兒島ノ二地震ヨリモ面積ノ大ナリシコト、即チ地震ノ大ナリシニモ關ハラズ、震央ニ於ケル震動ハ、却テ此等ニ地震ノ場合ヨリモ弱カリシハ、其震原ノ深キニ由ルナラン。即チ理論上等一彈性物體ノ中ニ於ケル震動ノ振幅并ニ最大加速度ハ、中心ヨリノ距離ニ反離ニ反比例スベキモノナリトス。

(六) 震動ノ性質、今回ノ激震ハ、東京帝國大學地震學教室ニ据ヘ付ケノ強震計ヲ以テ充分ニ記錄セラレタリ。其調査ハ、別ニ故委員理學博士關谷清景及ビ本委員ノ名ヲ以テ報告トシテ提出シタレバ、就キテ見ルベシ。

上記強震計ノ記録ニ由レバ、本郷ニ於ケル最大水平動ハ七十三「ミリメートル」ナレドモ、最大上下動ハ僅ニ十「ミリメートル」ニシテ、比較的非常ニ微少ナレバ、地ハ首トシテ水平面ニ振動シタルモノトス。從テ煙突家屋其他各種ノ被害モ實際此ノ水平動ノミノ爲ニ生ジタルモノト認ムベキナリ。震動ノ性質モ亦頗ル簡單ニシテ、初期ノ微動後直ニ一回ノ最大震動ヲ來タシ、其ノ後ノ分ハ、單ニ小ナル餘波ニ過ギザリシ。蓋シ大地震ノ場合ニ際シテ、震央ニ近キ地方ニ於ケル震動ノ模様ハ、大凡ソ此ノ如キモノニシテ、地動ハ敢テ震央ヨリ遠距離ノ地若クハ平常ノ小地震ノ振動ニ於ケルガ如ク非常ニ錯雜シタルモノニハアラザルベシト思ハル。即當時東京ニ於テ轉倒物體ノ方向ガ、一方ニ多ク集リテ、反對ノ方向ニ少ナカリシ事實ハ、濃尾大震ノ際名古屋^{○尾張國}及ビ其他ノ地ニ於テモ同ク認メタル所ニシテ、此ノ臆説ヲ確ムルノ傾アルモノナリ。

既ニ震動ノ性質ガ簡單ナリト云ヘバ、勿論其方向ガ存在スルモノト知ルベシ。即前記最大水平動ハ、南七十度西ニ向テ動キタリ。

而シテ博士ハ、石碑石燈籠ノ倒レタル方向ヲ檢シ、市内ノ石燈籠中圓柱狀ノ

臺柱ヲ有スル者百五十二個、同ク角柱狀ノ臺柱ヲ有スル者八十三個、其他ノ石燈籠及石碑ノ頭部ガ落チタル場合二十一個、合計二百四十五個ヲ見、其倒レタル方向大部分ハ西南西ニ向ヒ倒レタリトシ、即チ東ト西トニ區分スレバ、八十三個ハ東方へ、百六十二個ハ西方ニ倒レ、又北ト南トニ區分スレバ、十三個ハ北方へ、百五十三個ハ南方へ倒レタルモノトス。而シテ一方向及其反對ノ方向ヲ同一ト見做シテ、總テ此等二百四十五個ノ方向ヲ(磁力偏位ノ差ヲ正シテ)平均スレバ、北七十一度、東ヨリ南七十一度、西ナル結果ヲ得、但シ最大數ハ北七十一度、東ニハ向ハズシテ、南七十一度、西ノ方ニ向ツテ倒レタルモノトス。トシ、更ニ煉瓦接合力ノ試験ヲ爲シ、煉瓦家屋及烟突七個所ヲ平均シ、煉瓦接合ノ伸張抵抗力ハ、毎平方吋ニ付キ四十四封度ナリト爲セリ。

明治廿七年
十月ノ震災

十月七日 ○明治廿七年(紀元二五五四年) 午後八時三十分零三秒東京地震ヲ。六月

廿日 ○明治廿七年(紀元二五五四年) 地震ニ亞ク強震ニシテ、市内復多少ノ被害

有リ。即チ芝區^{○市内}ニ於テハ家屋破損一戸、赤坂區^{○市内}ニ在リテハ

家屋土藏ノ損所ヲ生ズル者三戸、水道毀損シテ用水迸出シタ

ル者二個所有リ。下谷區市ニ於テハ土藏一棟破損シ、深川區市ニ在リテハ震動ノ爲洋燈ノ破壊シタル所有リ。之ヲ六月廿日元〇明治廿七年(紀元二五五四年)ノ強震ニ比スレバ、損害輕微ナリト雖モ、武藏地方ヲ震動スル地震中稍顯著ナル者ノ一ニ係リ、震原ハ房總半島以北ノ海底ニ存スト云フ。〇地震報告。官報所載。内務省報告。

明治廿七年十月ノ震災 ノ市内ニ多少ノ損害ヲ與ヘタルコトハ、

明治廿七年十月震災事蹟

此地震〇明治廿七年(紀元二五五四年)十月七日所發。ハ、武藏地方ヲ震動スル地震中、六月廿日〇明治廿七年(紀元二五五四年)ノ強震ニ亞テ強キ地震ニシテ、總面積九千八百方里ナリ。就中強震部二五五ハ武藏相模伊豆安房上總下總常陸各部駿河東甲斐東上野南下野東磐城東岩代陸前各部等ニシテ面積二千七方里ナリ。又弱震部ハ、西ハ遠江尾張ノ東部ヨリ越後ノ西部ヲ含ミ、北ハ陸前陸中陸奥ノ海岸ニ沿フテ北海道釧路ノ一部ヲ有ス、面積三千四百方里ナリ。而シテ此部域ニ包有セラル、諸國ハ、駿河西遠江東三河東尾張東信濃中央越後中央上野北下野西岩代陸前各陸中北陸奥東等ナリ。又微震部ハ、西ハ近江ヨリ

北ハ佐渡ニ達シ、東北ハ遠ク十勝釧路ニ及ビ、南ハ伊豆七島ヲ通ジテ遙ニ小笠原島近傍ニ迄傳播セシガ如シ、其陸地總面積三千七方里ナリ。

此地震ハ、六月廿日〇明治廿七年(紀元二五五四年)ノ強震ニ比スレバ、局部ノ被害少ク、陸地面積モ亦稍小ナリト雖モ、海陸ノ總面積ハ前者ヨリ却テ大ナルガ如シ。今兩者震域ノ異同ヲ比較センニ、後者ニ於ケル強震々域ハ、東西ニ長ク、殊ニ東北方ハ海岸ニ沿フテ仙臺附近ニ迄傳播セリト雖モ、前者ハ漸ク磐城ノ南部ニ止レリ。又後者ハ南方御藏島ニ於テ強震ヲ感ジ、伊豆大島ニ於テ弱震ヲ感ジタルモ、前者ハ御藏島ニテ弱震、大島ニテ微震ヲ感ジタルニ過キズ、安房上總地方ノ如キモ、前者ヨリ後者ノ震動稍々強カリシガ如シ、唯強震部域ノ北方ニ向ツテ擴カリシハ、前者ノ後者ヨリ稍大ナリシヲ見ル、然レドモ微震部域ニ於テハ、後者ハ北ハ佐渡ヨリ東、北方ハ北海道ノ南東部ヲ震動シ、殊ニ釧路ノ沿岸ニハ弱震動ヲ與ヘタルニ拘ハラズ、前者ニ於テハ、北方ハ新潟邊ヲ界トシテ佐渡地方ニ迄傳波セズ、東北ハ僅ニ青森附近ヲ微動セシニ止レリ、反之西方ニ於テハ、後者ハ僅ニ近江彦根邊ヲ界トスレドモ、前者ハ遠ク四國ノ東海岸ニ波及セリ、要スルニ後者ノ震動ハ南乃至東ニ強ク、前者ハ專ラ西部地

方ヲ震動ス、如斯感震區域ノ異ナルハ、震源ノ位置ニ關スルモノニシテ、又局部ノ被害ハ主ニ發動ノ緩急ニ基クモノナレバ、容易ニ兩者ノ關係ヲ詳ニスルヲ得ザルモ、前者ノ震源ハ、近ク東京市近傍ニシテ、震動頗急劇ナリシモ、後者ハ遙ニ房總半島以北ノ海底ニ發シタル者ニシテ、其性質稍緩慢ナル震動ニ屬スルヲ以テ、震域ノ大ナル割合ニ局處ノ被害少ナカリシ。今東京市内ニ於ケル被害ノ狀況ヲ摘記スレバ左ノ如シ。

芝區櫻川町^{○市}ニテハ、煉瓦造三階家屋ノ屋根及上張り墜落シ、四圍ノ壁ニハ數個ノ小龜裂ヲ生シ、壁上處々ニ剝落セシモ、何レモ輕微ナリシ。赤坂溜池^{○市}ナル劇場ハ、北方ニ向ヘル外壁一坪許リ頽壞シ、四隅並窓際ノ壁ニハ、斜ニ無數ノ龜裂ヲ生セシモ形狀一定セス、其他土藏ノ瓦落タル家一戶、同龜裂ヲ生シタルモノ二戶アリ。水道ハ處々少シク毀損シ、用水ヲ迸出シタル所二個所アリ。又下谷區徒町^{○市}ニテ土藏ノ西側ノ屋根五尺許墜落シ、深川洲崎邊^{○市}ニテハ洋燈ノ破壞セシ處アリ。其外尙些少ノ被害アルモ、何レモ僅微ニシテ、去ル六月廿日^{○明治廿七年(紀元二五五四年)}強震ノ際破損シタル部分ヲ再襲セラレシニ過キス。

南足立郡小臺村^{○武藏國}ニ於テハ、煉瓦製造所ノ煙突三個ハ上部ヨリ截斷セラレ、西方ニ向テ倒潰セリ。該煙突ハ既ニ甚シキ破損ヲ蒙リ、一時修理セシモノナリシニ、今回ノ地震ニ依テ全ク挫折スルニ至レリ。其他土藏ノ壁龜裂セシモノ、並ニ石燈籠ノ轉倒セシモノ各六個アリテ、寺院民家ノ屋根壁等ハ概ネ小破損ヲ爲セリ。元來同處ハ往年隅田川ヲ埋立タル地ニシテ、土地濕滋ナレハ、他ノ地方ニ比シテ震動稍強カリシカ如シ。^{○下}地震報告

○震災被害概況 本月七日^{○明治廿七年(紀元二五五四年)十月}ノ地震ニ係ル東京市内被害ノ概況ハ左ノ如シ。

神田警察署管内 土藏八卷破損及寄席屋根ニ設ケアル空氣抜六個所顛倒ノ外異狀ナシ。

芝警察署管内 芝區櫻川町八番地煉瓦造三階家屋ノ屋根及上張墜落セシモ、當時不住家屋ノタメ、人畜ニ死傷ナシ。

赤坂警察署管内 劇場演伎座外壁一坪墜落及龜裂數個所ヲ生シ、其他土藏瓦少シク落ちタルモノ一、同龜裂ヲ生シタルモノ二、水道ノ少シク破損爲ニ水ヲ吹出シタルモノ二個所。

下谷警察署管内 下谷區徒町一丁目四番地新本新助方土藏一箇所破損。
 深川警察署管内 深川區洲崎辨天町一丁目四番地荒井惣四郎方軒ニ釣シ
 アル「ランプ」一箇破損シ、又同町洲崎辨天町一丁目十番地ニ於テ女一人二階ヨ
 リ飛下リ氣絶セシモ直ニ蘇生ス。
 水上警察署管内 水上警察署事務室ノ壁少シク破損セリ。
 千住警察署管内 煉瓦製造所ノ烟突三箇所龜裂シ、及土藏壁龜裂六箇所、石
 燈籠顛倒六、其他寺院人家ノ屋根壁等ニ小破損ヲ生セリ。

内務省報告官報所載

此地震ノ震度ハ、地震報告左ノ如ク記ス、

略。上之ニ次デ強キハ、十月七日明治廿七年(紀元二五五四年)午後八時三十分零三秒ニ發セ
 シ地震ニシテ、最初ハ極メテ細微ナル震動ニ起リ、十四秒時ヲ經テ俄然強震
 トナリ、一秒時ノ後最大水平動ニ達シ、南東北西ノ方向ニ於テ二、三秒時間ニ
 付四三、七耗(一寸四分四厘)ヲ顯ハセリ、如斯著大ナル震動ヲ起スコト七秒時
 間ニ四回ニシテ、震幅ハ漸次縮少セリト雖モ、尙六七耗ヲ有スル震動ハ一分
 二十秒間連續シ、其間ニ往復震動六十三回ヲ示セリ、夫ヨリ次第ニ微弱トナ

リ、震動時間八分ニシテ遂ニ靜止セリ、而シテ最大加速度ハ百六十三耗ニシ
 テ、最大速度ハ六十耗ナリ、又上下動ハ甚ダ急激ニシテ發震後一秒時半ニシ
 テ俄然著大トナリ、一二耗以上ヲ有スル震動十三秒時間連續シ、次テ最大震
 動トナリ、一、七秒時間ニ付二、四耗ヲ顯ハシ、爾後漸次ニ靜止セリ、此地震ニ際
 シテ東京市内ハ家屋ノ小破損ヲ蒙レリ、此等兩個明治廿七年(紀元二五五四年)六月廿日及十月七日ノ
 地震ハ、明治十七年紀元二五四四年本臺ニミルン氏地震計ヲ設置セシ以來未タ嘗
 テアラザル強震ナリシ。

〔附記〕

十一月卅日明治廿七年(紀元二五五四年)午後八時卅分五十七秒東京地震フコト急劇也。
 略。上之ニ亞クハ、十一月三十日明治廿七年(紀元二五五四年)午後八時三十分五十七秒
 ニ發セシ地震ニシテ、最大水平動ハ西北西、東南東ノ方向ニ於テ〇、六秒
 時間ニ付五、〇耗ヲ示シ、最大上下動ハ〇、二秒時間ニ一、七耗ヲ顯ハセリ、
 此地震ハ震幅敢テ大ナラザルモ、性質急激ナリシカ爲メ、身體ノ感覺甚
 タ強カリシ、即チ最大加速度二百七十四耗ニシテ、最大速度ハ二十六耗
 ナリシ。

地震報告

是年元〇明治廿七年(紀ノ五五四年)ノ觀測地震總數ハ百一回有リ、細錄左ノ加シ。

一月四日午後一時三十七分二十秒〇同日午後六時零五分零四秒〇
 同日午後六時四十六分二十三秒〇同日午前二時五十分三十三秒〇
 〇同十六日午前五時二十九分四十秒〇同十八日午後三時四十五分二
 十一秒〇同二十五日午前十時四十八分十一秒〇二月二日午後七時零
 一分十四秒〇同十六日午後二時零分五十三秒〇同十八日午後十一時
 三十六分四十秒〇同二十日午前八時二十九分零三秒〇同二十四日午
 後九時卅三分五十四秒〇同二十五日午前四時十七分四十二秒〇同二
 十七日午後零時五十三分零秒〇同日午後十時五十一分三十九秒〇三
 月三日午後十時二十分零九秒〇同五日午前十一時零分三十八秒〇同
 六日午前八時二十九分三十秒〇同日午後八時三十八分五十三秒〇
 同十二日午後四時零八分零一秒〇同十三日午後七時二十八分三十八
 秒〇同十四日午前八時五十九分五十七秒〇同日午後六時十八分十一
 秒〇同十六日午前二時五十四分十八秒〇同二十日午後十一時三十三
 分五十三秒〇同二十一日午後三時零九分十秒〇同二十二日午後二時

二十九分零九秒〇同日午後二時二十九分四十二秒〇同日午後七時零
 七分十九秒〇同日午後七時二十七分四十九秒〇同日午後七時四十八
 分五十三秒〇同日午後十時零六分十六秒〇同日午後十一時五十八分
 四十五秒〇同二十三日午前零時四十五分五十四秒〇同日午前三時四
 十九分三十九秒〇同二十六日午前二時三十六分十二秒〇同日午前四
 時十二分十二秒〇同二十九日午後六時零分二十七秒〇四月一日午前
 十一時廿九分三十八秒〇同二日午前五時三十一分零三秒〇同四日午
 後八時五十七分二十五秒〇同七日午後七時零七分十秒〇同十二日午
 後十時十三分四十秒〇同十四日午前二時三十九分三十秒〇同日午前
 三時三十四分三十二秒〇同十五日午前一時五十一分零五秒〇同十七
 日午後三時五十四分五十二秒〇同二十五日午前九時二十一分五十七
 秒〇同二十八日午前一時二十三分四十九秒〇五月二日午後十一時廿
 六分三十九秒〇同四日午前十時五十一分五十五秒〇同六日午後六時
 零三分二十二秒〇同十日午前四時十一分三十九秒〇同十六日午後五
 時五十二分四十五秒〇同十七日午前六時零一分二十九秒〇同二十二

日午後十一時五十一分四十八秒○同二十八日午前八時十三分零二秒
 ○同二十九日午前六時四十五分五十六秒○六月五日午後零時二十八
 分零五秒○同十四日午後四時五十九分五十二秒○同二十日午前五時
 十六分五十二秒○同日午後二時零四分十秒○同日午後四時二十二分
 四十四秒○同日午後九時卅四分五十一秒○同二十五日午後五時十五
 分三十六秒○同二十七日午前四時二十三分五十九秒○同三十日午後
 十時五十六分二十八秒○七月九日午後九時四十一分十九秒○同十日
 午前四時三十分零秒○同日午前八時十三分二十八秒○同十二日午前
 零時五十四分二十八秒○同十七日午後十一時零一分二十一秒○同二
 十五日午前十時二十四分零二秒○八月一日午前八時四十四分三十五
 秒○同日午後四時零分十三秒○同廿九日午後七時五十五分十八秒○
 九月十二日午後九時零分十五秒○同十三日午後三時四十分零三秒○
 同十七日午後八時五十三分五十六秒○同二十一日午前八時零二分三
 十六秒○同二十二日午前七時五十八分十六秒○同日午後十時二十五
 分四十一秒○同二十四日午後四時三十二分二十八秒○同二十九日午

前七時二十三分四十三秒○十月七日午後八時三十分零三秒○同八日
 午前九時四十八分二十八秒○同二十二日午後五時三十六分三十一秒
 ○同日午後五時五十九分四十六秒○十一月十一日午前八時五十二分
 零四秒○同十五日午後九時四十二分三十九秒○同十八日午後一時零
 八分十三秒○同廿一日午後十時四十二分十四秒○同廿二日午前八時
 十三分五十三秒○同廿八日午前一時零五分二十二秒○同日午前六時
 四十四分五十一秒○同三十日午後八時三十分五十七秒○十二月一日
 午後六時三十六分五十九秒○同十六日午後一時零七分零秒○同廿三
 日午後三時零五分零一秒○同廿八日午前一時零四分三十秒○同卅一
 日午前十時零七分四十二秒。

之ヲ月ニ依テ調査スレバ、一月七回、二月八回、三月廿三回、四月十一回、五月
 九回、六月九回、七月六回、八月三回、九月八回、十月四回、十一月八回、十二月五
 回ヲ算ス、即チ月別回数ノ最多ハ三月、最少ナルハ八月也。然リト雖モ三月
 ノ廿三回中、十一回ハ根室地方強震ノ餘波ニシテ、七回ハ他地方地震ノ餘
 波ヲ感ジタル者也。其他ノ月ニ於テモ亦同様ニシテ、明ニ東京地方ノ殊發

地震ト見做ス可キ者ハ、總數五十四回ニ過ギズ。更ニ之ヲ四季ニ分ツ時ハ、春季四十三回、夏季十八回、秋季冬季各二十回トナリ、平均廿五回ニ示シ、春季ニ多クシテ、夏季ニ少シ。尙之ヲ寒暑二候ニ區分スレバ、寒候五十五回、暑候四十六回、平均五十回五ヲ算シ、寒候回数ノ暑候ヨリ多キコト九回也。又之ヲ時刻ヨリ觀レバ、午前八時乃至九時地震最モ多ク九回ヲ示シ、最少ナルハ午前零時乃至一時、午前三時乃至四時、午前七時乃至八時、午前九時乃至十時、午前十一時乃至正午及午後零時乃至一時ニシテ共ニ二回ヲ算スルニ過ギズ。地震ノ方向ハ、南北五回、南々西北々東四回、南西北東二回、西一回、不明六十五回也。即チ方向ノ最モ多キハ東西ニシテ、最少ナルハ西南西東北東及南々東北々西ニシテ共ニ一回ヲ數フ。次ニ地震ノ性質ハ水平動十七回、水平上下兩動十八回、震動微少ニシテ不明ナル者六十六回有リ、又震動ノ緩慢ナル者廿四回、急劇ナル者十回、緩急不明六十七回ヲ算ス。即チ水平上下兩動ノ水平動ヲ超ユルコト一回、急劇ナル震動ニ比シ緩慢ナル者ノ多キコト十四回也。

明治廿八年ノ震災

廿八年^{〇明治二五年}〇^{〇紀元二五五年}一月十八日夜、常陸地方地震フコト強烈、東京亦強震有リ。同日^{〇明治廿八年}〇^{〇紀元二五五年}一月十八日、午後十時四十八分二十四秒ノ地震即是也。市内損害主ナル者ヲ舉クレハ、麴町區^{〇市}ニ於テ家屋ノ破損廿五戸、神田區^{〇市}同百廿九戸、日本橋區^{〇市}半潰並ニ破損合セテ百五十一戸、京橋區^{〇市}同六十二戸、芝區^{〇市}同百十二戸、麻布區^{〇市}同五十六戸、赤坂區^{〇市}破損百四十四戸、四谷區^{〇市}全潰並ニ破損合セテ十四戸、牛込區^{〇市}破損七戸、小石川區^{〇市}同十九戸、本郷區^{〇市}同卅五戸、下谷區^{〇市}同百廿六戸、淺草區^{〇市}同七十六戸、本所區^{〇市}半潰破損合セテ百十三戸、深川區^{〇市}全潰破損合セテ七十八戸有リ。烟突ノ破損スル者麴町區^{〇市}一個、神田區^{〇市}三個、牛込區^{〇市}一個、下谷區^{〇市}全潰破損合セテ五個、淺草區^{〇市}破損三個、本所區^{〇市}同廿七個、深川區^{〇市}同二個有リ。死傷ハ、神田區^{〇市}ニ七人、傷者日本橋芝兩區^{〇市}ニ各一人、麻布赤坂二區^{〇市}ニ各三

人、下谷區^{○市}一人、淺草本所兩區^{○市}ニ各二人ヲ出ス。其他各區墻
塀、石壁、橋梁等多少ノ損所ヲ生ジ、地盤罅裂シ、若クハ凹落スル
者兩三個所有リ。蓋此地震ハ常陸地方ヨリ武藏平原ヲ震動ス
ル地震中最モ著大ナル者也。^{○地震報告。官報所載内。務省報告。同警視廳報告。}

明治廿八年ノ震災 ハ、下ニ記ス所ノ一月十八日^{○明治廿八年(紀元二五五五年)一月。午後十時四十}
八分二十四秒ニ起リタル地震ニシテ、其市内ニ與ヘタル損害ハ、官報所載内務
省報告及警視廳報告ニ詳也。

○東京府下震災概況 本月^{○明治廿八年(紀元二五五五年)一月。}十八日夜東京府下震災ノ概況
一昨十九日^{○明治廿八年(紀元二五五五年)一月。}警視廳ヨリ左ノ如ク報告アリ。

麴町警察署管内 建物破損住家十二棟、土藏物置十三棟、壁破損一箇所、地盤
龜裂二箇所、孰モ僅少ナリ、人畜死傷ナシ。

神田警察署管内 紺屋町四十一番地洋服裁縫職岩崎國太郎傭森元種雄(二
十年)土藏鉢卷落チ面部ニ負傷、前齒二本缺ク、生命ニ障ナシ。表神保町二番
地永井音次郎長女ます(二十二年)煉瓦塀倒レ即死、右同人方群馬縣平民宮

澤喜次郎(三十六年)同所ニテ負傷シ、其他土藏ノ大破十五、小破四十九、家屋
ノ大破三、小破二十四、煉化塀大破二、小破一、烟突折レ四、煉瓦家屋大破一、小
破二、勸業場小破一、劇場小破一。

日本橋警察署管内 箱崎町二丁目十八番地福島角次郎方半潰一戸、其際浴
客森野淺吉長女ひで(二十三年)左足ニ微傷ヲ負ヘリ、其他取調中、破損概シ
テ少キ模様ナリ。

京橋警察署管内 入船町四丁目四番地白石東藏所有煉瓦造空屋半壞、人畜
異狀ナシ。

芝警察署管内 露月町十八番地荷車輓前橋辰五郎妻その(五十一年)ハ、隣家
ノ壁墜落シテ前橋方ノ屋根天井ヲ打抜キ、爲ニ腰腕ノ骨ヲ挫キ、面部ニ負
傷セリ、高輪南町ニ在ル煉瓦便所破壞、公園地内徳川家靈廟内ニ在ル燈籠
三箇倒レ、其他家屋土藏ノ小破損十箇所餘。

麻布警察署管内 土藏破損十六、家屋十、土塀煉瓦塀ノ破損四、煉瓦屋ノ龜裂
一、地盤ノ龜裂一、烟突引針金切斷一、谷町二十七番地荒木半二郎店ノ藥瓶
數十本破碎シタリ、負傷二人、輕傷其他異狀ナシ、當署煉瓦塀少シク龜裂ヤ

リ。

赤坂警察署管内 庇ノ顛落二、烟突顛倒一、電話線切斷一、二階ヨリ飛下リ一時絶息セシ者一人、田町一丁目十番地安野金次郎母たつ(六十二年)妻なか(二十四年)同居ノ者佐々木信應ノ三人ハ、戶外ニ出デントスルトキ屋根庇落ち、たつは前額負傷、腰頸及手足ヲ打撲シ、なかハ頰ニ擦傷、信應ハ頭手足ヲ打撲セリ、孰モ生命ニ支障ナシ。其他土藏破損六十、家屋破損七十七、垣ノ破損八、烟突破損六、燈籠倒レタルモノ十六。

四谷警察署管内 傳馬町二丁目十四番地、石坂とく所有家屋、井上兵二郎居住家屋、同番地ニ在ル土藏ノ鉢巻墜落ノタメ、屋根全體破壊シタルモ、人畜死傷ナシ。

牛込警察署管内 昨夜○明治廿八年(紀元二五五五年)一月十八日ノ震災ニ因リ、原町ニ於テ土藏ノ屋根瓦十枚許墜落シ、揚場町ニ於テ土藏ノ腰巻少許破損ノ箇所アリ、其他人畜異狀ナシ、概シテ人民擾カサル模様ナリ。

小石川警察署管内 昨夜○明治廿八年(紀元二五五五年)一月十八日地震ノタメ、屋根瓦落ちタル箇所四、庇落ちタル箇所四、塙三箇所全壊、他ハ異狀ナシ。

本郷警察署管内 土藏ノ腰巻墜落五箇所、土藏煉瓦破損一箇所。

下谷警察署管内 烟突折レ一、大破一家屋、壁落五、土藏ノ瓦壁落チ十七、神社壁落一、帝國博物館内破損一。

淺草警察署管内 負傷男一人、女一人、土藏破損二十六、家屋破損十五、烟突破損三、煉瓦塙一、土塙一。

本所警察署管内 人畜死傷ナシ、當署官舎煉瓦塙悉ク倒レタリ、其他土藏破損六十七、煉瓦家屋一、木造家屋三十六、地盤龜裂一、燈籠顛倒一、瓦落チ十九、石垣崩レ一、煉瓦塙崩レ四、樹木ノ顛倒二、煉瓦烟突破損四、石碑倒レ二十五、土塙倒レ一、物置二、破損一、橋上ノ瓦斯燈倒レ一、橋臺煉瓦ノ破損一、詳細ハ取調中。

深川警察署管内 人畜死傷潰屋ナキモ、多少ノ被害アリ。

水上警察署管内 昨夜○明治廿八年(紀元二五五五年)一月十八日ノ地震ハ異狀ナシ、署内四壁ニ龜裂ヲ生シ、會議所擊劔場ノ腕木墜落セリ、大井村分署モ異狀ナシ。

品川警察署管内 土藏鉢巻落チタルモノ五、土藏瓦墜落ノ外被害ナシ。
新宿警察署管内 人畜死傷並ニ大破ナシ、詳細ハ取調中。